

目次

第0部	はじめに.....	1
第1章	事業概要.....	1
第2章	事業の内容について.....	1
第3章	事業の実施意義や必要性.....	2
第1部	調査報告.....	5
第1章	農業大学の現況調査.....	6
1.1	農業大学の現況に関する情報収集.....	7
1.1.1	農業大学の現況に関する情報収集の結果.....	8
1.1.2	カリキュラムに関するまとめ.....	117
1.1.3	卒業生の進路状況に関するまとめ.....	117
1.2	農業大学対象の郵送アンケート調査.....	120
1.2.1	調査概要.....	120
1.2.2	調査結果.....	122
1.2.2.1	育成を目指している人材像.....	122
1.2.2.2	学生の出身校.....	123
1.2.2.3	ターゲットとしている学生の進路.....	124
1.2.2.4	学生指導上重視している知識やスキル.....	126
1.2.2.5	重視している知識やスキルを身につけさせる上での課題と解決策・工夫等.....	129
1.2.2.6	応募状況・入学状況.....	133
1.2.2.7	近年の学生の進路状況.....	134
1.2.2.8	進路指導上の課題と解決策・工夫等.....	136
1.2.2.9	他の教育機関や農業法人、農協等との連携.....	140
1.2.2.10	農業法人や農協等から受けている要望.....	142
1.2.2.11	これからの農業人材を育成する上での方針、今後の展開予定等.....	143
1.2.2.12	農業人材育成やわが国の農業に関する自由意見.....	146
1.3	宮崎県立農業大学へのヒアリング.....	147
1.3.1	調査概要.....	147
1.3.2	調査結果.....	147
1.3.3	調査のまとめ.....	154
第2章	宮崎県、宮崎市関連機関の取組に関する調査.....	155
2.1	宮崎県 農政水産部 地域農業推進課へのヒアリング.....	155
2.1.1	調査概要.....	155
2.1.2	調査結果.....	155

2.2	公益社団法人 宮崎県農業振興公社へのヒアリング	166
2.2.1	調査概要	166
2.2.2	調査結果	166
2.3	みやPEC 推進機構へのヒアリング	168
2.3.1	調査概要	168
2.3.2	調査結果	168
第3章	農業法人の現況調査	169
3.1	農業法人対象の郵送アンケート	169
3.1.1	調査概要	169
3.1.2	調査結果	171
3.1.2.1	主要生産物	171
3.1.2.2	採用人数	172
3.1.2.3	主な採用ルート	175
3.1.2.4	入社時に必要な知識やスキル	176
3.1.2.5	農業人材を育成する教育機関に対する人材育成上の要望	177
3.1.2.6	社員の評価方法	178
3.1.2.7	近年の農業や将来展望等に関する自由意見	179
3.1.2.8	6次産業化に取り組んでいるか	180
3.1.2.9	6次産業化の事例について	181
3.1.2.10	6次産業化に関連した自由意見	185
3.2	農業法人対象のヒアリング	186
3.2.1	有限会社グリーンハウス宮崎へのヒアリング	186
3.2.1.1	調査概要	186
3.2.1.2	調査結果	187
3.2.2	有限会社加藤えのきへのヒアリング	191
3.2.2.1	調査概要	191
3.2.2.2	調査結果	192
3.2.3	有限会社福富農産へのヒアリング	195
3.2.3.1	調査概要	195
3.2.3.2	調査結果	196
3.2.4	大山食品株式会社へのヒアリング	200
3.2.4.1	調査概要	200
3.2.4.2	調査結果	200
3.2.5	有限会社新福青果へのヒアリング	203
3.2.5.1	調査概要	203
3.2.5.2	調査結果	204

第2部	開発報告	207
第1章	教育プログラム開発	207
1.1	教育プログラム開発の基本的な考え方.....	207
1.2	育成すべき人材像の検討.....	208
1.3	知識体系、スキル体系、マインドの構築.....	210
1.3.1	知識体系.....	210
1.3.2	スキル体系.....	213
1.3.3	社会人・職業人マインド.....	214
1.4	カリキュラム構築.....	215
1.4.1	事業計画段階のカリキュラムのイメージ	215
1.4.2	カリキュラムの第一案.....	215
1.4.3	最終的なカリキュラム案の構築	216
1.4.4	カリキュラムの実際	217
1.4.4.1	農業総合の科目一覧.....	219
1.4.4.2	ビジネス基礎の科目一覧	222
1.4.4.3	職業とキャリアの科目一覧.....	222
1.4.4.4	アグリビジネスの科目一覧.....	223
1.4.4.5	地域の支援の科目一覧.....	223
1.4.4.6	一般教養の科目一覧.....	224
1.4.4.7	その他の科目一覧.....	225
1.5	カリキュラムの補足事項.....	226
第2章	実証講座設計	227
2.1	実証講座の計画	227
第3章	達成度評価に関する検討.....	229
第4章	成果の普及、次年度以降の課題等	230

<実施委員会の構成>

①構成機関

構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校	取りまとめ	宮崎県
学校法人九州総合学院 九州工科自動車専門学校	調査・開発	熊本県
学校法人龍澤学館 専門学校盛岡カレッジオブビジネス	調査	岩手県
学校法人北杜学園 仙台大原簿記情報公務員専門学校	調査	宮城県
学校法人有坂中央学園 中央農業グリーン専門学校	開発・実証	群馬県
学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校	開発・実証	千葉県
宮崎大学 農学部	開発・実証	宮崎県
宮崎県立農業大学校	開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院	調査	宮崎県
宮崎県農業協同組合中央会	調査	宮崎県
宮崎県経済農業組合連合会	調査	宮崎県
社団法人宮崎県農業法人経営者協会	開発	宮崎県
社団法人宮崎県商工会議所連合会	調査	宮崎県
宮崎県中小企業団体中央会	開発	宮崎県
宮崎県商工会連合会	開発	宮崎県
財団法人宮崎県産業支援財団	調査	宮崎県
社団法人宮崎県農業振興公社	調査	宮崎県
みやPEC推進機構	調査	宮崎県
宮崎県 農政水産部 地域農業推進課 連携支援室	調査	宮崎県
宮崎県 商工観光労働部 工業支援課	調査	宮崎県
社団法人宮崎県 JA 食品開発研究所	調査	宮崎県
九州工科自動車専門学校 農業人材育成科	実証	熊本県
株式会社九州コミュニティーカレッジ	開発	熊本県

②協力機関

構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
宮崎県食品産業協議会	助言	宮崎県
有限会社綾わくわくファーム	助言	宮崎県
熊本 JA かみましき農業協同組合	助言	熊本県
有限会社山都プランニング	助言	熊本県
財団法人学びやの里 木魂館	助言	熊本県

第0部 はじめに

第1章 事業概要

我が国の食料自給率は、カロリーベースで 39%となり、さらに低下傾向にある。また、全国の農業従事者約 260 万人の内、35 歳未満はわずかに 5%と、後継者不足も深刻な課題である。このような課題を解決し、地域の農業を振興させるためには、農業の 6 次産業化を推進し、地域ぐるみの取組に貢献できる実践的人材の育成が急務である。

また、宮崎県の農業は、野菜や畜産での全国シェアが高い。特に野菜は、温暖な気候や標高差等を利用して産地が県内全域に形成され、全国有数の野菜産地となっている。ところが、マンゴーや宮崎牛等に比べると、宮崎産野菜（さといも・キュウリ・ピーマン等の出荷量は全国トップレベル）のブランド化は不十分である。マンゴーでの成功事例を他の野菜でも実現することが、宮崎県の農業のさらなる振興につながる。そこで、野菜を中心に、適地適作による生産と、消費者のニーズにあった加工、販売を組み合わせることでブランド化し、全国にアピールする仕組みが必要となってくる。

本事業では、このような実情を踏まえ、生産から加工、流通、ビジネス創出をカバーするアグリビジネス人材の育成モデルを構築した。そして、構築した教育プログラムの教育効果や有用性を検証するための実証講座を設計した。さらに、学習者の達成度を評価する手法を検討した。次年度以降、実証講座を宮崎県で実施するとともに、熊本県でも並行的に実施する。このようにして地域による最適な運用方法を探りつつ、その後は対象とする地域にマッチするよう再編成して全国へ普及させ、農業の振興に貢献することを目指した。

第2章 事業の内容について

本事業では、生産から加工、流通、ビジネス創出までカバーするアグリビジネス人材の育成モデル構築を行った。そのために、以下のような取組を実施した。

①調査

農業大学校で実施されている研修や講座のカリキュラム・教材に関する情報収集を行った。また、学生の応募状況や進路状況についても調査を行った。そして、宮崎県や宮崎市、及びそれらの関連機関を対象として、本県の農業振興のためにどのような取組を実施しているかをヒアリングによって調査した。さらに、農業法人や食品加工流通企業、関連団体等の協力の下、ヒアリングやアンケート等を実施し、宮崎県における農産物のブランド化

や農業の6次産業化に関する成功事例や失敗事例について調査研究を行った。

②教育プログラム開発

調査結果を基に、以下の手順により2年間・1,995時間分のカリキュラムを一案として構築した。

- (1) 調査結果から、アグリビジネス人材に求められる必要な知識、技術等を洗い出し、知識体系（BOK：Body Of Knowledge）、スキル体系、社会人・職業人マインドを構築した。
- (2) 知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドをもとに、本カリキュラムで育成する人材像や前提条件を定義した。
- (3) 知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドの知識や技術・技能、マインドを集約し、宮崎のアグリビジネス人材を創出するために新たに必要となる科目を設定した。
- (4) 得られた科目間の依存関係を定義した。
- (5) 各科目を系統化、カリキュラムを構築した。

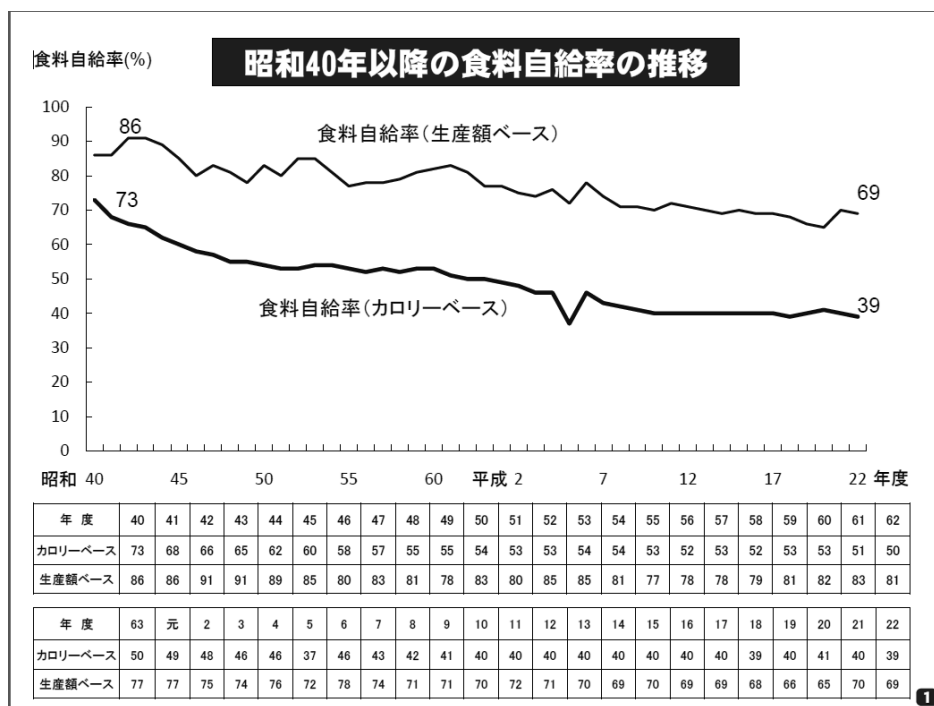
さらに、構築したカリキュラムで用いる教材の基本設計を行った。

構築したカリキュラムから中核部分を抽出し、教育プログラムの教育効果や有用性を検証するための実証講座を設計した。

また、こうして得られた知識体系やスキル体系、社会人・職業人マインドをもとに、学習者の達成度評価の手法について検討した。

第3章 事業の実施意義や必要性

農林水産省によると、平成22年度における我が国の食料自給率は、カロリーベースで39%であった。これは、前年度に比べて1ポイント低下している。昭和40年度における食料自給率はカロリーベースで73%であり、これ以降、食料自給率は低下傾向にある。この食料自給率をいかに上昇させるかということが、近年の農業を取り巻く重要な課題の1つとなっている。



図表 1 農林水産省「平成 22 年度食料自給率をめぐる事情」より

また、農家の後継者不足も深刻である。農林水産省の「平成 23 年農業構造動態調査」の結果によると、平成 23 年 2 月 1 日現在、販売農家の農業就業人口は約 260 万人であり、平均年齢は 65.8 歳、35 歳未満はわずか 5%であるという。先述の食料自給率を高めるためにも、若い世代の農家を増やすことは効果的であり、その対策も急がれる。

さらに、TPP 参加への動きにより、安価な海外産農作物の輸入増加に対する国内農家の不安や反発は高まっている。価格だけでなく、品質面でも海外産農作物と競えるような農作物を生産し、流通させていくことが、国内の農業の振興につながる。

以上の課題を解決するためには、農業の 6 次産業化を推進していく必要がある。そこで、生産から加工、流通、ビジネス創出等に関する知識やスキルを身につけ、農業の 6 次産業化を推進し、地域ぐるみの取組に貢献できる実践的人材の育成が急務である。

このような課題を解決するために、例えば、農林水産省は「食と農林漁業の再生～重点施策～」¹に取り組んでいる。この取組では、「美味しい」「安全」「環境にやさしい」という持ち味を再構築する取組の推進や、需要に応じた農業の実現を目指している。

宮崎県でも、平成 23 年 3 月に、宮崎県協同農業普及事業の実施に関する方針として、以

¹ <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/saisei/sesaku.html>

下が策定された。

- ・意欲ある多様な担い手への支援
- ・みやざきらしい産地づくりと農業の6次産業化等の支援
- ・持続可能な農業生産や農畜産物の安全性確保に向けた支援
- ・活力ある農村の振興に向けた地域ぐるみの取組に対する支援

このように、国や自治体によって様々な取組がなされているが、専門学校は人材育成という面で貢献できるはずである。そこで本事業では、農業法人等でのインターンを含め、農業法人等に就職する「就職就農」を見据えたカリキュラムを構築した。また、農林水産省には、「青年就農給付金」²という制度があり、都道府県が認める道府県農業大学校や先進農家・先進農業法人等で研修を受ける就農者（概ね1年以上、1年につき概ね1,200時間以上）に、最長2年間、年間150万円が給付される（「準備型」の場合）。給付条件として認められる教育機関が増え、新規就農まで支援する体制が整うことで、若い世代の農業従事者の増加につながり、6次産業化と合わせて、国内の農業の振興につながっていく。

² http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html

第1部 調査報告

本事業では、地域の農業振興に貢献できるアグリビジネス人材の育成プログラムの開発を行った。教育プログラム開発に先立ち、以下の3つの調査を行った。

①農業大学校の現況調査

全国の農業大学校で実施されている農業人材育成カリキュラムや、入学者数、卒業生の進路、教育上の課題等を、インターネットを中心とした情報収集、アンケート、ヒアリングによって調査した。

②宮崎県、宮崎市関連機関の取組に関する調査

宮崎県や宮崎市、及びそれらの関連機関が取り組んでいる、農業関連、6次産業化関連の施策等について、ヒアリングによって調査した。

③農業法人の現況調査

宮崎県、熊本県、鹿児島県の農業法人を対象とし、各農業法人の取組や6次産業化の事例、採用人数、求める人材像等について、アンケートやヒアリングによって調査した。

これら3つの調査の結果を分析し、宮崎県を中心とする農業人材育成上の課題を洗い出し、解決策を検討した。またそれらを基礎資料とし、育成すべき人材像を定め、それに対応した教育プログラムを開発した。

第1章 農業大学校の現況調査

全国農業大学校協議会によると、農業大学校の設置目的は次のように述べられている。³

農業大学校等は、効率的かつ安定的な農業経営体を担うべき青年農業者を育成するため、農業後継者たる農業青年その他農業を担うべき者に対し、農業の改善または農村生活の向上に関する科学的技術及び知識を習得するための実践的な研修教育を行うことを目的として設置されています。

農業には後継者不足という大きな課題があるが、上記のように、農業大学校は農業の後継者を長年にわたり育成している。特に、所在道府県の農業人材育成に取り組んでいる。本事業でも、地域、特に宮崎県における農業の後継者を育成することが一つの目的であるので、まずは農業大学校に関する現況の調査を行った。

本調査では、以下の3つの取組を行った。

(1) 農業大学校の現況に関する情報収集

公立の農業大学校42校⁴を対象に、設置している学科やカリキュラム、定員、入学者数、卒業生の進路等に関する情報収集を行った。

(2) 農業大学校対象の郵送アンケート

全国農業大学校協議会の会員校の内、宮崎県立農業大学校を除く45校(公立41校、民間4校)に郵送アンケートを実施した。宮崎県立農業大学校は(3)のヒアリングで別に調査を行った。

(3) 宮崎県立農業大学校対象のヒアリング

宮崎県立農業大学校には、実際に訪問して、ヒアリング形式で現況に関する調査を行った。

以下、各調査の結果を列記する。

³ <http://www3.ocn.ne.jp/~noudaiky/>

⁴ 全国農業大学校協議会の会員校。秋田県、東京都、石川県、富山県、福井県には、同協議会の会員校がない。なお、石川県には金沢農業大学校がある。

1.1 農業大学校の現況に関する情報収集

公立農業大学校が、所在する道府県の農業人材を育成している現況について、インターネットによる情報収集を中心とした調査を行った。調査項目は、以下の通りである。

- ・ 学科、定員
- ・ カリキュラム（科目）
- ・ 取得目標資格・技能
- ・ 卒業生の進路状況
- ・ 現状の学生数

これらについて情報収集を行ったが、ホームページ上で公開されている情報は各大学校によって、項目や詳しきの程度が大きく異なる⁵。また、公開されている情報がいつの時点のものであるかもまちまちであり、統一されているわけではない。しかし、今回は大まかな傾向をつかむことを目的とするため、こうした差異には目をつむり、情報を収集した。

なお、卒業生の進路状況は、公開されている情報を基に、「就農（卒業直後）」「農業法人」「研修後就農」「進学」「就職」「その他」「未定」に分類した。公開されている情報がこの分類に合わない場合は、備考欄に注記するなどしている。

また、空欄の所は、ホームページ等で情報が公開されていないものである。

以下、各農業大学校の調査結果を列記する。

⁵ 例えば、卒業生の進路状況が、単年度における人数で示されているところもあれば、これまでの累計の割合で示されているところもある。

1.1.1 農業大学の現況に関する情報収集の結果

農業大学校名	北海道立農業大学校
ホームページURL	www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/ngd/
学科・定員など	<p>養成課程 合計 60 名 2 年課程</p> <p>畜産経営学科：乳牛コース・肉牛コース</p> <p>畑作園芸経営学科：畑作コース・園芸コース</p> <p>研修部門 10 名 2 年課程</p> <p>稲作経営専攻コース</p> <p>研究課程 10 名 2 年課程</p> <p>農業経営研究科：畜産専攻・畑園専攻</p>

カリキュラム（科目）	畜産経営学科 必須科目	畜産経営学科 選択科目
		卒業論文・プロジェクト概論
	プロジェクト実践 1・プロジェクト実践 2	家畜繁殖学 2・家畜繁殖学演習
	畜産機械施設演習・家畜栄養学 1・家畜解剖学	家畜環境論
	家畜管理論・飼料作物学・生物工学・家畜飼養論	家畜衛生学
	乳牛飼養論・肉牛飼養論	家畜衛生演習
	家畜繁殖学 1・家畜育種論・専攻実習・体験学習	畜産物加工流通論
	畑作園芸経営学科 必須科目	畑作園芸経営学科 選択科目
	卒業論文・プロジェクト概論	ばれいしょ栽培論・てんさい栽培論
	プロジェクト実践 1・プロジェクト実践 2	豆類栽培論・葉菜類栽培論
	畑作園芸機械施設演習・生物工学・生物工学実験	果菜類栽培論・西洋野菜栽培論
	畑作栽培概論・野菜栽培概論・植物生理概論	花き栽培論・根菜類栽培論
	作物保護・土壌肥料実験・専攻実習・体験学習	農産物加工流通論
	稲作経営専攻コース専門必修科目	専門選択科目
	農業簿記・経営分析論・稲作技術論	異業種研修
	経営計画論・稲作技術論演習・体験学習	
	拓殖大学北海道短期大学にて	拓殖大学北海道短期大学にて

	環境農学科・環境農学コース専門必修科目	環境農学科・環境農学コース専門選択科目
	環境土壌学・クリーン防除学・農業気象学	水稻栽培学・畑作物栽培学
	農業簿記論・農業実習 1, 2	花き生産学・野菜生産学
	1年ゼミナール・2年ゼミナール	総合講座（農業技術）・総合講座（加工・流通）
	拓殖大学北海道短期大学にて	農産加工物研修・グリーンツーリズム実践論
	環境農学科・環境農学コース教養必修科目	フラワーアレンジメント実習
	生命現象のしくみ・自然界のしくみ	農業機械学・機械化研修・作物栄養診断実験
	クリーン農業論・作物栽培概論・哲学	フラワーアレンジメント実習
	総合英語 1,2・英語コミュニケーション 1, 2	
	生涯スポーツ演習	
	農業経営研究科 共通必修科目	農業経営研究科 専攻必修科目
	農業経済・農業経営・農協・農業団体論	畜産経営学・家畜飼養特論
	農業経営組織論・農業経営財務管理・経営計画	農産経営学・作物栽培特論
	農業経営税務、長期計画演習、専門研究	農業経営研究科 共通選択科目
	環境保全演習・農業法人実務・農業技術概論	英会話・作物栽培基礎・土壌肥料演習
	組織利用演習・農業政策・農業統計・農業機械	マネージメントコミュニケーション
	農畜産加工・販売実習・農業組織計画演習	労働衛生・労働管理・農業情報処理演習
	総合実習 1, 2・農業マーケティング演習	農家視察実習・農業特別実習・特別講座
	研究課題計画演習 1, 2・卒業論文	農業経営研究科 畜産専攻選択科目
		繁殖実践強化演習

取得目標資格・技能	農業機械士・危険物取扱者（乙種4類）・溶接技能者（ガス・アーク溶接）・毒物取扱者 家畜人工授精師・削蹄師
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
	68%		6%	14%	12%			

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	青森県営農大学校
ホームページURL	www.applenet.jp/~einou/
学科・定員など	70名 2年課程 畑作園芸課程：野菜コース・花きコース 果樹課程：りんごコース・一般果樹コース 畜産課程：酪農コース・肉牛コース・養豚コース

カリキュラム（科目）	畑作園芸課程共通	野菜コース	花きコース
	連作障害回避のため、畑作物と野菜及び青刈り作物を組み合わせた輪作体系	水稻及び露地野菜の省力化技術、高品質・多収技術	一・二年草（トルコギキョウ、デルフィニウム等）の栽培技術
	土壌診断に基づく堆肥・土壌改良資材の投入等土壌管理技術	新技術や新しい品種・作型の栽培技術	宿根草（キク類等）の栽培技術
		「パッシブ水耕」「樽水耕」「高設水耕」環境に優しく低コストでできる水耕栽培技術	球根類（グラジオラス、アルストロメリア等）の栽培技術
	減化学肥料・減農薬等環境負荷の少ない栽培技術	水稻・野菜・花きの組合わせ及び施設の通年利用等による効率的経営技術	鉢花類（シクラメン、花壇苗等）の栽培技術
	新作物・養液栽培等先端技術		切り花類及び鉢花における開花調節技術
	果樹課程共通	微生物資材、生物農薬等を使用した環境に優しい「エコ農業」の推進	一般果樹コース
	果樹の生態観察に基づく作業適期判断方法		雨よけ等施設栽培方法の習得
	病害虫発生状況観察に基づく農薬散布時期判定方法		地力や気象条件に適合した作目及び品種選択方法
	果実の食味等熟度判定に基づく収穫時期判断方法	トレーサビリティの実施による野菜栽培情報の開示	販売を意識した収穫果品質管理方法
	畜産課程共通	りんごコース	肉牛コース
	家畜の繁殖生理、栄養生理、衛生、育種の基礎的知識	台木及び栽植様式に由来する栽培管理方法	電気牧柵利用による放牧草地の有効利用と放牧管理技術
		家畜の体構造と各器官の	主要品種及び有望品種の栽培特性の理解

	機能の基礎知識	施肥、剪定等樹勢管理技術	養豚コース
	家畜飼養管理の基礎的知識と基本的飼養管理技術	酪農コース	養豚の基本的飼養技術
		施肥、剪定等樹勢管理技術	養豚経営技術
	草量の確保のための、草地の肥培管理技術の習得	術 高泌乳牛に対応した飼養管理技術	繁殖から肥育までの一貫経営による飼養管理技術
	環境保全型畜産経営の習得	牛群検定事業を活用した経営管理技術	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車免許（農耕車限定）・けん引免許（農耕車限定）・ 産業用無人ヘリコプターオペレーター技能認定証（希望者からの選抜） 車両系建設機械（整地・運搬等）運転技能講習（3t以上）・フォークリフト運転技能講習 チェーンソー特別教育・刈払機特別教育・アーク溶接特別教育・ガス溶接技能講習 農業機械士・毒物劇物取扱者（一般）・危険物取扱者資格（乙種第4類） 家畜人工授精師（家畜人工授精）・家畜商免許 茶道（裏千家淡交会、初級）・華道（池坊、初伝）
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	14名		1名	1名	19名	8名	

備考：平成23年卒業生43名の内訳。

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	岩手県立農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.iwate.jp/~hp2581/
学科・定員など	本科 70名 2年課程 農産園芸学科 (50名) 農産経営科・野菜経営科・果樹経営科・花き経営科 畜産学科 (20名) 酪農経営科・肉畜経営科 研究 20名 1年課程

カリキュラム (科目)	農産経営科	野菜経営科
	作物と環境保全・作物生理	作物と環境保全
応用昆虫学・植物病理学	応用昆虫学・植物病理学	
稲作栽培・畑作栽培	野菜栽培	
農産経営・農産物加工	野菜経営管理・農産物加工概論	
無人ヘリ講習	専攻実習・卒業研究	
専攻実習・卒業研究	果菜類の施設栽培	
稲作栽培 ・高性能農業機械化栽培技術の習得 ・学生がそれぞれ1～2枚の水田(1区画30a)を卒業研究課題に基づき、水稻の生育調査を実施するとともに、機械化栽培管理技術を習得	(養液栽培、環境保全型技術等の新技術含む)の知識、技術、経営に関する実践学習	
麦、豆類、そば栽培 ・高性能農業機械化栽培技術の習得 ・転作栽培として位置づけ、栽培技術を習得	葉根菜類の大規模栽培 (省力化、機械化等の新技術含む)の知識、技術、経営に関する実践学習	
果樹経営科	花き経営科	
	作物と環境保全	
作物と環境保全	花き経営管理・農産物加工概論	
応用昆虫学・植物病理学	応用昆虫学・植物病理学	
果樹栽培	鉢物栽培・切り花栽培	
果樹経営管理・農産物加工概論	フラワーデザイン	
専攻実習・卒業研究	専攻実習・卒業研究	
学習特徴 ・りんごわい化栽培の知識、技術、経営に関する実践学習	学習特徴 ・切り花(施設、露地)栽培の低コスト ・高品質生産及び経営に関する実践学習 ・鉢物栽培の低コスト・高品質生産、経営に関する実践学習・フラワーアレンジ	

	・ぶどう、なし、もも、おうとう、ブルーベリー等の栽培、技術、経営に関する実践学習	メント技術の習得
		肉畜経営科
	酪農経営科	畜産と環境保全
	畜産と環境保全 家畜育種・改良、家畜解剖・実験	家畜育種・改良、家畜解剖・実験
	家畜栄養・家畜生理・家畜飼養管理	家畜栄養・家畜生理
	畜産経営管理・畜産物加工	家畜飼養管理
	専攻実習・卒業研究	畜産経営管理・畜産物加工
学習特徴 ホルスタイン種による高品質乳生産を目指し、衛生的な搾乳と生乳処理、飼料給与、良質粗飼料生産・調製、子牛の放牧育成などの管理技術の学習と近代的酪農経営感覚の習得	学習特徴 黒毛和種による高品質牛肉の生産を目指し、繁殖から肥育までの一貫経営技術の習得	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車免許（農耕用）・けん引免許（農耕用）・農業機械士・家畜人工授精師（牛） 家畜人工授精師（家畜体内受精卵移植）・危険物取扱者・毒物劇物取扱者・アーク溶接技能者 ガス溶接技能者・フォークリフト運転技能者・フラワー装飾技能士2級（実技試験） 2級認定牛削蹄師・日商簿記検定3級・日本農業技術検定2級
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	10名	5名	4名	4名	30名		2名
備考：平成23年度卒業生55名の内訳							

現状の学生数	合計134名（2年生：62名） 平成24年度新生入生：本科生70名・研究科生2名
---------------	---

農業大学校名	宮城県農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.miyagi.jp/noudai/index.htm
学科・定員など	水田経営学部：15名 2年課程 園芸学部：15名 2年課程 畜産学部：15名 2年課程 アグリビジネス学部：10名 2年課程

カリキュラム (科目)	教養科目	水田経営学部
	国語表現・農業基礎数学・生物基礎・情報処理	水稲栽培・水稲病害虫・専攻実習Ⅰ
	法律・体育・就業講座・英語Ⅰ・英会話・英語Ⅱ	稲作診断Ⅰ・稲作診断Ⅱ・環境保全型農業
	就農講座・就職講座	専攻実習Ⅱ・キャリア形成プログラム
	専門科目	米ビジネス・水田農業経営・栽培実験
	作物概論・園芸概論・農学基礎実習	農産物流通・水田農業経営Ⅱ
	畜産概論・アグリビジネス論・農業機械基礎	水田高度利用専攻
	大型トラクター免許・簿記基礎	畑作物病害虫・水田利用作物栽培・作物育種
	先進農業体験学習・作物保護・生物工学	園芸複合化専攻
	危険物取扱者講座・農業経営・土壌肥料	園芸栽培・施設園芸・園芸病害虫
	毒物劇物取扱者講座・国際農業・営農計画	園芸学部
	フォークリフト運転技能・マーケティング	園芸総論・施設園芸・園芸実験・園芸病害虫
	生産組織と法人・食の安全・安心・簿記演習	専攻実習Ⅰ・専攻実習Ⅱ・フラワーデザイン
	大型トラクターけん引・海外農業研修	キャリア形成プログラム
	アグリビジネス学部	環境保全型園芸・ガーデニング
	資源活用基礎・経営管理基礎・ウェブ販売実践	野菜ソムリエ入門・野菜・果樹・花き園芸
	専攻実習Ⅰ・専攻実習Ⅱ・食品学・食品加工学	畜産学部
	ボイラー基礎・環境保全型農業	専攻実習Ⅰ・専攻実習Ⅱ・家畜生理解剖Ⅰ
	経営診断・分析・地域資源と起業・実践税	飼料生産Ⅰ・飼料生産Ⅱ・飼料生産Ⅲ

	務	
	野菜ソムリエ入門・フラワーデザイン	家畜生理解剖Ⅱ・家畜繁殖・環境保全型畜産
	キャリア形成プログラム	家畜栄養・家畜改良・飼養管理・畜産経営
		畜産実験・流通
		削蹄Ⅰ・削蹄Ⅱ・乳牛・肉牛・豚飼養管理
		キャリア形成プログラム

取得目標資格・技能	【全学部共通】 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定）・けん引自動車運転免許（農耕車限定） フォークリフト運転技能者・毒物劇物取扱者資格（一般,農業用品目）・ 危険物取扱者資格（乙種４類）・日商簿記検定（３級）
	【畜産学部】 家畜人工授精師（牛）・認定牛削蹄師（２級）・家畜商 【園芸学部・アグリビジネス学部】 フラワーデザイン（３級）・ジュニア野菜ソムリエ 【アグリビジネス学部のみ】 ボイラー技士（２級）

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
備考：不明								

現状の学生数	平成２４年度新入学生：合計５９名（１年生） １・２学年合計：１０９名 水田経営学部２９名，園芸学部３８名，畜産学部２０名，アグリビジネス学部２２名
---------------	---

農業大学校名	山形県立農業大学校
ホームページURL	ynodai.ac.jp/
学科・定員など	<p>●合計 50 名 2 年課程</p> <p>稲作経営学科：稲作コース</p> <p>果樹経営学科：果樹コース</p> <p>野菜・花き経営学科：野菜コース・花きコース</p> <p>畜産経営学科：酪農コース・肉用牛コース</p> <p>農産加工経営学科：農産加工コース</p>

カリキュラム（科目）	全学科共通（教養科目）	全学科共通（専攻科目）
	教養講座	先進経営者研究・農業生産概論・複式簿記
	人間と社会	農業と経営管理基礎・財務管理・ICT活用
	英会話	マーケティング基礎・演習・農業機械
	暮らしと社会経済の動向	病虫害防除・植物・先進技術論
	ビジネス基礎講座（選択）	生産販売実習・栽培・家畜育種・土壌肥料
	就農講座（選択）	環境保全と農業・生物実験・作物生理
	果樹経営学科	園芸施設利用・フラワー装飾
	高品質な果実を安定生産する技術のほか、省力化などの先進栽培技術や「加温さくらんぼ」などの施設栽培技術を学習	受精卵移植・食品加工学・食品衛生学 先進農業者等体験学習
	東京での「マーケティング実習」などで、流通管理、経営管理を学習	稲作経営学科
	日本型 GAP（農業生産工程管理）への取り組みなど「安全・安心」な果樹経営を学習	水稻の生育調査と診断に基づく技術対応による高品位米生産技術を学習
	産地「名人」のせん定技術や優良経営の実践事例を学習	有機栽培、特別栽培等の環境にやさしい稲作について学習
	山形大学農学部、県の園芸試験場、総合支庁産地研究室と連携し、施設・研究成果を活用しながら、先進技術の取り組みや新品種について学習	たん水土壤中直播や省力施肥体系など最新の低コスト省力栽培技術を学習
	野菜コース	大規模な稲作経営手法や転作作物の栽培について学習 きく、トルコぎきょう等の切り花、シクラメン等の鉢物や花壇苗の栽培技術・理論を学習

	果菜類（すいか、メロン、トマトなど）葉菜類（はくさい・ねぎなど）を中心に消費の動向に合わせた品質と安定生産のための理論・技術を学習	養液栽培、環境制御による開花調節等の先進技術のほか、フラワーデザインについて学習
	セル苗の利用等省力栽培、水耕栽培などの先進技術を学習	

取得目標資格・技能	<p>【全学科・全コース共通】</p> <p>大型特殊自動車免許（農耕用）・けん引自動車免許（農耕用）・産業用無人ヘリコプター技能認定</p> <p>日本農業技術検定（1級、2級、3級）・毒物劇物取扱者資格（農業用、一般）・販売士（3級）</p> <p>危険物取扱者資格（乙種、丙種）・日商簿記検定（3級）</p> <p>【花きコースのみ】</p> <p>フラワー装飾認定（3級）</p> <p>【畜産経営学科のみ】</p> <p>家畜商・牛削蹄師（2級）・家畜人工授精師資格・畜受精卵移植師資格</p>
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	未定
	15名	6名	6名	6名	21名	

備考：平成23年3月卒業生51名の内訳。就職は、公務員、農協等、農業関連企業、一般企業の合計

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	福島県農業総合センター農業短期大学校
ホームページURL	http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=10197
学科・定員など	<ul style="list-style-type: none"> ●本科 2年課程 60名 <ul style="list-style-type: none"> 農産学科 稲作専攻・畑作専攻：15名程度 園芸学科 野菜専攻・果樹専攻・花き専攻：30名程度 畜産学科 酪農専攻・肉畜専攻：15名程度 ●研究科 若干名 1年課程

カリキュラム（科目）	各科共通（教養科目）	各科共通（専門科目）
	生物・科学・数学・小論文・体育・教養講座	農業経営
	経済・心理・法律・英会話（選択）	国際農業比較論
	農産・園芸学科共通（専門科目）	農産物流通
	植物育種	簿記
	植物生理	農業情報処理Ⅰ
	植物病理	農業情勢農学概論
	応用昆虫	基礎実習
	畜産学科（専門科目）	生物工学Ⅰ
	家畜飼養	土壌肥料概論
	家畜育種	農業概論
	家畜解剖	環境保全と農業
	家畜繁殖	有機農業
	家畜衛生	農業機械Ⅰ
	農産学科（専攻科目）	農畜産物加工
	専攻各論 先進農家等留学研修・実習・研修・講義	マーケティング論
	園芸学科（専攻科目）	卒業論文
	専攻各論 先進農家等留学研修・実習・研修・講義	簿記会計
	畜産学科（専攻科目）	農村調査法
	専攻各論 先進農家等留学研修・実習・研修・講義	農業情報処理Ⅱ
	各科共通（専門科目）	農業団体論

	農業経営	農業関連産業論
	国際農業比較論	生物工学Ⅱ
	農産物流通	農業気象
	簿記	農業機械Ⅱ
		農業土木概論
		食用きのご論
	稲作専攻（教育概要）	酪農専攻（教育概論）
	<ul style="list-style-type: none"> ・1区画1haの水田を使い、水稻の直播栽培や環境に配慮した栽培技術、生産性や品質向上などに必要とされる専門的な栽培技術を習得する ・21世紀の農業経営者として求められる経営管理について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしくて質の高い牛乳を生産するための知識と技術を学習 ・乳牛が健康で長く搾乳できるようにするため、良質な自給飼料を生産する技術を学ぶ
	畑作専攻（教育概論）	肉畜専攻（教育概論）
	<ul style="list-style-type: none"> ・麦・大豆・ソバなどの土地利用型作物、ジャガイモやサツマイモなどの芋類、コンニャクなどの特用作物を含んだ多くの畑作物を学習 ・畑作物を原料とし付加価値を高めるための農産加工技術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉などを生産するにあたり、より高く販売し、より低コストで育てる知識と技術を習得するため、福島牛を用いた子牛および牛肉生産の手法などを中心に学ぶ
	野菜専攻（教育概論）	花き専攻（教育概論）
	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県の代表的野菜の実践的な栽培技術と販売・流通方法を身につける ・施設栽培や減農薬・減化学肥料による生産技術、有機栽培技術を学習 ・高品質化や環境保全型農業、職の安全と安心についての基本技術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県の代表的な切り花・鉢物・枝物について基本的な栽培技術を身につける ・養液栽培技術や複合環境制御による施設管理技術を学習 ・省力化と高品質栽培管理技術を学ぶ
	果樹専攻（教育概論）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県主要果樹のモモ・ナシ・リンゴを中心に、栽培管理や選果および出荷作業を通して、生産から販売までの経営感覚を身につける ・省力栽培技術や災害対策技術、減農薬栽培による環境保全型農業について学ぶ 	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車運転免許（農耕車に限る） ・家畜人工授精師免許（畜産学科）
------------------	--------------------------------------

	小規模ボイラー取扱資格（園芸学科） ・ 小型車両系建設機械運転業務資格（園芸学科） 毒物劇物取扱者資格（カリキュラム内選択制） ・ ⑥危険物取扱者資格（カリキュラム内選択制） 農業機械士 ・ 農業用無人ヘリコプター操縦資格・大型特殊自動車けん引運転免許（農耕車に限る） フラワー装飾技能士（園芸学科花きコース）
--	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
備考：不明							

卒業生の進路状況	備考：平成 23 年度から過去 3 年	
就農	自家	福島県内各地
	法人など	まるせい果樹園・(有)旬彩ファーム・フルーツいしい・ポタジェガーデン・中田農園 (株)しまざき牧場・降矢農園・鈴木畜産・須藤牧場・若宮ばくさく・サンライズトマト原町・いわき小名浜菜園・あづま果樹園、東常マック・白河高原農場・中田種苗園・福相建設・グリーンサブラナ・ランドファーム開成・そうふく園芸・うねめ農場・グリーンサービス・フローラハシモト・雪割牧場
	研修	もっけの幸・鈴木農園・会津坂下町キュウリ農家・農業総合センター果樹研究所講習生・栃木県イチゴ農家・八木農園
農業協同組合など		新ふくしま・伊達みらい・すかがわ岩瀬・会津いいで・会津みどり・みちのく安達・いわき市・たむら・東西しらかわ・福島県酪農業協同組合
農業関連企業		仲田種苗園・ニッカネ・グラントマト・井上商店・福島ハイエッグ・福島クボタ・ヤンマー東日本カンパニー・会津中央青果・あさかの Fresh・美女来・フローラル・関菱化学・いとうフーズ・苅セキ東北・県食肉流通センター・アサカサービスセンター・稲川酒造・酪王乳業・福島日紅・山形日紅・小泉商事・小田島商事・PPQC 研究所・ファームランドヤマロク・成田食品工業
他産業		IHI・ホットマン・ラムダ会津工場・帝装化成・ワークセブン・幸楽苑・ツムラヤ・テクノグリーン・夢成・柳沼電気・東高商事・ダイユーエイト・ブックファン・キャンデーヤパン・追分・山王・リオンドール・湯本スプリング CC・ライフアンサージ
公務員		天栄村・農業高校実習助手（期限付き）

進学	本校研究科・東京農大・岩手大学・鯉淵学園・福島福祉介護専門学校・宮城大学
----	--------------------------------------

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	茨城県立農業大学校
ホームページ URL	www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai
学科・定員など	<p>●養成課程 2年課程</p> <p>農業部 農学科 普通作コース・露地野菜コース・果樹コース 合計 40名 畜産学科 10名</p> <p>園芸部 園芸学科 施設野菜コース・花き園芸コース 合計 30名</p> <p>●研究科 2年課程 合計 10名</p> <p>作物コース・園芸コース・畜産コース</p>

カリキュラム (科目)	全学科共通 (教養科目)	全学科共通 (専門科目)
	実用数学	農業機械学
国語表現法	社会的農業論	
英語 I・英語 II	農業簿記	
法律学	農業経済学	
社会心理学	農業協同組合論	
化学	農業情報利用	
体育	応用科学論 I, II	
普通作コース	情報処理演習 I, II	
物産論	マーケティング概論	
園芸汎論	畜産学科	
作物栽培各論	作物汎論	
植物病理昆虫学	畜産汎論	
植物生理学	畜産経営概論	
土壤肥料学	家畜生理学	
環境保全と農業	家畜栄養学	
農業気象学	家畜繁殖学	
農薬安全利用論	家畜飼養管理学	
農業経営概論	家畜育種学	
情報処理基礎	家畜解剖学	
農学実験	家畜衛生学	
農業会計概論	飼料作物学	
経営分析演習	環境保全と糞尿処理	
農産加工論	情報処理基礎	
農産加工実習	畜産実験	

	青果物の流通と販売	農業会計概論
	露地野菜コース	経営分析演習
	作物汎論	農産加工論
	園芸汎論	農産加工実習
	野菜栽培各論	青果物の流通と販売
	植物病理昆虫学	模擬経営演習
	植物生理学	施設野菜コース
	土壌肥料学	栽培汎論
	環境保全と農業	施設園芸論 I, II
	農業気象学	植物病理昆虫学
	農薬安全利用論	植物生理学
	農業経営概論	応用生物学
	情報処理基礎	土壌肥料学
	農学実験	環境保全と農業
	農業会計概論	農業気象学
	経営分析演習	農薬安全利用論
	農産加工論	農業経営概論
	農産加工実習	野菜栽培各論
	青果物の流通と販売	農学実験
	果樹コース	農産加工実習
	作物汎論	フラワー装飾演習 II
	園芸汎論	花きコース
	果樹栽培各論	栽培汎論
	植物病理昆虫学	施設園芸論 I, II
	果樹生理学	植物病理昆虫学
	土壌肥料学	植物生理学
	環境保全と農業	応用生物学
	農業気象学	土壌肥料学
	農薬安全利用論	環境保全と農業
	農業経営概論	農業気象学
	果樹経営論	農薬安全利用論
	情報処理基礎	農業経営概論
	農学実験	花き栽培各論
	農業会計概論	農学実験

	経営分析演習	フラワー装飾演習Ⅰ,Ⅱ
	農産加工論	
	農産加工実習	
	青果物の流通と販売	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車運転免許（農耕車に限る） ・ 家畜人工授精師免許（畜産学科） 小規模ボイラー取扱資格（園芸学科） ・ 小型車両系建設機械運転業務資格（園芸学科） 毒物劇物取扱者資格（カリキュラム内選択制） ・ ⑥危険物取扱者資格（カリキュラム内選択制） 農業機械士 ・ 農業用無人ヘリコプター操縦資格 ・ 大型特殊自動車けん引運転免許（農耕車に限る） フラワー装飾技能士（園芸学科花きコース）
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	44%			14%	42%		
備考：平成18年～22年度養成課程卒業者の割合							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	栃木県農業大学校
ホームページ URL	http://www.nodai.pref.tochigi.lg.jp/
学科・定員など	<p>本科 2年課程</p> <p>農業経営学科：25名</p> <p>園芸経営学科：40名 野菜専攻・花き専攻・果樹専攻</p> <p>畜産経営学科：15名</p> <p>研修科</p> <p>就農準備校「とちぎ就農未来塾」 1年</p> <p>定年帰農希望者研修：35名程度、30日間</p> <p>新規就農希望者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎コース：45名程度、30日間 ・専門コース（いちご、施設野菜、露地野菜、果樹）：60名程度、50日間 <p>とちぎ農業ビジネススクール：20名、18日間+α</p> <p>食と農の起業家養成研修</p> <p>基礎講座：50名程度、1日</p> <p>専門講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉利用加工：20名、1日 ・地域特産物総菜加工：20名、1日 <p>経営管理講座：10名程度、1日</p> <p>農業機械士養成研修・農業機械安全効率利用研修</p> <p>農業機械士養成前期研修：15～25名、10日間（大型特殊免許(農耕車限定)取得)</p> <p>農業機械士養成後期研修：25名、6日間（けん引免許(農耕車限定)取得)</p>

カリキュラム（科目）	各科共通（必修科目）	野菜専攻（必修科目）
	くらしと法律	野菜栽培経営概論
	国際経済と社会	野菜栽培経営各論Ⅰ・野菜栽培経営各論Ⅱ
	社会生活講座	園芸施設
	農業概論	農場管理実習
	稲作経営概論	先進的経営体実習
	農業経営	専攻実習
	農業簿記	卒業論文
マーケティング基礎	野菜専攻（選択科目）	

食物概論	植物生理
食品加工	応用生物学
営農設計	農業経営概論
農業機械	花き栽培経営概論
総合学習	果樹栽培経営概論
土壌肥料学実験	畜産経営概論
農業機械基本実習 I	育種学
農業経営学科（必修科目）	農業気象
土地利用型作物 A	作物保護
土地利用型作物 B	農村計画
農村資源調査論	環境保全型農業
農畜産物利用学	総合基礎講座 I・総合基礎講座 II
マーケティング各論	生物工学実験
農業起業論	情報処理 I・情報処理 II
農場管理実習	資格取得教養講座
先進的経営体実習	農業機械基本実習 II
専攻実習	花き専攻（必修科目）
卒業論文	花き栽培経営概論
農業経営学科（選択科目）	花き栽培経営各論 I・花き栽培経営各論 II
植物生理・応用生物学	園芸施設
果樹栽培経営概論	農場管理実習
農業経営概論・花き栽培経営概論・畜産経営概論	先進的経営体実習
育種学・農業気象・作物保護・農村計画	専攻実習
環境保全型農業	卒業論文
総合基礎講座 I・総合基礎講座 II	花き専攻（選択科目）
生物工学実験・情報処理 I・情報処理 II	植物生理・応用生物学・農業経営概論
農業機械基本実習 II	野菜栽培経営概論・果樹栽培経営概論
農業機械整備実習	畜産経営概論
資格取得教養講座	農畜産物利用学
畜産経営学科（必修科目）	農業起業論
畜産経営概論	育種学・農業気象・作物保護・農村計画
家畜衛生・家畜解剖・家畜生理・家畜育種	環境保全型農業
畜産機械施設	総合基礎講座 I・総合基礎講座 II

畜産繁殖	生物工学実験・情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ
家畜飼養	資格取得教養講座・農業機械基本実習Ⅱ
飼料作物	果樹専攻（必修科目）
家畜人工授精論	果樹栽培経営概論
家畜人工授精実習	果樹栽培経営各論Ⅰ・果樹栽培経営各論Ⅱ
農場管理実習・先進的経営体実習・専攻実習	園芸施設・農場管理実習
卒業論文	先進的経営体実習・専攻実習
畜産経営学科（選択科目）	卒業論文
植物生理	果樹専攻（選択科目）
応用生物学	植物生理
農畜産物利用学	応用生物学・農業経営概論
農業起業論	花き栽培経営概論・畜産経営概論
農村計画	農畜産物利用学・農業起業論
農業気象	育種学・農業気象・農村計画
環境保全型農業	環境保全型農業・生物工学実験
総合基礎講座Ⅰ・総合基礎講座Ⅱ	総合基礎講座Ⅰ・総合基礎講座Ⅱ
情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ
農業機械基本実習Ⅱ	資格取得教養講座
農業機械整備実習	農業機械基本実習Ⅱ
資格取得教養講座	野菜栽培経営概論

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
平成23年度卒業生	12%		5%	69%	3%	2%	9%	

主な就職先	備考：近年のもの
農業団体	宇都宮農業協同組合、上都賀農業協同組合、芳賀野農業協同組合、下野農業協同組合、塩野谷農業協同組合、那須南農業協同組合、栃木県牛群検定組合
農業法人	農事組合法人 MAGI ファーム、(株)小林農産、(有)いちごの里湯本農場、(有)相澤園芸、(株)カクタ花農場、(株)ジェイイーティーファーム、(株)那須ハートフルファーム、コージーファーム(株)、(有)平山牧場(千葉県)、中山牧場
農業関連企業	(株)上原園、(株)栃木農場、(有)農業開発、神明畜産(株)、(有)郡司義一商店、

	宇都宮種苗(株)、北関東クボタ(株)、高田酪農機械(株)、(有)武井農機商会、(株)若目田製作所、コープケミカル(株)、(株)加藤工業所、(株)バイオグリーン、(株)ジャパンエコロジーシンキング、(株)誠和、(株)シオダ食品、(株)ファーマーズフォレスト、イートランド(株)、山一商事(株)、(株)フローリスト花みずき、(株)花祐、(株)とちぎ県南青果、(株)足利青果
一般企業、農業関連外団体	(株)足利フラワーリゾート、(株)ホウライ、宇都宮動物園、(株)ジョイフル本田、サトーカメラ(株)、(株)オータニ、(株)とりせん、(株)南大門ホールディングス、(株)ラクシーズ(ラコスステ那須ガーデンアウトレットショップ)、(株)ジャパンビバレッジ、向島流通サービス(株)、シンコール物流(株)関東センター、(有)たかはし、(株)鷗文社、(株)三和メック、(株)ミック、ユニ工業(株)栃木工場、栃木レザー(株)、日本製箔(株)、(株)和光、社会福祉法人パステル、社会福祉法人スマイルワーク、社会福祉法人すかい
官公庁	陸上自衛隊、宮内庁(御料牧場)、宇都宮北高校、小山北桜高校、鹿沼南高校、日光明峰高校(左記4校は期限付助手・講師)

農業大学校名	群馬県立農林大学校
ホームページ URL	http://www.gunma-iaf.ac.jp/
学科・定員など	<ul style="list-style-type: none"> ●農林部 <ul style="list-style-type: none"> 農業経営学科 <ul style="list-style-type: none"> 野菜コース：2年間、15名 花き・果樹コース：2年間、10名 酪農肉牛コース：2年間、15名 社会人コース：1年間、10名（野菜専攻5名、花き・果樹専攻5名） 高度専門コース：1年間、5名 農林業ビジネス学科 <ul style="list-style-type: none"> 農業コース：2年間、30名 環境・森林コース：2年間、20名 ●研修部 <ul style="list-style-type: none"> 県民向け研修：1日間、11講座、20～50名 ●就農準備校 <ul style="list-style-type: none"> 就農基礎課程 <ul style="list-style-type: none"> 春夏野菜コース：12回、15名 秋冬野菜コース：12回、15名 園芸就農者課程 <ul style="list-style-type: none"> 野菜コース：17回、15名 花きコース：12回、10名 果樹コース：12回、10名 専門就農者課程 <ul style="list-style-type: none"> 野菜コース：75回、20名 定年帰農者課程 <ul style="list-style-type: none"> 本校：17回、20名 地域校：7回、40名（10名×4校）

コース概要	野菜コース	花き・果樹コース
	<ul style="list-style-type: none"> ・トマト・キュウリ・イチゴなどの果菜類を中心とした施設野菜と、ネギ・キャベツ等の露地野菜の栽培から販売までの全過程を講義と実習により学ぶ ・先進的な技術や、環境にやさしい野菜づくりの技術など農業経営に役立つ知識・技 	<ul style="list-style-type: none"> ・花きでは、群馬県内で生産されている主な種類（シクラメン・アジサイ・バラ等）を中心に、栽培から販売までを学ぶ ・果樹では、リンゴ・ナシ・ウメ等の代表的な果樹を中心に、せん定から収穫・販売までを学ぶ

	術を学ぶ	
	酪農肉牛コース	社会人コース
	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県内の酪農経営、肉牛経営を担う経営能力の高い担い手を育成するため、飼料給与、繁殖管理、自給飼料の生産などを実践的に学ぶ 家畜人工授精師（牛）の免許取得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人経験のある方が対象のコース 野菜専攻と花き・果樹専攻を選択学習 1年間で農業を基礎から実践的に学び、卒業後は県内で就農することを目指す
	農業コース	高度専門コース
	<ul style="list-style-type: none"> 農業団体や農業関連産業への就職を目指して、農業の基礎から経営・加工・流通まで学ぶ 販売士やビジネスマナー検定など、企業等で活用できる資格の取得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 本校卒業生等を対象として、1年間でより専門的な知識や技術を身につける 主に試験場・市場・大規模小売店などで研修を行う
森林・環境コース	カリキュラム・学科共通	
<ul style="list-style-type: none"> 林業団体や林業関連産業への就職を目指して、森林の維持管理方法やきこ栽培管理などについて学ぶ 造園技能士等の資格取得や樹木医補の資格を取得できるカリキュラム編成 	理論教育・・・40% （農業技術に関する講義・卒論作成） 実践教育・・・60% （実習・先進農林家等体験学習・実験・課題研究）	

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	未定
平成 23 年度卒業 者	17名	10名	就農に含まれる	3名	55名	

卒業生の事例	備考：平成23年度卒業生3名が、卒業後、新たに耕地を借用して就農
農業経営学科 社会人 コース	全員農業の経験はなく、社会人コースでの理論と実践教育によって自信を深め、さらに認定就農者資格を取得し、農業を開始

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	埼玉県農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k31/
学科・定員など	<ul style="list-style-type: none"> ●基本技術科 <ul style="list-style-type: none"> 野菜コース 2年課程 35名 施設野菜専攻・露地野菜専攻・水田複合専攻 花植木コース 2年課程 15名 花き専攻・植木造園専攻 畜産コース 2年課程 5名 酪農専攻 実践コース 1年課程 25名 野菜専攻・水田複合専攻・花き専攻・植木造園専攻・酪農専攻 ●高度技術科 1年課程 5名

カリキュラム (科目)	実践コース (例: 野菜専攻)	野菜コース等 (例 野菜・花植木コース)
	農業簿記	農業簿記・植物生理・食品概論
	植物生理	毒劇物危険物取扱基礎演習
	食品概論	倫理と社会・農産物安全・人間関係
	毒劇物危険物取扱基礎演習	埼玉の農政・環境保全型農業・経営分析演習
	農業・流通・販売・食品関係法	農業経営・農業経営事例研究・作物保護
	経営分析演習	生物工学実験・基礎実験・農産加工実験
	農産物安全	生物工学・作物育種・国語表現・情報処理
	総合的病害虫管理	食品各論・加工学・農業法人論
	農業経営事例研究	農業気象・農業機械・統計処理・土壌肥料
	食品加工実習	英語・郷土史・心理・消費生活と経済
	埼玉の農政	世界の農業事情・農業法律・労働科学
	環境保全型農業	応用実習
	農産物流通	(先進農家等体験学習 実日数 60 日間)
		世界の農業事情演習 (海外研修: 希望者のみ参加)
		卒業論文のまとめ・卒業論文発表会

取得目標資格・技能	大型特殊運転免許（農耕用限定）・けん引運転免許（農耕用限定）・毒物劇物取扱者資格 危険物取扱者資格（乙4類）・玉掛及び移動式クレーン取扱資格（1 t未満） 小型車両系建設機械運転資格（3 t未満）・家畜人工授精師免許（酪農コース）
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	備考
平成 23 年度卒業 者	16%	34%	1%		38%	11%	※2年課程のみ
平成 23 年度の実績		主な就職先					
就農 （自営）	2年課程	16%	自分の家が農業を営んでおり、卒業後にそのまま就農する				
	1年課程	50%	実践コース（1年課程）の学生が新規に農業を始める				
就職就農 （農業法人）	2年課程	34%	イオンアグリ創造（株）、（株）関東地区昔がえりの会、（株）クレオ、 （有）小松沢レジャー農園、（有）斉藤ナーセリー、（有）サニベルグリーン ハウス、（有）高田牧場、（株）比企アグリサービス、（株）フジハウジン グ、（有）みのり				
	1年課程	12.5%					
就職 （農業関連 産業など）	2年課程	38%	雨間造園土木（株）、（株）トセキ関東、（株）熊谷青果市場、（株）ジャ パンアグリビジネス、くまがや農業協同組合、埼玉中央農業協同組合、 トキタ種苗（株）、（株）細田農機、（株）マルマサフード、（株）モリタ ネ				
研修 （国内・就 農）	2年課程	1%	さらに経験を積むために別の場所で研修を行う進路 埼玉県内各地に開設されている「明日の農業担い手塾」（鶴ヶ島市の農 業塾など）は当大学の卒業などが入塾の条件である				
	1年課程	16.7%	海外の農家にて1年～2年間の研修を行う				

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	千葉県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/
学科・定員など	<p>農学科：2年課程 80名</p> <p>研究科：2年課程 20名</p> <p>農業研修科</p> <p>農業塾：年3回 40名</p> <p>就農準備講座：年2回 15名</p> <p>農業者養成研修：年2回 20名</p> <p>機械化研修科</p> <p>農業機械体験研修：年4回 15名</p> <p>トラクター基本研修：年8回 12名（農耕車限定大型特殊免許取得）</p> <p>農業機械基本研修：年2回 20名</p> <p>農業機械士養成研修：年2回 20名（農耕車限定大型特殊免許・農業機械士の資格取得）</p> <p>農業機械士育成研修：年2回 20名（農業機械士の資格取得）</p> <p>農業後継者育成農業機械研修：年2回 75名</p> <p>関係機関等の依頼研修：随時</p>

カリキュラム（科目）	農学科（主な教養科目）	研究科（主な教養科目）
	文学・経済学・生物学・英語	実用英語Ⅰ・実用英語Ⅱ
	農学科（主な専門共通選択科目）	研究科（主な専門共通選択科目）
	生産技術論	農業機械論
	農業環境概論	起業論
	農学科（主な専門共通必須科目）	植物生理学Ⅱ・植物育種学Ⅱ
	植物防疫概論	動物生理学Ⅱ・家畜育種学Ⅱ
	土壌肥料概論	研究科（主な専門共通必須科目）
	農学科（主な専攻科目）	地域計画論
	専攻実習・卒業論文	インターンシップ基礎・研修
	農学科（主な専門選択科目）	研究科（主な専攻科目）
	植物生理学	コース別専攻実習・卒業論文
	農学科の特徴	研究科の特徴
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程のうち、専門選択科目が植物系と動物系の2コース制により専門教育の強化をはかる ・コース科目では、作物栽培や動物飼育の 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業大学校の農学科2年課程終了および短大(農学系)・四大(農学系)卒業後の2年課程 ・開設講座

	<p>技術、環境の整備および設備の利用などの知識を習得するための生物生産コースと農業経営や経済等の能力を高めるための情報管理や利用をより深く学習するための情報経営コースの選択ができるようカリキュラムを組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家派遣実習による生きた学習 <p>1 年次に県内の先進農家に 約 1 ヶ月間ホームステイし、農家の生活や生産技術、農業経営に関わる生きた実例を身をもって体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻実習による問題解決能力の習得 <p>少人数の専門教育で 2 年次に実施、卒業論文作成のためのテーマ設定、専門知識や技術を習得、問題解決能力を高めることがねらい</p>	<p>優れた農業者や先進的な指導者となるための高度な知識と実践的技術が学べる科目構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業への従事意識の向上をねらいとしたインターンシップ研修など、きめ細かな授業展開をはかる ・専攻実習と卒業論文 <p>講義による知識を確かなものとするため、演習・専攻実習、卒業論文をカリキュラムの中心に据え、実践的な技術習得と問題解決能力の向上に努める</p>
--	---	---

専攻の特色	
12 分野の専攻	農学科 2 年生及び研究生は専攻教室に所属し、卒論課題を中心にそれぞれの技術を修得する
教室名	専攻内容
作物	水稻やイモ類・落花生等の基本的な栽培管理と生育について学ぶ
露地野菜	主な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜について学ぶ
施設野菜	ガラス温室など施設を利用した野菜栽培について学ぶ
果樹園芸	ナシやブルーベリーなど県内の主要な果樹の栽培について学ぶ
花き園芸	切花・鉢花の生理的特長や栽培について学ぶ
畜産	牛・豚・鶏・山羊の繁殖や肥育について学ぶ
農業経済	流通や市場の機能など経営改善について学ぶ
情報処理	パソコンを使った農業情報の分析や販売手法について学ぶ
土壌肥料	有機質資材の施用や環境保全型農業など負荷軽減栽培について学ぶ
病害虫	病害虫の発生生態と減農薬管理について学ぶ
生物工学	無病苗生産や増殖などバイオ利用技術について学ぶ
食品加工	伝統的な食事や、現代の食生活ニーズにあった食品加工・保存方法を学ぶ

取得目標資格・技能	毒物劇物取扱者・危険物取扱主任・農業技術検定・家畜人工受精士・日商簿記・野菜ソムリエ・ 日商パソコン検定・大型特殊機械運転免許・産業用無人ヘリコプター操縦資格・溶接技能
------------------	---

卒業生の進路状況	農業経営	JA・農業関連企業	進学	一般企業・その他
	25%	24%	40%	11%

備考：昭和 54 年農業大学校開校以降、平成 23 年 3 月までの 2000 名を超える全卒業生を対象

分類	主な就職先
公務員など	県庁、市原市、旭市、南房総市
農業関係団体	千葉県農協中央会、全農千葉県本部、千葉県信連、千葉県農業共済連、千葉県酪連、千葉県酪育成牧場、ぼうそう農業共済組合、千葉みらい農協、市原市農協、君津市農協、山武郡市農協、長生農協、ちばみどり農協、かとり農協、成田市農協、安房農協、丸朝園芸農協
農業法人など	チャイルドフラワー、染谷みらい農場、旭愛農生産組合、デコポン
農業機械資材関係	ヤンマー農機千葉、千葉トセキ販売、文平産業、石川商会、グリーンテック、千葉クボタ、多田ビニール工業所、平林物産
市場関係	東京新宿ベジブル、F A J、千葉中央青果、足立花卉、大森園芸、金港青果
種苗・花き関係	みかど協和、カネコ種苗、小松屋種苗、古川植木
畜産関係	マザー牧場、東京めいらく、東総食肉センター、豊橋飼料、サンライズファーム、興真乳業、千葉土気酪農ヘルパー組合、市原ぞうの国
食料・飼料関係	山崎製パン、ユアサフナシヨク、富士総合食品、伊丹産業
薬品関係	石原バイオサイエンス、協友アグリ、住化分析センター
販売関係	ケーヨー D2、カインズホーム、コメリ、西友フーズ、森田商店、せんどう
その他	真名カントリークラブ、東千葉カントリークラブ、環境リサーチ、乗馬クラブグレイン、社会福祉法人「齊信会」、IBM、三菱東京 UFJ 銀行
海外農業研修	アメリカ、ドイツ、スイス、デンマーク

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	神奈川県農業技術センターかながわ農業アカデミー
ホームページ URL	http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420087/
学科・定員など	生産技術科 2年課程 30名 野菜専攻・切花専攻・鉢物専攻・植木専攻・果樹専攻・畜産専攻 技術専修科 1年課程 30名 野菜専攻・切花専攻・鉢物専攻・植木専攻・果樹専攻・畜産専攻

カリキュラム（科目）	共通必修科目	共通選択科目
	農業簿記	応用農業機械
	農業経営分析設計	花き装飾
	土壌肥料	農業情報処理
	農業気象	環境保全型農業
	基礎農業機械	農畜産物加工演習
	農業法規	毒劇物取扱
	園芸専攻	
	生産技術科（園芸専攻科目）	生産技術科（畜産専攻科目）
	土壌肥料	家畜生理
	植物生理	家畜衛生
	作物保護	家畜繁殖
	植物育種	家畜育種
	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅠ
	課題学習Ⅰ	課題学習Ⅰ
	植物生理演習	家畜生理演習
	植物育種演習	家畜育種演習
	園芸栽培演習	家畜飼養管理
	園芸環境工学演習	家畜飼養管理演習
	園芸経営演習	家畜環境工学演習
	ゼミナールⅡ	畜産経営演習
	課題学習Ⅱ	ゼミナールⅡ
	卒業論文	課題学習Ⅱ
		卒業論文

取得目標資格・技能	大型特殊自動車（農耕用）運転免許・けん引（農耕用）免許・農業機械士技能検定・車両系建設機械技能講習修了証・毒劇物取扱者資格・日本農業技術検定
-----------	--

卒業生の進路 状況	就農	新規参 入	就職就 農	研修	農業団 体	農業関連企 業	他産業 (自営含)	進 学	その 他
生産技術科	6名	0名	8名	2名	1名	4名	0名	1 名	8名
研究科	11 名	2名	3名	2名	1名	0名	2名	0 名	4名
備考：平成 23 年度卒業生									

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	専門学校山梨県立農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.yamanashi.jp/noudai/index.html
学科・定員など	養成科 2年課程 30名 果樹学科：20名 園芸学科：10名 野菜専攻・花き専攻 専攻科 2年課程 若干名 落葉果樹学科：若干名

カリキュラム (科目)	養成科 (1年生)	専攻科 (1年生)
	英語・化学Ⅰ・化学Ⅱ・生物・数学(1)	数学 1
	体育(1) 社会学(1)	農業施策 1
	病害虫	農業法規(1)
	土壌肥料	果樹栽培概論
	土壌肥料実験	醸造用ブドウ栽培論(1)
	生物工学実験	新品種特性
	環境保全型農業	地域先進技術(1)
	農業気象	植物栄養生理
	農業機械	植物増殖(1)
	農業機械実習	植物生長調節
	作物栽培	土壌肥料(1)
	農産物加工	病害虫防除(1)
	共通実習	環境保全型農業(1)
	国際農業と食料	先端技術実習(1)
	果樹栽培(1)	農産物流通販売
	専門実習(1) (果樹)	マーケティング
	野菜栽培(1)	法人経営論
	専門実習(1) (野菜)	アグリビジネス論Ⅰ
	花き栽培(1)	農業生産法人派遣研修
	専門実習(1) (花き)	起業理念
	農業経営	専攻科 (2年生)
	農産物流通	社会学
	簿記(1)	農業法規(2)
	情報処理論(1)	果樹栽培各論Ⅰ
	アグリビジネス論(1)	果樹栽培各論Ⅱ

	養成科（2年生）	果樹栽培各論Ⅲ
	数学(2)・体育(2)・社会学(2)	醸造用ブドウ栽培論(2)
	文章表現	地域先進技術(2)
	植物生理	植物増殖(2)
	病害虫防除	土壌肥料(2)
	施設園芸	病害虫防除(2)
	農業施策	環境保全型農業(2)
	農業法規	先端技術実習(2)
	果樹栽培(2)	販売促進
	専門実習（果樹）	農業経営分析
	野菜栽培(2)	アグリビジネス論Ⅱ
	専門実習（野菜）	異業種派遣研修
	花き栽培(2)	ビジネスプラン
	専門実習(花き)	
	簿記(2)	
	情報処理論(2)	
	産地育成	
	アグリビジネス論(2)	
	流通販売研修	
	先進農業研修	
先進農業派遣研修		
卒業論文		

卒業生の進路状況	就農	農業法人	JA	農業団体	研修	進学	就職・その他
備考：平成19年度 ～23年度卒業者	3名	22名	20名	2名	1名	17名	27名
	2%	18%	17%	2%	1%	14%	農業関係企業 22%

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	長野県農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.nagano.lg.jp/xnousei/noudai/
学科・定員など	<p>農学部</p> <p>総合農学科：2年課程 60名 作物コース・畜産コース・野菜コース・花きコース・果樹コース 実科・研究科</p> <p>実科：1年課程 50名 果樹実科・野菜花き実科・畜産実科・南信農業実科</p> <p>研究科：1年課程 50名 果樹研究科・野菜花き研究科・畜産研究科・南信農業研究科</p> <p>研修部</p>

カリキュラム（科目）	総合農学科（共通教養科目）	総合農学科（専攻・選択科目）
		国語・数学・化学・生物学・英語・体育
	総合農学科（主な共通専門科目）	農産加工学
	農業経営学	ゼミナール
	農業政策	家畜生理衛生学
	情報処理論	家畜飼養学
	農村社会学	飼料草地学
	土壤肥科学	家畜人工授精論
	農業薬剤論	プロジェクト
	作物学・畜産学・野菜・園芸学・花き園芸学・果樹園芸学各総論	作物学・畜産学・野菜園芸学・花き園芸学・果樹園芸学各論
	農業機械学	生物工学
	農産物流通論	農業気象学
	農産物マーケティング論	きのご総論
	農業簿記	調理学
	果樹実科（主な科目）	フラワーデザイン
	園芸汎論、果樹栽培総論、果樹育種総論	作物育種学
	果樹病害虫総論、土壤肥料総論、農業経営学	インターンシップ
	野菜花き実科（主な科目）	経営管理学
	植物生理学、作物学、野菜園芸学、花き園	果樹研究科（主な科目）

	芸学、	
	農業気象学、育種学	果樹栽培管理論、果樹育種学、植物保護 総論
	畜産実科（主な科目）	果樹病害虫学、土壌肥料学
	畜産経営経済論、畜産各論、飼料草地学	野菜花き研究科（主な科目）
	家畜人工授精論、家畜衛生学	野菜・花き・作物各論、農業機械学
	南信農業実科（主な科目）	応用昆虫学、植物病理学
	農業気象学、土壌肥料学、果樹園芸学	畜産研究科（主な科目）
	果樹育種学、病理昆虫学、農業薬剤学	畜産経営論、畜産飼養学、繁殖生理学
		家畜家禽論、家畜衛生学、家畜改良論
		南信農業研究科（主な科目）
		農業経営・農業法規、果樹園芸学
		果樹育種学、病理昆虫学、農業薬剤学

取得目標資格・技能	<p>毒物劇物取扱者、危険物取扱者、大型特殊免許（農耕車に限る）、車両系建設機械運転技能資格、</p> <p>フォークリフト運転技能資格、けん引免許（農耕車に限る）</p> <p>家畜人工授精師・家畜商（畜産コース）、</p> <p>小型移動式クレーン運転技能資格（つり上げ荷重 1 トン以上 5 トン未満）、</p> <p>玉掛け技能資格（つり上げ荷重 1 トン以上のクレーン等）、</p> <p>ガス溶接技能資格、アーク溶接技能、高所作業車、伐木等業務（チェーンソー）</p> <p>家畜人工授精師・家畜商（畜産実科）、簿記 3・4 級検定（南信農業実科・研究科）</p>
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
平成 23 年度卒業 者	33%			22%	33%	12%		

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	静岡県立農林大学校
ホームページ URL	http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/
学科・定員など	<p>養成部 2年課程</p> <p>園芸学科</p> <p>野菜コース：20名</p> <p>花きコース：20名</p> <p>茶業学科：20名</p> <p>果樹学科：10名</p> <p>畜産学科：10名 大家畜コース・中小家畜コース</p> <p>林業学科：10名</p> <p>研究部 2年課程</p> <p>総合技術専攻：20名 農業コース・林業コース</p> <p>専門技術専攻：10名</p> <p>研修部 2年または1年</p> <p>実践技術経営専攻：若干名</p>

カリキュラム（科目）	養成部（教養科目）	養成部（専門共通科目）
	経済学・体育・生物学	農林業経営
	(選択)基礎英語・英会話	マーケティング論
	(選択)心理学・教養基礎・社会学・オーラルコミュニケーション	情報処理Ⅰ・Ⅱ
	園芸・茶業・果樹学科（専門共通科目）	農林業政策
	農薬概論	農林業汎論
	農業機械基礎	作物
	植物生理	特別講義
	生物工学Ⅰ	(選択)簿記Ⅰ・経営分析・設計・農業気象・環境科学・国際関係論・国際経営論 A
	植物防疫Ⅰ	(選択)情報処理演習・農畜産物加工・フラワーデザイン・簿記Ⅱ・造園・国際政治論・国際経営論 B
	土壌肥料Ⅰ	畜産学科（専門科目）
	営農ゼミ	農業機械基礎
	(選択)生物工学Ⅱ・植物防疫Ⅱ・土壌肥料Ⅱ	畜産概論

園芸学科 野菜コース（専門科目）	家畜生理解剖
野菜概論Ⅰ・Ⅱ	飼料総論
園芸施設と経営	家畜育種繁殖Ⅰ・Ⅱ
園芸病害虫と土壌肥料	家畜衛生
農業経営研究講座	畜産法規
園芸流通	家畜飼養Ⅰ・Ⅱ
大型機械	畜産加工論
(選択)野菜栽培と育種・花き栽培と育種	畜産環境論
経営特論	畜産堆肥利用論
作物特論	大家畜コース（専門科目）
園芸特論	環境保全流通加工大型機械
病害虫特論	畜産経営
土壌肥料特論	乳牛飼養管理
生物工学特論	肉牛飼養管理
野菜栽培特論（メロン）	家畜管理実習
野菜栽培特論（果菜）	繁殖
花き栽培特論（鉢物）	飼料生産調整
花き栽培特論（切花）	環境保全
園芸学科 花きコース（専門科目）	流通加工
花き概論Ⅰ・Ⅱ	(選択)特論Ⅰ・特論Ⅱ・特論Ⅲ
園芸施設と経営	中小家畜コース（専門科目）
園芸病害虫と土壌肥料	中小家畜経営
農業経営研究講座	中小家畜土施設
園芸流通	飼養管理
大型機械	繁殖管理
(選択)野菜栽培と育種・花き栽培と育種	衛生疾病
経営特論	栄養生理
作物特論	環境保全
園芸特論	流通加工
病害虫特論	(選択)中小家畜飼養・育種繁殖特論・衛生疾病特論・環境保全特論
土壌肥料特論	林業学科（専門科目）
生物工学特論	測樹
野菜栽培特論（メロン）	森林施業計画
野菜栽培特論（果菜）	造林Ⅰ

花き栽培特論（鉢物）	特用林産
花き栽培特論（切花）	林業機械Ⅰ
茶業学科（専門科目）	林業時事
茶栽培Ⅰ・Ⅱ	森林土木
茶加工Ⅰ・Ⅱ	林業概論
手もみ技術Ⅰ	林業経営論
茶樹育種	造林Ⅱ
茶樹栽培Ⅰ・Ⅱ	森林保護論
茶樹土壌肥料	食用菌類論
茶樹病害虫	環境緑化論
茶製造	伐木集運材工学
各種茶	木材利用論
茶業経営	経営特論
茶業流通	林業特論
手もみ技術Ⅱ	路網整備法
大型機械	林業機械Ⅱ
(選択)栽培特論・病害虫特論・育種特論・ 土壌肥料特論・製茶新製品特論	
果樹学科（専門科目）	
果樹栽培基礎Ⅰ・Ⅱ	
果樹栽培実習Ⅰ・Ⅱ	
果樹栽培	
果樹育種	
果樹病害虫	
果樹土壌肥料	
果樹施設環境生理	
果樹経営	
果樹経営分析	
果樹流通加工	
大型機械	
(選択)品種特論・栽培特論・果樹病害虫特 論・ 果樹栄養特論	
野菜コースの特徴	茶業学科の特徴
・11月下旬から、メロン専攻と果菜専攻 に分かれて専攻別に学習	1学年は、本校内の茶園や高度茶業研修 施設で、摘採、施肥、防除、品種、育苗

	<ul style="list-style-type: none"> ・メロン専攻では、静岡県が誇る温室メロンの栽培管理と出荷販売について、高度な管理技術を駆使した栽培に臨む ・果菜専攻では、施設栽培のイチゴ、トマトなどの育苗から出荷までの本格的な栽培技術について実践を通して学ぶ 	<p>等の栽培に関する基礎、製茶の基本となる手揉み製茶、大型製茶機械による荒茶製造、手再製を中心とした仕上茶製造等、実践的な学習を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的茶業経営の視察、販売実習、茶道実習なども行い幅広く学習する ・2学年は、農林技術研究所茶業研究センターに併設された茶業分校で専攻分野別（栽培、土壌肥料、病害虫、育種、製茶新製品等）により専門的な学習と卒業論文を作成 ・一・二番茶時期には、県内の先進的な茶農家で2ヵ月間研修、茶業経営の実験を体験 ・校外学習や県外視察研修などを通じて視野を広め、茶手揉技術資格認定試験や日本茶アドバイザーの資格取得に挑戦する。更に、大型機械研修では、農業機械の運転・点検整備技術を習得し、「大型特殊自動車運転免許」を取得できる。 <p>本校、分校の2年間、日本一の茶産地静岡県にふさわしい充実した教育環境で、茶業経営に必要な知識と技術、経営理念等について幅広く学ぶ。</p>
	<p>花きコースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年の11月中旬までにキク、ヒマワリ、アスター等の露地切花や、サルビア、ペチュニア、パンジー等の花壇苗の栽培実習を通して、栽培技術や利用に関する基礎学習を実施 ・11月下旬から、施設栽培に重点を置き、切花専攻または鉢物専攻に分かれて学習 ・切花専攻では、県内の主要品目の施設栽培のバラ、トルコギキョウ、カーネーション、ガーベラ等の栽培管理から、収穫・調製、販売まで、より専門的な管理技 	<p>果樹学科の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年では果樹栽培全般について学ぶ ・静岡県の主要果樹である柑橘・梨・キウイフルーツについて、校内果樹園を利用して実習形式で学習 ・1人ずつ担当の樹を決めて、摘果・病害虫防除・収穫・販売・加工・施肥・整枝せん定など1年間の管理作業に取り組む ・果樹園でよく使用される、刈り払い機や乗用型防除機などの管理機械の操作方法について習得

	<p>術を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉢物専攻では、シクラメン、ポインセチアなどの鉢花や、コチョウラン、観葉植物、花壇苗など、多岐にわたる品目を栽培し、栽培管理、植物調整剤の利用、日長処理、出荷・調製等について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・年数回行う校外学習では、農林技術研究所 果樹研究センターや先進農家を訪問して最新の技術や経営手法を学ぶ ・2 学年では1 年次の基礎学習を基に、農林技術研究所 果樹研究センターの研究員の指導を仰ぎ、より専門的な学習を行う ・2 か月間の先進経営研修をはじめ、県外視察研修を通して、視野を広め幅広い知見を身に付ける ・大型機械研修がカリキュラムに含まれ、資格取得の機会がある
	<p>畜産学科の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 学年は、酪農、肉牛を専攻する大家畜コースと養豚・養鶏を専攻する中小家畜コースに分かれ、小数精鋭で学習する ・大家畜コースでは、乳牛や肉牛の飼養管理や繁殖等、経営全般にわたる深い専門知識と技術を習得し、毎年秋に開催される静岡県畜産共進会に出品、優秀な成績を収めている ・中小家畜コースでは、鶏や豚の飼養管理や育種繁殖、衛生疾病等、経営全般にわたる深い専門知識と技術を習得する ・両コースとも、各畜種の優良農家における先進経営研修（約2 か月間）や卒業論文の作成に加え、家畜人工授精師講習会（牛・豚）に参加し、修業試験に合格すると家畜人工授精師免許取得が可能となる 	<p>林業学科の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 学年で、林業機械・器具の取扱いやシイタケ・山菜の栽培、苗木の育成、測量の実習を通して、基礎的な技術を習得 ・2 学年では、森林現場での実習が授業の中心となり、分校（浜松市）に隣接する森林・林業研究センターの研究者から直接指導を受け、専門的な学習に取り組み、卒業論文の作成を行う ・林家や林業関係の会社等における2 か月間の先進経営研修がある ・2 年間の学習・実習で得られる免許資格 <ul style="list-style-type: none"> ●フォークリフト運転資格 ●伐木業務に係る特別教育
	<p>研究部（専門共通科目）</p>	<p>農業コース（専攻科目）</p>
	<p>植物生理学</p>	<p>作物学概論</p>
	<p>植物病理学</p>	<p>応用育種学</p>
	<p>土壌肥料学</p>	<p>果樹園芸学</p>
	<p>情報処理論</p>	<p>畜産学概論</p>
	<p>経営マネジメント論</p>	<p>家畜飼養管理学</p>
	<p>アグリビジネス論</p>	<p>農業政策論</p>

マーケティング論	生産組織論
農業機械論	農業経済学
農畜産物加工論	農学実験
農畜産物加工実習 I	野菜園芸学
新規就農支援演習	花き園芸学
海外農業事情 I	農業統計学
応用昆虫学	卒業論文 I
環境科学	野菜園芸学
経営特別講座	花き園芸学
専門技術専攻（専門科目）	食品機能学
農業時事	工芸作物学
就農構想作成演習 I	農業経営学
研究論文 I	農業会計学
農業経営	農業土木学
経営研究	農業技術総論
農業気象	農業経営実習
流通研究	応用育種学
実践研究	果樹園芸学
就農構想作成演習 II	卒業論文 II
農林事務所学習	林業コース（専攻科目）
海外農業事情 II	林業経営論
研究論文 II	林業税制論
実践技術経営専攻（共通科目）	林業政策
農業時事（農林業汎論）	森林土壌学
農業経営（農林業経営）	森林保護論 II
研修報告書作成演習	森林環境論
特別講義（植物防疫学・土壌肥料学・植物生理学・情報処理学・農学実験・農業経営演習 I・植物栽培概論 I）	林産物流通論
実践技術経営専攻（専門科目）	林業工学
研修活動 I、II、III（経営計画作成）	森林インストラクター養成講座
研修報告書作成	木材工学
農林事務所学習	特用林産論
実践技術経営専攻の特徴	森林機能保全
卒業後に、即就業できる「農業経営者」の	卒業論文 I

育成	
● 3段階の課程から成り立つ	造林学
I 「基礎学習」	森林・林業研究センター演習
農業に関する基礎知識、技術の習得、農業 施策・植物防疫・土壌肥料	樹木学演習
II 「実践学習」	林業技術実習
先進的な経営を行っている農家や法人等 における研修（栽培技術・経営ノウハウの 習得）	林業技術実習(林業用種苗)
III 「事後学習」	林業技術実習(抵抗性マツ)
「実践学習」成果のまとめ 研修報告書作成演習、農業経営計画作成、	林業技術総論
農林事務所学習	卒業論文Ⅱ
専門技術専攻の特徴	総合技術専攻の特徴
<ul style="list-style-type: none"> ・「マーケティング論」高度な技術と優れた経営管理能力を備えたビジネス経営体を目指す農業後継者を育成するため、販売戦略について学ぶ ・「経営マネージメント論」簿記と農林業 税務、労務管理について学ぶ ・「アグリビジネス論」農業法人や農畜産物の流通について学ぶ ・「流通研究」就農に役立つ科目の集中講義や、流通・販売面から農業経営を考える ・「経営研究」様々な農業経営や考え方に触れて起業家精神を培う ・「実践研究」夢や目標を実現するために必要な技術・知識を習得する学習 ・「海外農業事情Ⅱ」国際的な感覚を養って大きな視野を持つために短期間の海外研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農林業指導者・技術者として必要な総合的な知識・技術の習得や、学生が自主的に設定した卒業論文活動の学習を行う ・農業、林業の共通科目には、教養科目と「農村調査実習」や「指導実習」等農林業の生産現場で学習する科目がある ・農業専攻生は、大学や試験研究機関の経験者など多彩な講師陣による専門科目の講義や掛川機械研修場で行う「農業機械論」がある ・林業専攻生は、専門科目の講義の中で森林インストラクターを目指し、林家研修、森林組合研修、樹木医研修、森林・林業研究センター研修などの実践的学習を行う

取得目標資格・技能	日本農業技術検定、大型特殊自動車運転免許（農耕用）、大型特殊自動車けん引免許（農耕用） フォークリフト運転者（講習修了証）、ボイラー技士（2級）、小型ボイラー取扱業務特別教育 ボイラー取扱技能講習、茶手揉教師補、家畜人工授精師免許、チェーンソー作業従事者特別教育講習、樹木医補資格（林業部門）
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
平成 23 年度卒業 者	4 名	16 名	2 名	8 名	44 名	2 名		

主な就職先	備考：平成 23 年度卒業生
国家公務員（三種林業）、静岡県経済農業協同組合連合会、静岡県森林組合連合会、社団法人静岡県畜産協会、JA 静岡市、 JA ハイナン、龍山森林組合、(株) パロー、(株) コメリ、米久 (株)、(株) いでぼく、ニクセン (株)、クミアイ化学工業 (株)、日星石油 (株)、(株) アグリコ静岡、(株) 内山商会、(株) やまも満寿多園、(有) 石原や、(株) 立花ガーデン、 (株) フローラ 45 小林岩夫生花店、社会福祉法人草笛の会	
国内研修	愛知県、群馬県
大学編入	静岡大学

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	新潟県農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.niigata.lg.jp/nogyodai/index.html
学科・定員など	学科 2年課程 80名 稲作経営科：40名程度 稲作専攻 園芸経営科：30名程度 野菜専攻・果樹専攻・花き専攻 畜産経営科：10名程度 酪農専攻・肉畜専攻 研究科 2年課程 10名

カリキュラム（科目）	学科共通 主な教養科目	稲作経営科の特徴
	くらしの経済・くらしの英語・くらしの文学	・50アール区画の水田で高品質・低コスト・環境保全型稲作の生産経営技術を学ぶ ・農場単位（学生5～7名で6農場を編成）で稲作経営を実践し、設定した経営目標や課題解決に取り組む「経営実践・課題解決学習」 （H23年度の主な課題） ① コシヒカリ無農薬無化学肥料栽培の検討 ② コシヒカリ（又はこしいぶき、ゆきん子舞）の農薬・化学肥料7割減栽培の検討 ③ コシヒカリ（又はこしいぶき）栽培におけるケイ酸追肥の登熟向上効果の検討 ④ コシヒカリの直は栽培の検討
	学科共通 主な専攻科目	
	稲作・野菜・果樹・花き・酪農・肉畜	
	学科共通 主な専門科目	
	作物概論・園芸概論・畜産概論	
	植物防疫・土壌肥料	
	農業技術基礎・農業経営・流通販売経営	
	エコロジー・社会見学・情報分析	
	食品化学・農産加工・食品衛生	
	海外農業研修	
	実用資格取得	
園芸経営科の特徴	畜産経営科の特徴	
野菜・果樹・花きをハウス施設・環境制御温室・露地ほ場を活用して実践力のある栽培技術や経営管理、基本的なバイオテクノロジー技術を学ぶ	・搾乳ロボットや自給飼料生産により、高品質でおいしい乳牛・肉用牛の管理・生産・加工の生産技術・経営管理を学ぶ ・酪農専攻と肉畜専攻に分かれ生産者という立場になり、衛生管理の大切さを学ぶ	
【野菜専攻】		
・「いちご（越後姫）」、「えだまめ」、「ねぎ」など県内主要野菜の技術について、基		
	【花き専攻】	

	礎から実践までの知識・技術を学ぶ ・1年次は講義と実習で基礎、2年次は自らが選択した品目の調査研究、栽培管理から販売の実践	・切り花出荷量が全国トップクラスのユリ・チューリップや1・2年草切り花を中心に、栽培技術を学ぶ ・1年次は講義と実習で基礎、2年次は学生自ら計画した品目の栽培管理から販売までの全てを学ぶ
	【果樹専攻】	
	・西洋なし「ルノアール」、「おけさ柿」など県内主要な果樹9種類が植えられた園地で、基礎から応用まで知識・技術を学ぶ ・2年次には自分が育てたい果樹を選択、1年間栽培管理から販売までの全てを実践する	

取得目標資格・技能	危険物取扱責任者（乙4類）・毒物劇物取扱責任者（農業用品目）・大型特殊自動車（農耕用）免許・けん引（農耕用）免許・フォークリフト運転技術講習修了証・小型車両系建設機械運転特別教育修了証・固定式クレーン（5t未満）運転特別教育修了証・玉掛け（1t以上）運転特別教育修了証・新潟農業機械士・園芸装飾（3級）・フラワー装飾販売士（3級）・家畜人工授精師・2級認定牛胴蹄師資格
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
	23%	14%	12%	8%	43%			

分類	主な就職先
農業生産法人	(有)グリーン、(有)ファームスタッフ、(有)安田興和農事、(株)ごはん、(有)高儀農場、(有)グリーンファームなかむら、(有)山波農場、(有)小畑農場、(有)ホープイン中沢、(農)木津みずほ生産組合、(有)米工房いわむろ、(有)アグリカンパニーこしじ、(有)若林農園、(農)長畝生産組合、(農)濁川生産組合、(有)佐々木耕起組合、(有)高義園、(有)コスモグリーン、(有)鈴木農園、(有)セブン・システム、(農)新潟育苗センター、(農)松田牧場、(有)扶桑畜産、(株)タカノファーム、(農)八幡農場、(農)朝日ヶ池農場、(有)山崎農場
農協・団体など	JA十日町、JAひすい、JA越後ながおか、JAにいがた南蒲、JA北魚沼、JA中条町、JA越後おぢや、JA津南町、JA越後中央、JAにいがた岩船、JA豊栄、JA佐渡、新潟県酪農、JA東日本くみあい飼料、両津産業振興公社、ゆきぐに森林組合、南魚沼森林組合、JA来た越後、JA新潟みらい、JA越後さんとう、NOUSAI下越
農業関連産業	(株)ヤンマー農機新潟、(株)クボタアグリ東日本、東日本三菱農機販売(株)、新潟トセキ販売(株)、北越農事(株)、吉田農事(株)、オリーブ(株)、日本ニューホーランド

	(株)、大島農機(株)、(株)新植、(株)白熊商店、たいまつ食品(株)、(株)米三、岩村養鶏(株)、丸一新潟青果(株)、間生花店、(有)フラワーステーション
公務員	長岡市、胎内市
進学	新潟県農業技術学院（～H17）、新潟県農業大学校研究科（H19～）
他産業	サントピアワールド、(株)越後伝衛門、(株)コメリ、チャレンジャー、プラント5

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	岐阜県農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/nogyo/ninaiteikusei/nogyodaigakko/
学科・定員など	合計 30 名 2 年課程 野菜・果樹学科 野菜専攻 果樹専攻 畜産学科 肉用牛専攻 酪農専攻 養豚専攻

カリキュラム (科目)	【野菜専攻】 専門講義	【野菜専攻】 実習内容
	野菜の生理生態、栽培技術の基礎的知識、野菜栽培の現状、野菜園芸学概論、葉菜類の栽培技術、根菜類の栽培技術、果菜類の栽培技術、野菜産地視察・調査、養液栽培、環境に配慮した農業生産	施設野菜（トマト、イチゴ、キュウリ、ホウレンソウ、メロン） 露地野菜（ダイコン、スイカ、カボチャ、ナス、ピーマン、キャベツ、タマネギなど）
	【果樹専攻】 専門講義	【果樹専攻】 実習内容
	果樹の種類と環境、果樹生産の基礎、果樹栽培技術、ナシの栽培技術、モモの栽培技術、カキの栽培技術	果樹（カキ、ナシ、モモ）の栽培、農機具の取扱
	【肉用牛専攻】 専門講義	【肉用牛専攻】 実習内容
	肉牛の特徴や飼育管理の基礎的知識・肉牛の飼育管理に対する専門的知識	肉牛の飼育管理一般、飼料作物栽培
	【酪農専攻】 専門講義	【酪農専攻】 実習内容
	乳牛の特徴や飼育管理の基礎的知識・乳牛の飼育管理に対する専門的知識	乳牛の飼育管理一般、飼料作物栽培
【養豚専攻】 専門講義	【養豚専攻】 実習内容	
豚の特徴や飼育管理の基礎的知識・豚の飼育管理に対する専門的知識	豚の飼育管理一般	

取得目標資格・技能	農業機械士資格、毒物劇物取扱者資格、大型特殊免許（農耕用）、けん引免許（農耕用）、ボイラー取扱技能者資格、危険物取扱者資格、フォークリフト資格、農業管理指導士資格、※家畜人工授精師資格（平成 25 年度実施予定）
-----------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
平成 23 年度卒業 者	1名	7名	1名	1名	18名			

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	愛知県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.aichi.jp/000009992.html
学科・定員など	<p>教育部</p> <p>農学科 2年課程 合計 100名</p> <p>園芸農産課程</p> <p>鉢物・緑花木専攻・切花専攻・作物専攻・果樹専攻・露地野菜専攻・施設野菜専攻</p> <p>畜産課程</p> <p>酪農専攻・養豚・養鶏専攻</p> <p>研究科 2年課程 合計 20名</p> <p>園芸農産専攻、畜産専攻</p> <p>研修部</p> <p>農業者向けの研修</p> <p>青年農業者リーダー研修</p> <p>専門高度化研修</p> <p>作物・茶、野菜、花き、果樹、畜産</p> <p>オープンラボラトリー研修・コンピュータ・農産加工・農業機械に関する研修</p>

カリキュラム（科目）	農学科 共通教養科目	鉢物・緑花木専攻の学習内容
	くらしと経済・くらしと法律 1	鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木を中心に
	自然科学・生物学実験	に専門的な栽培技術を習得する
	実践英語・体育	切花専攻の学習内容
	全科 共通専門科目	キク、カーネーション、バラ、洋花を中心に専門的な栽培技術を習得する
	経営管理・経営管理演習	
	農業経営 1・農業政策 1・農業政策 2、農業簿記	作物専攻の学習内容
	土壌肥科学・土壌肥科学実験	1ha の大区画ほ場、大型機械を利用した
	農業機械利用・農業機械実習	水稻省力栽培や小麦栽培など今後の水
	情報処理演習	田経営に必要なノウハウを習得する
	環境保全と農業	果樹
	海外派遣研修	県下で生産されている果樹、ハウスでブ
	農学科 共通選択科目	ドウ・ミカン・イチジクの栽培技術を習得する
	農業経営 2・農村生活環境	露地野菜

くらしと法律 2・労働の科学	県下で代表的なキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、スイートコーンを中心とした機械利用栽培をはじめ、ハウスイチゴの栽培技術を習得する
健康と栄養科学	
文章表現、実用数学	
農業時事・作物学概論	
バイオテクノロジー論	施設野菜
資格取得講座 1・資格取得講座 2 資格取得講座 3・資格取得講座 4	近代的施設でトマト、ミニトマト、メロン、キュウリ、ナス等の栽培技術を習得する
園芸農産課程 専門科目	酪農
育種と採種・植物生理 1・植物生理 2	フリーストール・ミルクパーラー方式による飼養管理技術と肉牛の飼育技術を習得する
土壌と施肥設計・病害虫と防除計画	
派遣実習・卒業論文	
畜産課程 専門科目	養豚・養鶏
家畜栄養・家畜育種・家畜繁殖・家畜生理	システム豚舎による繁殖肥育一貫養豚経営のノウハウ及びウインドレスシステム成鶏舎、育雛舎による省力管理、養鶏経営を習得する
飼料作物	
派遣実習・卒業論文	

取得目標資格・技能	大型特殊免許（農耕車に限る）・けん引免許（農耕車に限る）・危険物取扱者・農業機械士 2級ボイラー技士免許・毒物劇物取扱者・家畜人工授精師・小型車両系建設機械特別教育修了証 簿記検定・アーク溶接特別教育修了証・フォークリフト技能講習修了証・刈払機取扱作業安全衛生教育修了証
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	備考
	44%			27%	29%		就農には一時就職後就農、研修後就農を含む

分類	主な就職先
公務員など	
県内農協関係	JA あいち経済連、JA 尾張中央、JA あいち知多、JA あいち三河、JA あいち中央、JA あいち豊田

	JA 西三河、JA 愛知東、JA 豊橋、JA 愛知みなみ、中部たばこ耕作組合
企業関係	イシグログループ、(株)コメリ、(株)アグリコ中部、日本配合飼料(株)、(株)東海クボタ、 成和环境(株)、(株)金星商会、東海物産(株)、豊橋飼料(株)、鋤柄農機(株)、(株)フィールコーポレーション、山本機械販売(株)、(株)中神種苗、(株)クボタアグリ西日本、ヤンマー農機販売(株)
農場・牧場関係	伊藤農園、(有)JAVU、(株)中甲、(有)今善トラクター、(有)はっぴー農産、(有)マルトビーフ牧場、(有)皿井植物園、(農)アグリ知立、野崎種苗、高木園芸、新見牧場、(株)扶桑農産、ジョイフルファーム鶉の池、藤井農園、横山農園、(株)南設ファーム
青果物等市場関係	(株)豊橋中央青果、一宮青果(株)、(株)福花園花き地方卸売市場
その他	愛知県職員、農業高校実習助手

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	三重県農業大学校
ホームページ URL	http://www.mate.pref.mie.lg.jp/nodai/
学科・定員など	合計 40 名 養成科二年課程 30 名程度 水田作コース・茶業コース・野菜コース・花きコース・果樹コース・畜産コース 養成科一年課程 10 名程度 水田作コース・茶業コース・野菜コース・花きコース・果樹コース・畜産コース

カリキュラム (科目)	共通 教養科目	水田コース専攻科目
	文学 (文学表現)・くらしと法律・くらしと経済 統計学・情報処理・英語 (実用英会話) 農業基礎・現代社会と文化・体育	稲作基本栽培・麦・大豆栽培・露地野菜栽培 水稲低コスト栽培・稲作機械施設・稲作論・稲作経営
	共通 専門科目	茶業コース専攻科目
	農業経営・農業簿記・農政学・農産物流通	茶栽培各論Ⅰ・茶栽培各論Ⅱ
	作物概論・園芸概論・畜産概論	茶利用加工各論Ⅰ・茶利用加工各論Ⅱ
	植物生理・植物育種	野菜コース専攻科目
	生物工学・作物保護・土壌肥料・環境保全と農業	果菜類Ⅰ・果菜類Ⅱ・葉茎菜類 根菜・いも類
	農業気象学・農業機械論	
	大型特殊免許	花きコース
	[選択科目・1科目を選択] 食品科学・有機農業・園芸福祉	切花・鉢花・観葉植物・洋らん・花木・造園
		果樹コース
	[選択科目・2科目を選択] 農産加工・土壌分析・コンピュータ演習 バイオテクノロジー・フラワーデザイン 農業機械整備	果樹総論・果樹各論Ⅰ・果樹各論Ⅱ
		畜産コース
		家畜生理・家畜衛生・飼養管理・家畜繁殖 家畜飼料・家畜栄養・家畜育種
	[選択科目・2科目を選択] 大型特殊免許 (けん引)・毒物・劇物・危険物 フォークリフト運転技能・簿記会計・ガス溶接	全コース共通
		専攻実習・産地実習・農家実習・専攻実験 課題解決演習・卒業論文

	営農指導員	
--	-------	--

専攻コース	特徴
水田作	水稲、小麦、大豆、露地野菜等の栽培を中心に実践的な技術を習得する 省力化、近代化に対応した高度な技術・知識の習得による経営能力の向上を目指す
茶業	コミュニケーションを大切に、実験もふんだんに取り入れて実習や講義を進める 茶種は緑茶（普通せん茶、かぶせ茶など）から紅茶、烏龍茶まで幅広く対応する
野菜	トマト、キュウリ、イチゴ、露地野菜等の栽培を中心に実践的な技術を習得する 省力化・近代化に対応した高度な技術、知識の習得による経営能力の向上を目指す
花き	切り花、鉢花、花木等の栽培を中心に実践的な技術を習得する ま省力化・近代化に対応した高度な技術、知識の習得による経営能力の向上を目指す
果樹	ナシ、ブドウ、ミカン、カキ等の栽培を中心に実践的な技術を習得する また、省力化・近代化に対応した高度な技術、知識の習得による経営能力の向上を目指す
畜産	酪農、肉牛、養豚、養鶏の中から専門畜種を選択し、実習、講義とも各専門スタッフ がマン・ツー・マンで指導する 飼養管理や飼料生産の機械操作技術を習得できる

取得目標資格・技能	大型特殊自動車免許（農耕用）・けん引免許（農耕用）・毒物劇物取扱者・溶接技能士（ガス） 危険物取扱者（乙種4類）・フォークリフト運転技能・農協営農指導員・日商簿記（3級）
-----------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
	8名				13名		5名	
備考	平成23年度2年課程卒業生26名の内訳 就農には、農業法人への就職を含む、就職は、農業関連企業、農業外の合計							

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	専修学校 滋賀県立農業大学校（農業技術振興センター農業大学校）
ホームページ URL	http://www.pref.shiga.jp/g/nogyo-nodai/
学科・定員など	養成科 2年課程 30名 農産課程 作物コース・茶コース 園芸課程 野菜コース・花きコース・果樹コース 畜産課程 畜産コース 就農科 1年課程 若干名 野菜コース・花きコース・果樹コース

カリキュラム（科目）	専攻別学習内容・実習	就農科の主な講義
	作物コース ・水稲や麦・大豆などの栽培技術 ・省力、低コスト栽培、有機栽培 ・食味向上などの技術の習得	経営管理技術 ・農業経営管理基礎 ・農業政策・法務 ・パソコン農業簿記 ・農業マーケティング論
	野菜コース ・メロンやトマトなど果菜類や露地野菜の栽培技術、養液栽培、少量土壌培地耕など高度な生産技術の習得	栽培管理技術 ・専攻部門の概論 （野菜・花き・果樹のいずれか）
	果樹コース ・ブドウ、ナシ、モモ、カキなどの果樹栽培技術の習得	・選択作目の概論 ・選択作目の栽培管理法
		就農計画ゼミ
	花きコース ・カーネーション栽培やバラ・キクなどの施設切り花やシクラメンなどの鉢物、花苗、露地切り花など多彩な品目の栽培技術の習得	・研修終了後の農業経営について経営計画の樹立
		就農科実習
	畜産コース ・近江牛で知られている肉牛や肉用鶏の飼育技術の習得	栽培管理実習 ・野菜専攻コースは、就農科専用の施設を活用して栽培管理技術の習得を図る ・花き・果樹専攻コースは、養成科の施設を活用して栽培管理技術の習得を図る
	茶コース	

	・全国的に知られている近江茶の栽培と製茶技術の習得	販売管理実習 ・栽培管理実習で得られた農産物について、研修生自らが販売実習を行い、実践的販売管理を学ぶ
	技術の習得と研修	
	農業機械等の研修 ・大型特殊自動車であるトラクターの運転およびけん引運転技術の習得と免許取得に向けた研修	経営管理実習 栽・培管理実習・販売管理実習の結果を記帳し、経営管理を学ぶとともに実習の成果を数字で表すことにより緊張感のある実習を実施
	情報処理研修 ・コンピュータの操作や農業経営分析など情報処理技術の習得研修	

取得目標資格・技能	大型特殊免許（農耕用）・けん引免許（農耕用）・危険物取扱者（乙種各類）・2級ボイラー技士 ボイラー取扱技能講習・フォークリフト運転技能講習・アーク溶接等の業務特別教育 ガス溶接技能講習・家畜人工授精師（畜産専攻生）・農業機械士・玉掛け技能講習 床上操作式クレーン運転技能講習・小型移動式クレーン運転技能講習 小型車両系建設機械運転特別教育・車両系建設機械技能講習
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
	10名		4名		18名			
備考：平成 23 年度養成科卒業生 32 名の内訳・就職は農業団体・関連企業（農業生産法人含む）、その他企業の合計								

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	京都府立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.kyoto.jp/kyonodai/
学科・定員など	農学科 2年課程 20名程度 野菜経営コース、茶業経営コース 研修科 別途定める期間、別途定める定員

カリキュラム（科目）	農学科教養科目	野菜経営コース選択科目
	国語・情報処理・農業基礎・特別講義	園芸演習・葉根菜類栽培・果菜類栽培
	農学科専門共通科目	花き栽培・園芸施設概論・園芸経営
	農業簿記・植物生理・作物概論・作物保護	茶業経営コース選択科目
	園芸概論（野菜、花き）・茶業概論・土壌肥料	茶業概論・茶業演習・茶栽培・茶製造
	農業基礎・農業経営・農政時事・農業気象	茶土壌肥料・茶病害虫・茶審査・茶機械整備
	農業機械・農学実験・就農計画・農産加工	茶経営
	市場流通・マーケティング論・育種学	
	農学科実習	
	基礎実習・専攻実習・プロジェクト研究	
農業機械実習・先進農家派遣実習		

取得目標資格・技能	京野菜検定・日本茶インストラクター認定・日本茶アドバイザー認定・日本農業技術検定(2級) 日本農業技術検定(3級)・危険物取扱者試験・大型特殊自動車(農耕)運転免許・農業機械士認定 小型建設機械運転技能講習修了・小型フォークリフト運転講習修了・アーク溶接講習修了
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
	1名	14名	1名		2名			
備考：平成23年度卒業生の進路 合計18名分								

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 農業大学校
ホームページURL	http://www.epcc.pref.osaka.jp/af/kakubu/nodai/nodai2/HTML/nodai2.html
学科・定員など	養成科コース 2年課程 25名 専攻分野（2年次） 土壌・環境保全、病害虫、野菜、果樹、花き、水稲、緑化、水質環境、生物資源、酪農、家きん、品質科学、養液栽培、農業機械等

カリキュラム（科目）	養成科コース1年次科目	養成科コース2年次科目
		作物概論・果樹概論・野菜概論・花き概論
	応用昆虫・植物病理・土壌肥料・農業演習	農業概論・複式簿記・情報処理・農産加工
	畜産汎論・生物工学・植物生理・情報処理	園芸福祉・育種・家畜飼養管理・農業気象
	農業基礎・農業協同組合論・農業機械・農業汎論	雑草防除・造園緑化・施設園芸・農業土木
	特別活動・実習	森林生態・環境保全・特別活動・専攻実習
	実習	専攻分野
	・1年目は広大なフィールドを存分に活用し野菜、水稲、花き、果樹、畜産、緑化等幅広い分野について、基礎的な技能を学ぶ ・農業実習として、6～7名程度の班編成で農大教育ほ場及び研究部門において技術（販売）実習 ・農家実習は、5日間「農の匠」で、実際の農業を体験する（※大阪府「農の匠」とは、自ら優れた農業経営を行い、将来の地域農業の中核となる農業後継者の確保、育成に深い理解と熱意で、指導的役割を果たし、意欲的に地域農業の振興に取り組んでいる 農業者として、大阪府知事より認定を受けている者）	土壌・環境保全、病害虫、野菜、果樹、花き、水稲、緑化、水質環境、生物資源、酪農、家きん、品質科学、養液栽培、農業機械 専攻実習 希望する当研究所研究室での個別・少人数指導により履修し、その成果を卒業論文としてまとめる

取得目標資格・技能	毒劇物取扱者・危険物取扱者・大型特殊免許（農耕用）
------------------	---------------------------

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定	備考
※人数は非公開								

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	専修学校 兵庫県立農業大学校
ホームページ URL	http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/nodai/
学科・定員など	養成部門 2年課程 合計 40名 農産園芸課程 作物専攻・野菜専攻・花き専攻・果樹専攻 畜産課程 肉牛専攻 研修部門 農業者に対する研修 新規就農・Uターン就農に対する研修 学校教育と連携した研修

カリキュラム（科目）	養成部門 共通教養科目	農産園芸課程専攻科目
	初年次教育・経済・心理・英語ⅠⅡ	栽培各論（作物・野菜・果樹・花き）ⅠⅡⅢ
	情報処理演習・文章表現・論文読解・体育	流通各論（作物、野菜、花き・果樹）
	養成部門 共通専門科目	育種ⅠⅡ・植物生理・病害虫ⅠⅡ
	農業基礎ⅠⅡ・食物栄養ⅠⅡ・生物ⅠⅡ	土壌肥料Ⅱ・農業機械ⅡⅢ・農業施設
	作物概論・園芸概論・畜産概論・農業経営	農業土木・景観園芸・食品加工・応用生物
	農業と食料のしくみ・農村社会・農業簿記演習	畜産課程専攻科目
	協同金融共済・土壌肥料Ⅰ・農業機械Ⅰ	家畜栄養飼料・家畜飼養管理ⅠⅡⅢ
	環境創造型農業・統計処理・農政時事・農業政策	家畜育種ⅠⅡ・家畜解剖生理・家畜繁殖
	農業と環境・現代実践農業・卒業論文	飼料作物・家畜生理衛生・畜産流通
	養成部門の実習	畜産機械施設・肉用牛ⅠⅡ・乳用牛ⅠⅡ
	実習Ⅰ（専攻実習）	畜産経営・畜産環境保全
	実習Ⅱ（資格取得、農家等派遣実習、海外等農業研修）	野菜専攻の特徴
	作物専攻の特徴	・各種野菜の栽培から流通に至るまでの理論や技術や経営などの幅広い知識に

	<ul style="list-style-type: none"> ・水稲・麦・大豆等の作物について、土作り・機械化等の栽培管理、流通システムなど、農業経営に必要な専門的技術を学習 ・実習では、水稲の機械化体系を中心に、麦・丹波黒大豆・小豆・イモ類の栽培管理技術や収穫から販売に至る技術の実践、並びに大型トラクタ等の運転操作等の習得を図る ・プロジェクト学習では、水稲の植栽密度による収量影響や牛糞ぼかし肥料の効果等の環境に配慮した栽培技術確立、黒大豆や小豆などの栽培比較試験などに取り組む 	<p>ついて学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習では、農大ブランド品目の一つである完熟トマトの栽培や軟弱野菜、だいこん、はくさい、キャベツ、たまねぎなど多品目の栽培に取り組み、基本技術の習得を行う ・プロジェクト学習では、トマト、いちごの品質向上や路地野菜の品種比較、各種資材の効果確認をはじめ、最近注目されている IPM 栽培にも取り組む
	<p>果樹専攻の特徴</p>	<p>花き専攻の特徴</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培の基本的理論と果樹園管理や整枝技術、収穫・流通などについて学習 ・実習では、県下主要果樹を中心に、ぶどう、梨、栗、いちじく、もも等の基本的な栽培管理技術に加え、農業技術センターで開発した技術について実践する ・プロジェクト学習では、栽培管理の改善による果実品質向上や肥大や糖度などの品種間の比較、品種別のジベレリン処理手法の比較に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・花き類の栽培概論から栽培各論にて、植物の分類や植物生理を中心に、基礎から応用に至る栽培技術について学習 ・実習では、ガラス温室やパイプハウス温室等で、バラ（ロックウール栽培）、カーネーション、菊、クルクマ、ユーストマなどの切花、及び春出し・秋出しの花壇苗を周年栽培 ・育苗から出荷までの栽培技術と直売や市場出荷を行い、経営感覚を習得する ・プロジェクト学習では、切花の管理技術の改善や花壇苗の施肥量、矮化処理の高品質化に向けた課題設定や、生産物を出荷して行う市場動向調査に取り組む
	<p>肉牛専攻の特徴</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産概論、家畜生理学、家畜飼養学、家畜繁殖学等、畜産に必要な幅広い知識を修得するための学習を行う ・実習では、全国に誇る但馬牛約50頭を飼育し、繁殖・肥育一貫経営に対応できる飼養管理技術について、基礎から応用まで幅広い実習実践 ・日常の管理では、牛の健康状態の把握、手入れの仕方や飼料調整、人工授精等の繁殖技術や削蹄、去勢等の管理技術を修得 ・プロジェクト学習では、母牛・子牛管理 	

	や肥育管理等の効率的技術改善に向けた課題を設定して取り組む	
--	-------------------------------	--

取得目標資格・技能	大型特殊自動車運転免許・毒物劇物取扱責任者・危険物取扱者・農業機械士・指導農業機械士 家畜人工授精師・フォークリフト技能・小型車両系建設機械・アーク溶接技能・ガス溶接技能
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	1名	14名		3名	19名		2名
備考：平成 23 年度卒業生 39 名の内訳、農業法人には研修等も含む							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	奈良県農業大学校
ホームページURL	http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1767.htm
学科・定員など	<p>基礎課程 1年課程 20名程度 野菜コース・花きコース・果樹コース・茶コース・畜産コース</p> <p>専門課程 1年課程 20名程度 (基礎課程入学者は原則、専門課程も継続修業する) 野菜コース・花きコース・果樹コース・茶コース・畜産コース</p> <p>高度専門課程 1年課程 10名程度 野菜コース・花きコース・果樹コース・茶コース・畜産コース</p>

カリキュラム (科目)	基礎課程 主な教養科目	専門課程 専門共通科目
	特別講義・情報処理演習 1	農業簿記・農業経営実践論・農業政策
	基礎課程 専門共通科目	環境保全型農業・食の安全・安心
	農業経営・農業機械・土壌肥料・植物保護	マーケティング論・農産物流通
	作物概論・野菜・チャレンジ品目概論	専門課程 専攻科目
	花き・チャレンジ品目概論・果樹	各専攻コース別各論 1～3・園芸経営
	チャレンジ品目概論・茶業概論・畜産概論	専門課程 実験
	農業薬剤・危険物	生物工学実験
	基礎課程 専攻科目	専門課程 演習
	各専攻コース別各論 (植物生理・育種・園芸施設、農業と環境など)	専攻演習 2
	基礎課程 演習	専門課程 実習
	基礎演習・専攻演習	専攻実習 2
	基礎課程 実習	高度専門課程 専攻科目
	農業機械実習・基礎実習・園芸実習	高度経営論・高度実践論・高度技術論
	特産品開発実習・専攻実習 1	高度専門課程 演習
専門課程 主な教養科目	高度専攻演習	
情報処理演習 2	高度専門課程 実習	
	専攻実習	

取得目標資格・技能	<p>農業機械士・車両系建設機械運転技能講習・大型特殊自動車運転免許(農耕車限定)</p> <p>アーク溶接特別教育・けん引運転免許(農耕車限定)・フォークリフト運転技能講習</p> <p>毒物劇物取扱者資格・家畜人工授精師(畜産コースのみ)・危険物取扱者資格</p>
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
備考：進路に関しては非公開。平成 24 年度の在校生は、基礎課程 21 名、専門課程 13 名、高度専門課程 0 名							

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	専修学校 和歌山県農業大学校
ホームページ URL	http://www.ag-wakayama.ac.jp/
学科・定員など	養成部門 園芸課程 2年課程 40名 果樹コース・野菜コース・草花コース

カリキュラム (科目)	教養科目	専攻科目
		外国語・体育・初年次教育
	専門共通科目	野菜コース：野菜各論
	GAP・生物概論・病害虫・土壌肥料・農業気象	花きコース：花き各論
	作物概論・果樹概論・野菜概論・花き概論	プロジェクト学習
	農業機械・農業経営・農業簿記・農業政策	実習
	農業法人論・農協講座・農産物流通	果樹コース：果樹実習
	マーケティング・環境保全型農業・施設環境工学	野菜コース：野菜実習
	食品科学・特別講義・コース別ゼミ	花きコース：花き実習
	資格技能講座	
	演習	
	情報処理・応用情報処理	
	生物工学・食品科学	
	農業機械・実験演習・営農設計・卒業論文	
	実習	
	園芸課程一般・実物診断	
	インターンシップ(農家留学、市場研修他)	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車(農業用)・毒物劇物取扱者・危険物取扱者・フォークリフト運転技能 小型車輛系建設機械(整地等)・農業技術検定2級(全国農業会議所)・アーク溶接 刈払機安全衛生教育・農業機械士・園芸技術員資格(和歌山県JA)
-----------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定

備考：人数は非公開。平成24年度入学生は16名

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	鳥取県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.tottori.lg.jp/60820.htm
学科・定員など	<p>養成課程</p> <p>農業経営学科 2年課程 30名</p> <p>果樹コース・野菜コース・花きコース・作物コース・畜産コース</p> <p>研修課程</p> <p>短期研修科</p> <p>3か月コース 果樹専攻、野菜専攻、花き専攻、畜産専攻、作物専攻</p> <p>6か月コース 果樹専攻、野菜専攻、花き専攻</p> <p>12か月コース 果樹専攻、野菜専攻、花き専攻、畜産専攻</p>

カリキュラム (科目)	農業経営学科 1年次 主な科目	農業経営学科 2年次 主な科目
	農業全般基礎学習・病害虫・農業の基礎的科目	専門学習 (流通・販売・経営)
	栽培方法・土壌肥料・農業機械・植物生理	販売マーケティング・経営計画・情報処理
	実習	農業法人・経営に関する講義・演習
	基礎的栽培実習	農家・留学・研修
	プロジェクト実習	26日間
	専攻コース別基礎学習	総括学習
	園芸学各論 (果樹・野菜・花き)・作物概論	農業経営計画
	畜産関係各論コースごとの講義・実験・演習	卒業論文
畜産コースの特徴	果樹コースの特徴	

	<ul style="list-style-type: none"> ・乳牛、和牛の基本的な飼養管理技術を体得するとともに、大型トラクターや自動化された搾乳室などで、先進的な畜産技術を学ぶ ・乳牛、和牛（繁殖、肥育一貫）、飼料作物の周年管理技術とトラクター、ローダー等の機械操作を学ぶ ・プロジェクト学習を通じて自分で設計した飼養管理を学ぶ ・畜産共進会に年6回（乳牛・和牛）出品し、出品技術の向上と、生産農家との交流を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本有数の産地であるナシの栽培技術を始め、カキ、ブドウ、リンゴ等の主な品種について実践的な果樹経営、栽培技術を学ぶ ・ナシをはじめとした新しい品種の栽培方法を学ぶ ・高度で難解な果樹のせん定技術をわかりやすい理論と実習で修得し、果樹栽培の真の魅力を会得する ・非破壊糖度計を利用して「おいしい果物」を消費者に提供する販売実習を通して果樹経営のノウハウを学ぶ
	<p>野菜コースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次では、県特産の白ネギ、ブロッコリー等の露地野菜を中心に野菜づくりの基礎を学ぶ ・2年次では、スイカやトマト、イチゴ等の施設園芸を中心に、実践力、応用力を養う ・環境に優しい野菜づくりや、環境制御温室を使った高度な技術を学ぶ ・学生ごとに1施設（ハウス）を担当し自分の作りたい野菜を責任と自信を持って栽培する ・鳥取県特別栽培農産物認証を受け、環境に優しい農業を学ぶ 	<p>作物コースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田の主要作物である水稻・大豆等について、基礎的な知識と年間を通じた管理技術を習得する ・水田営農における経営者・オペレータとして必要な栽培・経営技術を学ぶ ・県内各地の水田を巡回し、水稻・大豆などの一生を観察しながら、水田や水田転換畑の年間管理技術を細かく学ぶ ・田植機、コンバインなどの機械作業の基礎を、実際に演習しながら一から学ぶ
	<p>花きコースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県の主要品目であるストック、シンテッポウユリの栽培技術の習得、新規品目の試験栽培へ取り組む ・キク、バラ、花壇苗の栽培管理や、養液栽培などの先進技術を学ぶ ・学生ごとに1品目以上を担当し、作りたい花を最初から最後まで責任を持って管理する ・花の装飾技能能力向上のため、フラワー 	

	アレンジを学び、コンクールで上位表彰を目指す	
--	------------------------	--

取得目標資格・技能	大型特殊自動車（農耕用に限る）運転免許並びに牽引免許・農業機械士・玉掛技能講習 危険物取扱者免許（丙類、乙種第4類）・ガス及びびアーク溶接技能講習・日商検定簿記3級・2級 フォークリフト運転技能講習・2級ボイラー取扱者資格（小規模） 小型移動式クレーン運転技能講習・毒物・劇物取扱者免許（農業・一般） 家畜人工授精師免許（畜産専攻学生）・小型車量系建設機械運転特別教育（3 t 未満） 車両系建設機械運転技能講習（3 t 以上）
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	13%	21%	15%	8%	32%	11%	

備考：平成 20～22 年度 71 名の内訳。就職は農業関連企業団体と一般企業の合計

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	島根県立農林大学校
ホームページURL	http://www.pref.shimane.lg.jp/norindaigakko/
学科・定員など	養成部門 農業科 2年課程 30名 有機農業専攻・野菜専攻・花き専攻・果樹専攻・肉用牛専攻 林業科 2年課程 10名 研修部門

カリキュラム（科目）	農業科 共通科目	有機農業 専攻科目
	農業概論・作物概論・植物生理・土壌肥料	有機農業・有機稲作・有機農業先進事例講義
	作物保護・農業気象・園芸施設・生物工学概論	専攻実習（有機野菜・有機稲作）
	農業機械・農業機械演習・農産物加工・農業経営	地域有機農業体験実習（先進農家での体験）
	農産物貿易と流通・マーケティング概論	先進地農林業者等体験学習
	マーケティング演習・現代日本経済と農業	野菜 専攻科目
	農業政策・アグリビジネス・食の安心安全	園芸各論（野菜）・専攻実習（野菜）
	農業簿記・情報処理・農業基礎実習	地域農業実習・先進地農林業者等体験学習
	林業科 教育科目	花き 専攻科目
	林業概論・森林マネージメント・森林計画・樹木	園芸各論（花き）・専攻実習（切り花・鉢花）
	森林測樹・基本測量・応用測量・林業経理	地域農業実習・先進地農林業者等体験学習
	林業機械・森林作業システム・野外活動	果樹 専攻科目
	森林機能・森林路網・育苗技術・森林保護	園芸各論（果樹）・専攻実習（ぶどう・柿・梨・いちじく等）
	木材利用・木材流通・販売・森林資源活用	
	森林土壌・木造建築・情報処理・専攻実習	地域農業実習・先進地農林業者等体験学習
	先進地農林業者等体験学習	肉用牛 専攻科目
	先進農林業者等体験学習	家畜飼養管理・家畜繁殖・家畜栄養飼料
	農林業経営および農林業での生活を体験し、農林業に関する知識や技術を習得する	草地飼料・家畜解剖生理・家畜審査 家畜育種・家畜衛生・牛胚移植概論

	とともに、農林業の担い手としての意欲の醸成を図る	畜産経営・専攻実習・地域農業実習
		先進地農林業者等体験学習

取得目標資格・技能	<p>大型特殊自動車免許・フォークリフト運転技能講習・小型移動式クレーン運転技能講習</p> <p>玉掛け技能講習・車両系建設機械（整地・運搬・積込み及び掘削用）運転技能講習</p> <p>毒物劇物取扱者・危険物取扱者・けん引免許（農耕者限定）・ガス溶接</p> <p>小型移動式クレーン運転技能者・日本農業技術検定・フラワー装飾技能士（2,3級）</p> <p>[肉用牛専攻]</p> <p>家畜人工授精師・家畜商・削蹄師</p> <p>[林業科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業架線作業主任者免許規程に基づく林業架線作業に関する講習 ・林業種苗生産事業者講習・伐木等の業務（大径木等）に係る特別教育 ・機械集材装置の運転業務に係る特別教育・チェーンソー作業従事者特別教育 ・刈払機取扱作業に対する安全衛生教育・林内作業車集材作業安全衛生教育 ・林内作業車を使用する集材作業に従事する者に対する安全教育 ・ボイラー取扱技能講習・森林情報士（2級）・赤十字救急法基礎講習・赤十字救急法救急員
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	5%	59%	4%		32%		

備考：過去3年間68名の内訳。林業も含む。就職は、農林業団体、関連産業、その他産業の合計

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	岡山県農林水産総合センター 農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/noudai/index.htm
学科・定員など	2年課程 35名 園芸課程 果樹コース・野菜コース・花きコース 畜産課程 和牛コース

カリキュラム（科目）	主な共通教養科目	果樹コースの概要
	フラワーデザイン・ガーデニング・生け花	ぶどう・ももを中心に栽培管理から収穫・出荷まで一貫して学ぶ
	パイプハウスづくりの実習	
	後楽園の植栽を研究する鑑賞樹木論	野菜コースの概要
	情報処理・ペン字・生物工学	いちご、トマト、メロン、なすなどの果菜類や、こまつな、ほうれんそうなどの栽培管理について学ぶ
	稲作・農業経営の基本として全専攻学生が学ぶ	
	和牛コースの概要	花きコースの概要
	美咲町にある分校（畜産研究所）で、和牛の繁殖や飼育について学ぶ	バラやカーネーション等の切り花やシクラメンなどの鉢物、花壇苗の生産から販売までを学ぶ

取得目標資格・技能	大型特殊運転免許（農耕用限定）・けん引運転免許（農耕用限定）・毒物劇物取扱者資格 危険物取扱者資格・ガス溶接技術資格・アーク溶接技術資格・フォークリフト運転技能資格 小型車両系建設機械運転資格・家畜人工授精師免許（畜産課程）・認定牛削蹄師資格（畜産課程）
-----------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	2名	10名		0名	15名	5名	
備考：平成23年度卒業生32名の内訳。就職は、農業団体と関連会社の合計							

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	広島県立農業技術大学校
ホームページ URL	http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/daigakkou/
学科・定員など	養成部門 2年課程 40名程度 園芸課程 野菜・花きコース、落葉果樹コース 畜産課程 肉用牛コース 研修部門 専門技術研修

カリキュラム（科目）	基礎学習	野菜・花きコースの特徴
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の概論や教養科目を中心とし、実習を組み入れながら農業についての基礎を学ぶ ・原則として、半日を講義・演習・実験とし、半日は実習とする ・実習は、主として各専攻コースで行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜コースでは、トマト・イチゴ・メロン・ナス・パプリカ・アスパラガス(白, 緑, 紫)・キャベツ・バレイショ (赤, 黄, 紫など6種類)・ホウレンソウ・変わり種ではコールラビー・オータムポエム・青大キュウリなど30種類以上の野菜を栽培する ・花き専攻では、キク・バラ・宿根カスミソウ・トルコギキョウなどの切り花やシクラメン・サイネリアなどの鉢物、ペチュニア・パンジーなどの花壇苗を栽培する ・1年生の4~6月は、野菜・花きの主要な栽培技術の基礎を学ぶ ・7月から各専攻に分かれ、より専門的な栽培技術や経営管理能力を身に付ける ・後半から2年生にかけて、各学生が卒業論文(プロジェクト学習)のテーマを決め、栽培計画の立案から販売まで行い、経営感覚を養う
	専攻学習	
	専攻コースの科目を学習するとともに、1学年の10月に経営技術プロジェクト課題を設定し、2学年後期まで実践学習を行う <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文として経営技術プロジェクト学習をまとめる 	
	体験学習	
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の先進経営体に概ね4週間派遣し、技術・経営・農家生活、されあに地域社会とのかわりについて体験学習を行う 	
	総括学習	
	<ul style="list-style-type: none"> ・経営技術プロジェクト、先進地農業者等体験学習を通じて得た課題を踏まえた総合的な学習を行う ・これまでの学習の成果として地域におけ 	
		肉用牛コースの特徴

	る役割を踏まえつつ将来の営農計画、生活設計を作成する	<ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛の飼養管理技術の基本と低コスト生産に向けた経営管理技術の講義・実習を行う ・肉用牛・酪農コースでは和牛（繁殖・肥育・育成）の飼養管理技術を学ぶ ・講義では家畜飼養学、繁殖学、衛生学に加え、最近研究の進んでいる栄養学や行動学、家畜のエサとなる飼料作物学などを学ぶ ・実習では、飼料給与など日常の飼養管理、人工授精、助産、疾病の予防・治療、削蹄、トラクターなど機械の操作などを学ぶ ・飼養している牛 20 頭は、学生が担当を決め責任を持って管理しており、実践的な知識・技術を身けることができる
	資格取得など	
	・各種資格の取得ゼミ・専攻科目を通して、できる限り多くの資格取得に努める	
	果樹コースの特徴	
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な果樹を低樹高栽培できるように講義・実習を実施する ・栽培しているリンゴ・モモ・ナシ・ブドウは今年で植え付け 8 年目を迎える ・果樹は収穫が始まって現金収入を得られるようになるまで育成期間の長いことが欠点だが、本校では最新の早期成園化技術を駆使し、ブドウでは植え付けた次の年から収穫できる ・カンキツ類（温州ミカン・晩柑類）については、温暖な気候が必要なため尾道市瀬戸田町のほ場を借りて実習を行う 	

取得目標資格・技能	日本農業技術検定（3 級・2 級）・日商簿記検定（3 級）・大型特殊自動車運転免許（農耕用限定）及びけん引免許・農業機械士・毒物劇物取扱責任者資格・小型車両系建設機械特別教育・危険物取扱者資格（乙種四類）・ガス溶接技能講習・アーク溶接特別教育・フォークリフト運転技能講習・家畜人工授精師資格【畜産課程に限る】・家畜商講習会【畜産課程に限る】 園芸装飾（3 級）【花き専攻に限る】
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	15 名	41 名	9 名		49 名		
備考：平成 19～23 年度卒業生 114 名の内訳。就職は、JA・公務員、農業関連、その他（企業など）の合計							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	山口県立農業大学校
ホームページURL	http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a17212/00000001/index.html
学科・定員など	園芸学科 2年課程 25名 野菜経営コース・花き経営コース・果樹経営コース 畜産学科 2年課程 15名 酪農経営コース・肉用牛経営コース

カリキュラム(科目)	1年次 共通科目	2年次 共通科目
		くらしと経済・人間と社会・くらしと科学
	外国語	農業経営・農業政策・世界の農業・
	農業経営・作物概論・園芸概論・畜産概論	作物概論・農業機械・生活科学
	作物保護概論・土壌肥料概論	情報処理・農業簿記
	農業気象・農業機械・特別講義・特別活動	自主研究・特別講義・特別活動
	1年次 園芸学科	2年次 園芸学科
	植物育種・植物生理・経営・園芸機械施設	植物育種・営農計画・経営・栽培演習
	栽培各論・栽培演習・経営演習	経営演習・農家派遣実習・プロジェクト実習
	プロジェクト実習	卒業論文
	1年次 畜産学科	2年次 畜産学科
	家畜栄養・家畜生理繁殖・飼料作物・草地管理	家畜育種・家畜解剖疾病・経営
	畜産物流通加工・畜産機械施設・経営管理演習	飼養管理演習・経営管理演習
	環境保全・飼養管理・飼養管理演習	農家派遣実習・プロジェクト実習
	プロジェクト実習	卒業論文

取得目標資格・技能	大型特殊自動車免許(農耕車)・危険物取扱者(乙種第4類等)・けん引自動車免許(農耕車) 家畜人工授精師・毒物劇物取扱者・家畜商・ボイラー技士(二級)・アーク溶接・農業機械士
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	70%			0%	30%		
備考：平成 21 年度卒業生 20 名の内訳。就農には研修後就農も含む。就職は、営農指導員等、関連産業、その他の合計							

現状の学生数	平成 21 年度入学生 31 名 園芸学科 24 名 野菜経営 10 名、花き経営 7 名、果樹経営 7 名 畜産学科 7 名 酪農経営 4 名、肉用牛経営 3 名
---------------	--

農業大学校名	徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業大学校
ホームページURL	http://www.tonodai.ac.jp/
学科・定員など	2年課程 40名程度 生産技術コース 地域資源活用コース アグリビジネスコース

カリキュラム（科目）	生産技術コースの特徴	アグリビジネスコース
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の生産技術を主体に学ぶコース ・高度で先進的な生産技術を有し、将来、地域農業の中核となる農業技術を先導する人材を育成 ・自営就農、農業法人への就農 ・総合的かつ高度で先進的な生産技術の習得や新品種の導入などによる自営就農を志向する学生 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営ノウハウを主体に学ぶコース ・農業経営改善や起業家をめざす高い意欲と知識を有し、将来、地域農業のモデル的経営実践や、新たなアグリビジネスを起こすことができる人材を育成 ・自営農業経営改善や起業家を志向する学生 ・自営就農、農業法人への就農、農業関連企業への就職
	地域資源活用コース <ul style="list-style-type: none"> ・食料や環境、地域資源などを主体に学ぶコース ・農業の多面的機能や地域資源を活用した農業などの実践により、自営就農などを志向する学生 ・耕畜連携や農産物加工をはじめとする農業・農村地域資源の活用に関する知見や感覚を有し、将来地域農業社会での中核的役割を担うことができる人材を育成する ・自営就農、農業法人への就農、農業関連企業への就職 	

取得目標資格・技能	大型特殊免許（農耕用）・けん引免許（農耕用）・青年農業士の優先登用（知事認定） 人工授精師・家畜商免許・技能検定（造園）・徳島県農産加工マイスター
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
備考：就職先は公開しているが人数は非公開							

現状の学生数	
--------	--

農業大学校名	香川県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/
学科・定員など	2年課程 45名 野菜園芸コース・花き園芸コース・果樹園芸コース・造園緑化コース・畜産コース

カリキュラム（科目）	野菜園芸コースの特徴	造園緑化コースの特徴
	<ul style="list-style-type: none"> ・露地野菜から施設野菜まで野菜栽培全般について学び、とれたてで鮮度の高い農産物を直売所で販売して、消費者ニーズに対応した野菜づくりについての課題に取り組む ・校内ほ場60aを有し、施設面では、イチゴの「らくちんシステム」、各種養液栽培方式を導入しており、現場に即した生産技術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・造園緑化に関する基礎的な知識や技術について、緑化木等の育成や造園に関する施工、管理、設計の基礎について学ぶ ・土木・施工といったハード面の技術だけでなく、感性が要求される庭のデザインや植栽する植物の知識を蓄え、日本庭園の作庭の古来からの伝統技法の習得も目指す
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習では、本県の主要野菜の栽培ほか、校内直売所での販売を行い、より実践的なノウハウを習得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木等の育成・剪定や庭園施工の実習 ・造園技能検定資格（2・3級）を取得する ・小型移動式クレーン、玉掛けの講習を受講
	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年時には、県農業試験場、先進農家等で専攻実習を受け、自分の将来ビジョンに合わせた技術習得が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で実際に作庭（見本庭園など）や庭園管理を実習する
	<p>花き園芸コースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花き栽培全般について学び、菊やカーネーションなどの切り花、ポインセチアやサイネリアなどの鉢花、パンジー、サルビアなどの苗物、一年を通していつでも花を販売できるように計画的な栽培に取り組む ・経営、流通などの講義やフラワーアレンジメントの演習も行う ・花き栽培の省力化に重要な最新技術が 	<p>畜産コースの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産全般の基礎知識から家畜の品種、繁殖、受精卵移植、改良、飼養、管理などについて学ぶ ・1学年では優れた肥育技術を有する肉牛生産農家、水田酪農としての高い技術にある酪農経営、産地処理体制が進む養豚、京阪神の大消費地を控えた養鶏経営など、先進的な畜産農家での実践学習を実施し技術を習得し、畜産生産物の牛乳、豚肉等の加工実習にも取り組む

	ら、花壇や家庭菜園向けの安価で簡単な自動灌水装置まで、実習の中で学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年では、各人の選択した畜種で、より専門的な技術を習得するために県畜産試験場や県内の先進的畜産経営者（法人含む）で、週に3日間の専攻実習を行う ・「家畜人工授精師」の資格を取得可能な特別教育講座も受講できる
	果樹園芸コースの特徴	
	・果樹栽培全般について学び、モモ、キウイフルーツ、ナシ、柑橘、ブドウ、カキなどの果樹を栽培し、流通、加工などの講義も行う	
	・多くの果樹は1年に1作、摘蕾や袋掛けなど、1年に1度しか経験できない管理が多く、高い技術と豊富な経験が要求される職人技を目標に、主要な果樹について生産から販売までの専門的な技術と知識を習得し、作りこなせるように指導	

取得目標資格・技能	<p>【コース共通】大型特殊運転免許（農耕用限定）・毒劇物取扱責任者資格・危険物取扱者資格</p> <p>小型車両系建設機械運転者資格・フォークリフト運転者資格・小型移動式クレーン・玉掛け</p> <p>【造園緑化コース】2, 3級造園技能士資格</p> <p>【畜産コース】家畜人工授精師資格</p>
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
<p>備考：就職先は公開しているが人数は非公開</p> <p>主な就職先：</p> <p>農業協同組合・・・香川県農業協同組合、香川豊南農業協同組合</p> <p>農機会社・・・クボタアグリ西日本、四国クボタ、四国トセキ、ヤンマー四国</p> <p>農業資材関係・・・J A西日本くみあい飼料、立石商事、西日本日紅、東洋物産、朝日肥糧、喜多猿八商店、西村ジョイ</p> <p>食品関係・・・讃岐缶詰、麻缶詰、七星食品、三栄プロイラー、さぬき麺業</p> <p>農業法人等・・・香花園、木下農園、大和畜産、高瀬茶業組合、新延孵化場、バイオU、香川農園</p> <p>造園関係・・・森造園、池下翠松園、四国緑化産業、大成造園、志度カントリー</p> <p>卸売市場等・・・高松花市場、高松生花共同仲卸、琴平中央青果</p>							

現状の学生数	<p>平成24年度入学者 39名</p> <p>平成23年度入学者 34名</p>
---------------	---

農業大学校名	愛媛県立農業大学校
ホームページ URL	http://home.e-catv.ne.jp/ehime-noudai/
学科・定員など	総合農学科 2年課程 55名 農産園芸コース、果樹コース・畜産コース アグリビジネス科 2年課程 10名 リーダー養成コース 研修課程

カリキュラム (科目)	総合農学科 1 年次 教養科目 (各コース共通)	教育のねらい
	暮らしと経済(環境)	家族経営に関する知識を習得し、快適な農家生活と豊かな農村の生活環境のあり方を理解させ、その重要性を認識させる
	暮らしと法律	生活と法律との結びつきを理解させ、法律を身近なものとする
	英語 I	実用英会話を中心とし、海外の情報を習得させる
	情報処理 I	情報処理に関する基礎知識・技術を習得させる
	総合農学科 1 年次 専門科目 (各コース共通)	教育のねらい
	農業経営	農業経営のために必要な基礎的理論を習得させる
	農業簿記	農業簿記の基礎知識と重要性を理解させ、記帳方法等について習得させるとともに、パソコンを利用した簿記記帳方法を習得させる
	農村社会	農村社会についての一般的知識を習得させ、農村社会の現状と今後のあり方について考えさせる
	農業と環境	農業と環境の基本的な関わりについて学習し、これからの農業の発展について考えさせる
	農業概論	専攻学習に入る前段として、農業の役割、農業の現状と課題等の基礎知識を理解させる
	病害虫と防除計画 I	作物一般に発生する主要病害虫の基礎知識と診断技術を身につけさせ、合理的な防除法を理解させる
	土壌肥料概論	作物栽培に不可欠な土壌の基礎知識を理解させ、各種肥料の特性について学習させる

農業気象	気象の基礎知識を習得し、農業生産への応用及び災害の対策を理解させる
農業機械利用 I	農業機械の基礎知識及び効率利用法についての知識を習得させるとともに、基礎的な運転技能を身につけさせる
農業組織論	農業集落や農業生産組織(法人)等農業組織及び農業協同組合について理解させる
専攻科目・実習(農産園芸コース)	教育のねらい
植物育種	植物の育種について基礎的な手法を理解させ、品種育成の過程等、実践的な育種方法を習得させる
植物生理	植物の生理について基礎知識を身につけ、作物栽培に対する応用技術習得に向けての基礎的技術を身につけさせる
土壌・植物調査法	農業における観察の基礎を身につけ、土壌や植物体の基礎的な調査法を習得させる
野菜・花き・作物栽培概論	主要な野菜・花き・作物生産の現状と動向について理解させるとともに、基本作型の栽培基礎知識を習得させる
農畜産物加工 I	加工食品の特性と加工の原理を習得させる
先進事例研修 I	産地及び農畜産物生産等の現状について広く学習させるなど、愛媛の農業について学習させる
専攻実習 I	主要野菜・花きの年間を通した栽培実践を行うことにより基本技術を習得させるとともに、気候・規模等生産条件の違う農業体験や農産物販売等による消費者との交流により、広い視野を身につけさせる
専攻科目・実習(果樹コース)	教育のねらい
植物育種	果樹の育種について基礎的な手法を理解させ、品種育成及び繁殖の基礎的知識を習得させる
植物生理	果樹の栽培生理について基礎知識を身につけ、果樹栽培に対する応用技術習得に向けての基礎的技術を身につけさせる
土壌・植物調査法	農業における観察の基礎を身につけ、土壌や植物体の基礎的な調査法を習得させる
果樹栽培概論	果樹の生理生態を習得するとともに、その特性を把握させ、栽培全般の基礎知識を習得させる

農畜産物加工 I	加工食品の特性と加工の原理を習得させる
先進事例研修 I	産地及び農畜産物生産等の現状について広く学習させるなど、愛媛の農業について学習させる
専攻実習 I	主要果樹の年間を通じた栽培実践を行うことにより基本技術を習得させるとともに、気候・規模等生産条件の違う農業体験や農産物販売等による消費者との交流により、広い視野を身につけさせる
専攻科目・実習(畜産コース)	教育のねらい
家畜生理	家畜の生理に関する専門的知識を習得させる
家畜解剖	家畜の各器官とその役割について専門的知識を習得させる
家畜育種と繁殖	家畜の新品種の育成及び育種改良の専門的知識を習得させる
飼料栄養 I	家畜の栄養と飼料についての基礎的な知識と技術を習得させる
家畜飼養管理 I	家畜の飼養計画や飼養技術、施設や経営についての基礎的知識を習得させる
農畜産物加工 I	加工食品の特性と加工の原理を習得させる
先進事例研修 I	産地及び農畜産物生産等の現状について広く学習させるなど、愛媛の農業について学習させる
専攻実習 I	基礎的な各家畜の個体管理及び畜舎管理、飼料作物の収穫調製技術を習得させるとともに、気候・規模等生産条件の違う農業体験や農産物販売等による消費者との交流により、広い視野を身につけさせる
総合農学科 2 年次 教養科目 (各コース共通)	教育のねらい
英語 II	実用英会話を英文パターンで学習させる
情報処理 II	プレゼンテーションに関する基礎知識を習得させる
総合農学科 2 年次 専門科目 (各コース共通)	教育のねらい
農業経営分析・設計	貸借対照表・損益計算書を通じて経営を分析・診断し、経営の諸問題と改善策について理解させる
農業政策と行政	農業政策の変遷や行政の対応策、農業・農村の推移等について理解させるとともに、国際化と日本の食

	料・農業・農村についての政策対応及び愛媛県のあり方について考えさせる
生物工学	生物工学の基礎とその利用技術を習得させる
農業機械利用Ⅱ	農業機械の利用方法についての応用知識と技術を習得させる
農産物貿易と海外農業	海外の農業情勢・農産物貿易の現状を理解させ、国際社会における日本農業の方向について理解させる
専攻科目・実習(農産園芸コース)	教育のねらい
土壌と肥料設計	土壌の理化学性と各種作物への施肥方法及び土づくり対策などの専門的知識を習得させる
病虫害と防除計画Ⅱ	病虫害の発生生態、防除技術などの各論を通して、作物毎の病虫害防除法について習得させる
施設園芸概論	野菜・花きの施設栽培における作型と栽培管理技術についての専門的知識を習得させる
野菜栽培各論	主要野菜の作型とその栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる
花き栽培各論	主要花きの作型とその栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる
作物栽培各論	主要作物の栽培管理技術について、専門的な知識を習得させる
農畜産物加工Ⅱ	加工食品の特性と加工の原理を習得させる
農産物流通	農産物の流通・価格形成等について基礎的知識を習得させる
先進事例研修Ⅱ	先進的な野菜・花き農家等の経営及び野菜生産、流通、加工に実態について学習させる。また、愛媛の農業について考えさせる
卒業論文	農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果のとりまとめ
専攻実習Ⅱ	農林水産研究所及び農業大学校において、専門的な技術を学ばせるとともに、個別の課題に対する解決法を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理

		解を深めさせる
	専攻科目・実習(果樹コース)	教育のねらい
	土壌と肥料設計	土壌の理化学性と各種果樹への施肥方法及び土づくり対策などの専門的知識を習得させる
	病虫害と防除計画Ⅱ	果樹病虫害の発生生態、防除技術などの各論を通して、専門的知識を習得させる
	施設園芸概論	果樹の施設栽培における作型と栽培管理技術についての専門的知識を習得させる
	果樹栽培各論	主要な落葉果樹の種類についてその特性を把握させ、栽培全般の専門的知識を習得させる
	かんきつ論	主要なかんきつの品種についてその特性を把握させ、栽培全般の専門的知識を習得させる
	農畜産物加工Ⅱ	加工食品の特性と加工の原理を習得させる
	果樹流通	果樹の流通・価格形成等について基礎的知識を習得させる
	先進事例研修Ⅱ	先進的な果樹農家等の経営及び果樹生産、流通、加工に実態について学習させる。また、愛媛の農業について考えさせる。
	卒業論文	農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果のとりまとめ
	専攻実習Ⅱ	果樹研究センター及び農業大学校において、専門的な技術を学ばせるとともに、個別の課題に対する解決法を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる
	専攻科目・実習(畜産コース)	教育のねらい
	畜産経営	畜産経営における生産費の分析や経営設計を総合的に学習させる
	環境保全とふん尿処理	環境に留意したふん尿処理技術について専門的知識を習得させる
	家畜衛生	家畜の健康と病気及び環境衛生などに関する専門的知識を習得させる
	家畜飼養管理Ⅱ	家畜の飼養計画や飼養技術、施設や経営についての専門的知識を習得させる
	飼料栄養Ⅱ	家畜の栄養と飼料給与についての専門的知識を

		習得させる
農畜産物加工Ⅱ		加工食品の特性と加工の原理を習得させる。 畜産流通 畜産の流通・価格形成等について基礎的知識を習得させる
先進事例研修Ⅱ		先進的な畜産農家等の経営及び畜産生産、流通、加工に実態について学習させる。また、愛媛の農業について考えさせる。
卒業論文		農業生産技術・経営設計プロジェクト等についての成果のとりまとめ
専攻実習Ⅱ		各家畜の専門的な飼養管理技術、飼料作物の生産技術及び成分分析技術を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる
専攻実習Ⅱ		各家畜の専門的な飼養管理技術、飼料作物の生産技術及び成分分析技術を習得させる。また、県内の先進農家等において、先進的な農業経営及び農家生活を体験し、農業に関する知識や技術を習得するとともに、農村社会の理解を深めさせる
アグリビジネス科 1 年次 教養科目		教育のねらい
実践英語		国際化に対応し、海外輸出の実践英語を学習し、情報収集・発信力を高めさせる
組織リーダー論		農村のリーダー、指導者としての基礎的知識を心理学的見地に立ち習得させる
アグリビジネス科 1 年次 専門科目		教育のねらい
農業の国際化と貿易戦略		農産物の国際貿易の現状を理解し、各国との国境措置や農産物の輸出戦略について学ばせる
農業経営管理Ⅰ		自らの経営計画を策定し、経営計画上の課題を明確にさせる
情報システム論		農業経営に不可欠な情報発信の具体的な手法を学ばせる
農村整備		農業生産性の向上を図るため、農地と水の環境を整備する手法を学ばせる
農畜産物加工学Ⅰ		食品加工の品質と生産性の向上を図るための知識

		と技術を習得させる
先進農家セミナー I		優良な経営を実践している農業経営者、流通・加工・販売等担当者と接し、現状を見ることにより今後の進むべき方向を学習させる
環境保全型農業		環境と調和した持続性の高い農業生産方式としての環境保全型農業に関する知識と理解を深めさせる
基礎栄養学		栄養素の働きについて理解させる
食の安全と衛生		健康管理に関する公衆衛生の知識を習得させる
アグリビジネス科 専攻科目 1・実習(専攻選択)		教育のねらい
生産システム学 I		園芸発展の歴史と主要作物の栽培ならびに生理生態的特性について、応用的知識・技術を習得するとともに、高品質で安定した生産のための専門技術を習得させる
土壌肥料学		土壌の理化学的組成、有機物、三相分布等について解説し、分類・調査法等の土壌学的考え方を養う。必須元素とその作用、肥料の性状等を理解させ、土壌改良の専門的知識を習得させる
応用昆虫学		作物害虫の発生生態や防除の学術的知識について述べるとともに、最近の防除の方向としての総合防除技術について解説し、応用的防除の考え方を養う
植物病理学		作物病害の発生生態や防除の学術的知識について述べるとともに、最近の防除の方向としての総合防除技術について解説し、応用的防除の考え方を養う
植物栄養学		根が吸収する無機成分と葉で作られる炭水化物の樹体での役割、根づくり、施肥、地上部管理の意義を栄養的に理解させる
専攻実習 I		経営におけるより高度な技術習得及び課題解決を行うため、試験場等において活きた教材を活用した実習を行う
アグリビジネス科 専攻科目 2・実習(専攻選択)		教育のねらい
家畜育種学 I		家畜育種改良の実際について、専門的な知識を習得させる
家畜繁殖学		家畜の繁殖生理について、専門的な知識を習得させ

		る
	飼料学 I	家畜の飼料について、専門的な知識を習得させる
	家畜栄養学 I	家畜の栄養について、専門的な知識を習得させる
	家畜解剖学 I	家畜生態機構(構造)について、専門的な知識を習得させる
	家畜飼養学 I	家畜飼養について、専門的な知識の概要を習得させる
	家畜衛生学	多頭羽飼育が盛んな現在、家畜の能力を十分発揮させるため、健康を阻害する障害を除去する家畜衛生の専門的な知識を習得させる
	専攻実習 I	畜産経営における各家畜の専門的な飼養管理技術、飼料作物の生産管理技術を習得させる
	実習	教育のねらい
	食品加工実習 I	「農畜産物加工学 I」の知識を応用し、食品製造技術を高めさせる
	アグリビジネス体験実習 I	農業をビジネスとしてとらえ指導的農業者となるための資質を養うため、体験実習を実施する
	アグリビジネス科 2 年次 専門科目	教育のねらい
	農政時事	担い手施策、土地施策、需給調整施策等の中から、農業・農政の動きをふまえた具体的なテーマごとの施策紹介により、理解を深めさせる
	農業経営管理 II	「農業経営管理 I」で明確になった課題をふまえ、経営計画を再検討し、就農後の経営管理能力を高めさせる
	マーケティング論	農産物の売れる仕組みづくりを勉強させる
	法人経営学	企業的農業経営者を育成するため、法人等の設立や経営について必要な知識を習得させる
	先進農家セミナー II	優良な経営を実践している農業経営者、流通・加工・販売等担当者と接し、現状を見ることにより今後の進むべき方向を学習させる
	農業機械・施設学	主要な共同利用機械・施設の概要と利用及び規模に応じた機械施設性能について理解を深めさせる
	地域営農論	農業資源を活用した地域農業の活性化と地域営農の再編について学ばせる

地域づくり論	地域資源(農産物、自然環境、景観、伝承文化等)を活用して、地域づくりや都市農村交流による地域活性化について学ばせる
食品加工法規	食品における危害防止に関する知識を習得させる
食品の微生物基礎	微生物に起因する食品加工への活用について知識を高めさせる
農畜産物加工学Ⅱ	食品加工の品質と生産性の向上を図るための知識と技術を習得させる
農業経営法規	経営管理を行うに当たって必要となる法律・制度について学ばせる
アグリビジネス科専攻科目 1・実習(専攻選択)	教育のねらい
生産システム学Ⅱ	作物の主要な栽培様式及び技術並びに生理的特性について理解させ、応用的実践的専門知識・技術を習得させるとともに、産地形成の意義、重要性を理解させる
応用生物工学	農業技術者として必要なバイオテクノロジー手法の知識と応用技術を習得させる
貯蔵・流通技術	農産物貯蔵流通技術について専門的知識を理解させるとともに、消費者ニーズにあわせた貯蔵、流通、販売方法と今後の取り組みについて理解させる
卒業論文	農業技術及び経営に対する専門的知識を習得させ、応用能力を身につけるための調査研究を行い、その成績を取りまとめさせる
専攻実習Ⅱ	農業経営に必要なより高度な技術習得及び課題解決を行うため、試験場等において活きた教材を活用した実習を行う
アグリビジネス科専攻科目 2・実習(専攻選択)	教育のねらい
家畜育種学Ⅱ	家畜育種改良の必要性について、専門的な知識を習得させる
飼料学Ⅱ	飼料の成分と飼料価値を究明し、飼料の合理的配合法、加工、保存の改善について習得させる
家畜栄養学Ⅱ	家畜の飼料・栄養について、実践的な知識を習得させる
家畜解剖学Ⅱ	家畜生態機構(構造)について、専門的な知識を習得

		させる
	家畜飼養学Ⅱ	乳・肉・卵等の生産及び家畜の維持、成長活動・繁殖のための飼料・栄養について習得させる
	ふん尿の高度処理技術	ふん尿処理の高度処理技術を習得させる
	卒業論文	農業技術及び経営に対する専門的知識を習得させ、応用能力を身につけるための調査研究を行い、その成績を取りまとめさせる
	専攻実習Ⅱ	畜産経営における各家畜の専門的な飼養管理技術、飼料作物の生産管理技術を習得させる
	実習	教育のねらい
	食品加工実習Ⅱ	「農畜産物加工学Ⅱ」の知識を応用し、食品製造技術を高めさせる
	アグリビジネス体験実習Ⅱ	農業をビジネスとしてとらえ指導的農業者となるための資質を養うため、体験実習を実施する

取得目標資格・技能	危険物乙4類取扱者資格・毒物劇物取扱者資格・アーク溶接業務特別教育・ガス溶接技能講習 クレーン(吊上げ荷重5トン未満)運転業務特別研修・玉掛け(吊上げ荷重1トン以上)技能講習 小型移動式クレーン(吊上げ荷重1トン以上5トン未満)技能講習・ボイラー取扱技能講習 フォークリフト(最大積載荷重1t以上)運転技能講習 小型車両系建設機械(機体重量3トン未満)特別教育 フラワーデザイン講習・家畜人工授精師・家畜受精卵移植師
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
総合農学科	16%			28%	50%	6%	
アグリビジネス科	5%			5%	85%	5%	

備考：平成19～21年度卒業生の状況。進学は研修を含む。就職は、公務員、農業団体、農業関連会社、一般企業の合計

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	高知県立農業大学校
ホームページURL	http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2010
学科・定員など	園芸学科 2年課程 45名 果樹専攻 花き専攻 野菜専攻 畜産学科 2年課程 5名

カリキュラム (科目)	1年次 教養科目	2年次 教養科目
	くらしと経済・農村社会・くらしと科学	くらしと法律・現代社会(時事)
	体育・英会話	体育・英会話
	1年次 専門共通科目	2年次 専門共通科目
	農業基礎・農業総論・作物概論・農薬概論	農業簿記・農業気象・農業経営
	マネージメント論・生物工学・流通論	農業と法律・制度・農業機械利用
	環境保全と農業・情報処理(1)、農業機械(1)	農業協同組合、情報処理(2)
	特別講義・農業計算	卒業論文・特別講義・地産地消
	園芸学科 専攻科目	2年次 園芸学科 専攻科目
	園芸概論・害虫概論・植物生理・植物病理	園芸施設・生物工学・流通論・農業機械
	植物病理実験・土壌・肥料実験・育種学	野菜・花き・果樹各論
	農薬概論(2)・野菜・花き・果樹各論	農産加工
	野菜・花き・果樹概論ゼミ	野菜・花き・果樹各論ゼミ
	1年次 畜産学科 専攻科目	2年次 畜産学科 専攻科目
	畜産概論・家畜育種学・家畜栄養学	家畜衛生・防疫
	家畜生理解剖・家畜繁殖	畜産環境学・畜産経営
	家畜栄養・飼料計算演習・飼料生産利用学	畜産各論・畜産各論ゼミ
	畜産物流通加工・畜産各論	2年次 実習・研修
	畜産各論ゼミ・牛蹄学	専攻実習・農業機械実習
	1年次 実習・研修	流通研修(園芸・畜産)
専攻実習・流通研修・農業機械実習	農家等留学研修	
進路体験研修・特別研修	特別研修、海外研修	

取得目標資格・技能	日本農業技術検定（２級・３級）・乙種４類危険物取扱者資格・情報処理エクセル３級 毒劇物取扱者資格（一般・農業用）・フラワー装飾検定（２級・３級）・アーク溶接特別教育 フォークリフト運転技能講習・小型車両系建設機械特別教育（３t未満） 家畜人工授精師免許（畜産学科）
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	20.9%	19.2%	1.2%		44.7%		14.0%
備考：平成 19～23 年度卒業生の内訳。就職は JA、市場、肥料農薬、種苗、農機具、畜産加工、その他、農外就職の合計							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	福岡県農業大学校
ホームページ URL	http://www.fuknodai.jp/
学科・定員など	養成科 2年課程 野菜コース：15名 花きコース：10名 果樹コース：5名 水田経営コース：5名 畜産コース：5名 総合コース：10名 研修科 年間10名程度 野菜コース・花コース

カリキュラム（科目）	養成科の特徴	研修課の特徴
	・農業経営に必要な高度な農業技術や経営能力を習得させると共に、めまぐるしく変化する農業情勢に対応できる能力を持った農業者や農業技術者を養成する	・Uターン者等新規就農を志す者や就農間もない農業者等を対象に施設園芸の栽培管理等の研修を実施し、即戦力となる福岡県農業の担い手を育成する
	・野菜、花き、果樹、水田経営、畜産、総合の6つの専攻コースを設け、教育課程に、農大講座、海外農業研修、経営演習等農業経営の実践に役立つ特徴あるカリキュラムを取り入れる	畜産コース主な専攻科目
		家畜飼養管理論・家畜栄養論・ 大家畜論・家畜解剖論
	コース共通主な講義科目	受精卵移植論・家畜経営論
	国語・実用数学・英会話	総合コース主な専攻科目
	日常生活法規	流通論（野菜・花き・果樹・作物）
	総論（野菜・花き・果樹・作物・畜産・林業）	バイオテクノロジー論
	有機農業の理論と実際	農業経済学・農業環境政策・農業組織論
	食育・農業簿記	教育学概論
	農業経営計画論・地域マネジメント	花きコース専攻科目
	消費者行動とマーケティング	花き各論（キク・宿根草・鉢物・洋ラン）
	環境保全型農業論	花き流通論・花き施肥設計・花き養液栽培論
	農業概論・農業気象学	花き開花調節論・フラワーアレンジ
	育種学・植物生理・生態学	水田経営コース主な専攻科目

	野菜コース専攻科目	環境保全型稲作・作物流通論
	野菜各論 (イチゴ・ナス・トマト・コンさ累・葉茎 菜類)	栽培各論 (水稻・麦・豆類・雑穀・水田作野菜)
	園芸施設論・野菜養液栽培論・野菜流通論	農業組織論・農業土木論
	果樹コース主な専攻科目	
	果樹各論(カンキツ・カキ・ブドウ・ナシ)	
	果樹流通論・果樹病虫害防除論	
	農業組織論・農業土木論	

取得目標資格・技能	大型特殊自動車(農耕用)・けん引自動車(農耕用)・危険物取扱者(乙4類)・ポイラー取扱技能 農業品目毒物劇物取扱者・フォークリフト運転技能・小型建設機械運転学科特別技能 日本農業技術検定(1,2,3級)
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	20%	26%			55%		
備考：過去3年間の内訳。就職は、JA、公務員、農業関連企業、福祉(農業指導)、農外の合計							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	佐賀県農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.saga.lg.jp/web/sanoudai.html
学科・定員など	<p>本科 2年課程 50名</p> <p>農産園芸課程</p> <p>野菜複合専攻 露地野菜コース・施設野菜コース</p> <p>花き複合専攻</p> <p>果樹複合専攻</p> <p>畜産課程</p> <p>専科 1年課程 若干名</p> <p>農産園芸課程</p> <p>野菜複合専攻 露地野菜コース・施設野菜コース</p> <p>花き複合専攻</p> <p>果樹複合専攻</p> <p>畜産課程</p>

カリキュラム (科目)	野菜複合専攻の概要	花き複合専攻の概要
	・野菜（露地・施設）に関する幅広い専門知識と生産・販売技術及び経営について学ぶ	・花きに関する幅広い専門知識と生産・販売技術及び経営について学ぶ
	露地野菜コースの特徴	・シクラメンなどの鉢物栽培、バラの養液栽培や切り花の栽培、フラワーアレンジメントの基本技術を学ぶ
	・キャベツ、レタス、タマネギなどの露地栽培の技術や経営について学ぶ	
	・水稻・麦類と露地野菜（タマネギなど）との土地利用型複合経営について学ぶ	果樹複合専攻
	施設野菜コースの特徴	・果樹に関する幅広い専門知識と生産・販売技術及び経営について学ぶ
	・イチゴの高設栽培やトマト、キュウリ、ナスなどの施設栽培、アスパラガス、ピーマン、小ネギなどの雨よけ栽培の技術や経営について学ぶ	・ミカン、ブドウ、ナシのハウス及びトンネル栽培技術や、根域制限・マルチ・ポット栽培の基本技術を学ぶ
	畜産課程の概要	
	・畜産に関する幅広い専門知識と飼育管理技術及び畜産経営について学ぶ	
	・肉用牛、乳牛、養豚の管理や家畜の衛生管理、飼料の生産・調整技術を学ぶ	

取得目標資格・技能	大型トラクター運転免許・大型トラクターけん引免許・農業機械士・農協職員資格認定（3級） 毒物・劇物取扱者・危険物取扱者・小型車両系建設機械特別教育・家畜人工授精師（牛）・家畜商 小型ボイラー取扱技能講習・アーク溶接特別教育・日本農業技術検定・フラワー装飾技能士 フォークリフト運転技能講習
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
備考：非公開							

現状の学生数	平成 24 年度 入学生 34 名 本科 33 名、専科 1 名
---------------	-------------------------------------

農業大学校名	長崎県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.n-nourin.jp/~noudai/
学科・定員など	養成部 2年課程 野菜学科・花き学科・果樹学科：合計 55 名 畜産学科：15 名 研究部 研修部

カリキュラム（科目）	養成部学科共通教養科目	野菜学科専攻科目
	くらしと経済・くらしと法律・人間の発達と教育	農業機械・野菜施設・野菜経営・野菜流通
	人間と社会・くらしと科学Ⅰ・くらしと科学Ⅱ	野菜栽培Ⅰ・野菜栽培Ⅱ・野菜栽培Ⅲ
	英語・体育・特別講義	ゼミナール
	養成部学科共通専門科目	先進農家留学実習・実習・卒業論文
	農協・金融・農業政策・法規・労働科学	花き学科専攻科目
	農業経営・農業簿記・環境保全と農業	農業機械・花き施設・花き経営・花き流通
	作物概論・園芸概論・畜産概論	花き栽培Ⅰ・花き栽培Ⅱ・花き栽培Ⅲ
	作物保護実験・作物保護概論	フラワーデザイン・ゼミナール
	土壌肥料実験・土壌肥料概論	先進農家留学実習・実習・卒業論文
	農業気象・農薬概論・有機農業・	畜産学科専攻科目
	生物工学概論・生物工学実験Ⅰ	農業機械・畜産施設・畜産経営
	情報処理演習・農業機械概論	畜産流通加工・家畜栄養生理・家畜衛生
	果樹学科専攻科目	家畜繁殖・家畜育種・家畜飼養管理
	農業機械・果樹施設・果樹経営・柑橘栽培	草地飼料作物・畜産バイオテクノロジー
	落葉果樹・枇杷栽培・ゼミナール	ゼミナール
	先進農家留学実習・実習・卒業論文	先進農家留学実習・実習・卒業論文

取得目標資格・技能	毒劇物取扱者・トラクタ運転免許（大型）・農業機械士・トラクタ運転免許（けん引） 小型建機（ユンボ）・家畜人工受精師・家畜商の資格
-----------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
備考：非公開							

現状の学生数	平成 24 年度 養成部入学生 50 名
--------	----------------------

農業大学校名	熊本県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.kumamoto.jp/site/noudai/
学科・定員など	農学部 2年課程 農産園芸学科 30名 農特産コース・花きコース・果樹コース 野菜学科 30名 畜産学科 20名 酪農コース・肉用牛コース

カリキュラム（科目）	農特産コースの特徴	野菜学科の特徴
	・水稲、麦、大豆、たばこ、茶等の栽培・加工について学ぶ	・トマトやメロン、スイカ、イチゴ、ナスなど熊本県の主要野菜を題材にプロジェクト学習に取り組み、総合的な農業技術を学ぶ
	・2年次に自分の専攻作物を1つ設定し、プロジェクト研究として深く掘り下げて学習	・有機質肥料や天敵などを活用した環境にやさしい野菜生産技術の習得に努める
	・講義や実習の中で、トラクターやコンバインを始めとする農業機械の操作や簡単なメンテナンスを行い、自分たちで生産した生産物を使って農産加工品を作る体験ができる	酪農コースの特徴
	花きコースの特徴	・乳牛のフリーストール・パーラー方式の飼養環境の中で、個体管理データベースシステムを活用した飼養技術を学ぶ
	・切花や鉢物等の基本技術とプロジェクト学習を行い、花き栽培に必要な専門知識を学ぶ	・発生した家畜糞尿は堆肥化の上、学内のほ場に還元を行っており、家畜管理・ほ場管理を通じて総合的な酪農経営能力の向上を図る
	・学生自らフラワーデザインを行い、消費者サイドに立った花き生産を卒業後に行えるようになることを目標とする	肉用牛コースの特徴
	果樹コースの特徴	・繁殖牛・肥育牛ともに群飼方式での飼養技術の習得や発情の観察及び人工授精の手法実習を通して、繁殖管理の技術習得を図る
	・2年次に、1年次に学習した基礎知識を応用して、プロジェクト学習に取り組み果樹経営能力の向上を図る	・受精卵移植技術の実証等を行い、将来的に家畜受精卵移植師資格取得を目指す

取得目標資格・技能	大型特殊（農耕用）運転免許・危険物取扱責任者資格・けん引（農耕用）運転免許 毒劇物取扱責任者資格・小型車両系建設機械・小型ボイラー取扱者資格・アーク溶接 情報処理（エクセル2級）・家畜人工授精師免許（畜産学科） 産業用無人ヘリコプターオペレーター資格・園芸装飾3級 フラワーアレンジメント3級・フラワー装飾技能士
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	38名			4名	21名		
備考：平成 21 年度卒業生 63 名の内訳							

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	大分県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.oita.jp/site/140/
学科・定員など	農学部 2年課程 60名 総合農産科 水田普通作コース・野菜コース・花きコース・果樹コース 総合畜産科 研修部

カリキュラム (科目)	1年次共通教養科目	2年次共通教養科目
		くらしと経済・くらしとことば
	現代人の心理・人間と教育	人間と社会
	外国語 (英語)・体育	外国語 (英語)・体育
	1年次共通専門科目	2年次共通専門科目
	情報処理	土壌肥料・農業政策・法規
	農業経済・農業総論・農業機械・農業機械実習	農畜産物流通・農業機械実習
	農業基礎実習・農業生産システム・農業基礎技術	農作業システム
	農産加工・食品管理 I・食品管理 II	総合農産科 2年次必修科目
	1年次・2年次共通 専門選択科目	育種と採種・病虫害と防除・栽培施設
	簿記資格取得講座・フラワーデザイン	園芸総論・農業経営・経営診断・分析演習
	一般教養講座 (時事問題)・外国語 (英語 I)	実習・卒業論文・体験学習
	情報資格取得講座・教養講座 (公務員)	1年次・2年次共通水田普通作コース必修科目
	危険物資格取得講座・農業土木と水利	作物栽培 1・作物栽培 2
	外国語 (英語 II)・農業気象	1年次・2年次共通花きコース必修科目
	カラーコーディネータ資格取得講座	花き栽培 1 (切り花)・花き栽培 2 (苗木・鉢物)
	グリーンツーリズムと農村アメニティー	1年次・2年次共通果樹コース必修科目
	消費者ニーズとマーケティング	果樹栽培 1 (常緑)・果樹栽培 2 (落葉)
	小論文	総合畜産科 2年次必修科目
	総合農産科 1年次必修科目	家畜栄養・家畜飼養管理・家畜衛生
	植物生理・土壌肥料演習・実習・体験学習	家畜繁殖・飼料作物・水田飼料作
	総合畜産科 1年次必修科目	畜産経営演習・家産人工授精・畜産加工

		実習
	家畜栄養・家畜飼養管理・家畜育種	実習・卒業論文・体験学習
	家畜解剖・生理・家畜衛生・家畜繁殖	
	飼料作物・水田飼料作・畜産概論・畜産経営	
	畜産加工実習・畜産環境・実習・体験学習	

取得目標資格・技能	<p>大型特殊免許（農耕車限定）免許・けん引免許（農耕車限定）・大分県農業機械士 小型車両系建設機械運転特別教育修了証・ボイラー取扱技能講習修了証・日商簿記検定 ガス溶接技能講習修了証・アーク溶接技能講習修了証・危険物取扱者試験（乙種） 日本情報処理検定（ワープロ・表計算1～3級）・カラーコーディネーター試験（3級） 車両系建設機械（整地等）運転技能講習修了証・日本農業技術検定（2・3級） フラワー装飾技能検定（3級）・フォークリフト運転技能講習修了証 家畜人工授精師免許・家畜商講習修了証・大分県農業指導士・毒劇物取扱責任者</p>
------------------	---

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	6	16	2	1	6	9	

備考：平成22年度農学部卒業生34名の内訳。就職は、農業団体、農業関連企業、公務員、一般企業の合計

現状の学生数	平成22年度新入生55名
---------------	--------------

農業大学校名	宮崎県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.majc.pref.miyazaki.lg.jp/
学科・定員など	農学部 2年課程 65名 アグリビジネス学科 大規模経営コース：10名、グリーンライフコース：5名 園芸経営学科 施設野菜コース：12名、花きコース：5名、果樹・茶コース：8名 畜産経営学科 肉用牛コース：15名、乳肉複合コース：10名 専攻科（24年度で終了）

カリキュラム（科目）	大規模経営コースの目標	グリーンライフコースの目標
	水稲や露地野菜を中心に大規模経営における理論と実践の学習、経営手法や法人化についての講義・事例調査などの体系的な学習で、地域社会・農村で活躍できる人材を育成する	地域資源を活用した加工食品の製造や六次産業化に取り組むためのビジネスの理論と実習を行うことで、地域社会・農村で活躍できる人材を育成する
	大規模経営コースの主な科目	グリーンライフコースの主な科目
	水稲・農地野菜栽培・大規模畑作・水稲栽培	食品表示・食品衛生・グリーンツーリズム
	機会実習・農業法人実務・農産物加工・販売実習	農業と福祉・マーケティングと顧客管理
	大型特殊けん引講習・	農畜産物加工実習・農家直売所
	大規模法人経営の理論と事例研究	農家レストラン・農家民宿経営の理論
	プロジェクト学習	実習・事例研究・プロジェクト学習
	施設野菜コースの目標	花きコースの目標
	施設を活用した野菜の栽培と加工の理論と実践学習を通じて、宮崎県の施設野菜生産のリーダーとなる人材を育成する	施設を活用した花きの栽培と装飾の理論と実践学習を通じて宮崎県の花き生産のリーダーとなる人材を育成する
	施設野菜コースの主な科目	花きコースの主な科目
	園芸の基礎・野菜の栽培管理・土壌と肥料	園芸の基礎・花きの栽培管理・土壌と肥料
	植物の育種と知的所有権・栽培実習	植物の育種と知的所有権・栽培実習
	病虫害防除と農薬の基礎・流通販売実習	病虫害防除と農薬の基礎・流通販売実習

	施設会陰芸の施設と環境・加工実習	施設園芸の施設と環境・農産物鮮度保持
	施設野菜経営の理論と事例研究	花き経営の理論と事例研究
	果樹・茶コースの目標	フラワーアレンジメント
	施設・露地ほ場を活用した果樹の栽培と加工の理論と実践学習を通じて宮崎県の果樹生産のリーダーとなる人材、また県の茶業支場による茶の栽培と加工の理論と実践学習を通じて宮崎県の茶生産のリーダーとなる人材を育成する	肉用牛コースの目標 肉用牛を使用する広大な実習農場において、肉用牛経営を学生自らが実践することで、地域社会・農村で活躍できるたくましい畜産経営者および畜産技術者を育成する
	果樹・茶コースの主な科目	肉用牛コースの主な科目
	園芸の基礎・果樹・茶の栽培管理・土壌と肥料	飼料作物・家畜飼養管理・家畜の栄養
	植物の育種と知的所有権・農産園芸の施策と流通	繁殖生理・家畜人工授精特別講義
	病害虫防除と農薬の基礎・栽培実習・加工実習・	畜産概論・肉用牛経営の文政期と診断
	施設園芸の施設と環境・農産物鮮度保持	家畜のバイオテクノロジー・畜産関係法規
	流通販売実習・果樹・茶経営の理論と事例研究	牛の病気・家畜排せつ物・プロジェクト学習
	乳肉複合コースの目標	乳肉複合コースの主な科目
	乳牛と肉用牛を使用する広大な実習農場において、乳肉複合経営を学生自らが実践することで、地域社会・農村で活躍できるたくましい畜産経営者および畜産技術者を育成する	飼料作物・家畜飼養管理・家畜の栄養 繁殖生理・家畜人工授精特別講義 家畜のバイオテクノロジー・畜産関係法規 乳肉複合経営の分析と診断・畜産概論 牛の病気・家畜排せつ物・プロジェクト学習

取得目標資格・技能	
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	20名		6名	1名	29名		5名

備考：平成23年度アグリビジネス学科、園芸経営学科、畜産経営学科の卒業生61名の内訳。就農には農業法人も含む。就職は、農業団体、農業関連産業、公務員、農外企業の合計。未定は就職活動中も含む。

主な就職先	備考：平成24年3月卒業生の主な進路
農業団体	J A 宮崎中央、JA 都城、JA 延岡、JA こばやし、J A 西都、J A アグリシード J A 宮崎中央臨時、JA 児湯臨時
農業法人	アグリセンター都城、日武畜産、有田畜産、香川畜産、藤本畜産、四位農園、 井ヶ田製茶、アグテック、日貿ファーム臨時
農業関連企業	母セキ九州、農業キング、南九州化学工業、(有)アグリカンパニー、ニッポン フィード 丸正フーズ、児湯食鳥、ながの屋、花 villa、宮崎中央花き、大阪青果市場、黒 瀬水産 三股畜産ヘルパー
進学	大原簿記専門学校
研修	新門農園、日武畜産、(株)石原フーズ、久留米原種育成会、J A 西都キャトル センター 産業開発青年隊

現状の学生数	<ul style="list-style-type: none"> ●アグリビジネス学科：合計 24 名 (大規模経営コース：1年7名・2年9名、グリーンライフコース：1年3名・2年5名) ●園芸経営学科：合計 33 名 (施設野菜コース：1年9名・2年9名、花きコース：1年3名・2年3名、果樹・茶コース：1年3名・2年6名) ●畜産経営学科：合計 43 名 (肉用牛コース：1年15名・2年13名、乳肉複合コース：1年7名・2年8名) ●専攻科：2年課程2年生1名 (24年度が最後の学生となる)
---------------	---

農業大学校名	鹿児島県立農業大学校
ホームページ URL	http://www2.kiad.pref.kagoshima.jp/nodai/
学科・定員など	<p>養成部門</p> <p>農学部 2年課程 70名</p> <p>野菜科：25名</p> <p>花き科：20名</p> <p>茶業科：15名</p> <p>果樹科：10名</p> <p>畜産学部 2年課程 45名</p> <p>肉用牛科：25名</p> <p>酪農科：10名</p> <p>養豚科：10名</p> <p>研究部門</p> <p>農学部</p> <p>農業研究科：10名</p> <p>畜産学部</p> <p>畜産研究科：10名</p>

カリキュラム（科目）	<p>野菜科</p> <p>品目を選定してひとり一ハウスを管理することで植え付けから収穫まで野菜の生産を体系的に学ぶ。野菜栽培、病害虫対策、ハウス管理、植物育種、植物生理、菜葉・果菜類のより専門的知識を修得する。</p> <p>また、安全な野菜供給のために環境に配慮した生産方法を目指している。</p> <p>自分たちで生産、収穫した野菜を使った加工の講義や実習もあり、生産販売だけでなく、付加価値を高めた野菜の加工技術を体験する。</p> <p>農家留学研修では、県内野菜農家において45日間の宿泊研修を行い、知識技術の習得経営感覚を養う。</p>	<p>花き科</p> <p>1人1ハウス以上を担当し環境に配慮した切り花、鉢物、苗物の生産技術を修得する。花を総合的に学ぶため、自分たちで生産した切り花を利用したフラワーアレンジの作成や生産物の出荷・販売、市場研修なども行う。</p> <p>農家留学研修では、先進花き農家において45日間の宿泊研修を行い、農業経営者としての知識、技術を習得し経営感覚を養う。</p>
	<p>茶業科</p>	<p>果樹科</p>

	<p>茶の栽培技術や製造技術、環境調和型栽培技術について、生産現場と学習を関連づけて茶生産技術体系を習得する。そのために、農業開発総合センター茶業部と連携し、研究員とマンツーマンでの指導体制をとっている。</p> <p>茶業先進県鹿児島にふさわしい管理機械を整備し、操作技術を学び、生産現場で対応できる能力を養える。</p> <p>また、日本茶インストラクター等の資格を得られるチャンスがある。</p> <p>農家留学研修では、県内先進茶農家において45日間の宿泊研修を行い農業経営者として、知識技術の習得や経営感覚を養う。</p>	<p>ハウスや露地での栽培を通して、実践的な栽培技術及び経営管理方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栽培、病害虫、土壌肥料及び育種分野の新技术。 2. 果樹苗の効率的増殖法の修得。 3. 新品種の特性把握及びバイオ技術の習得。 4. ハウス環境制御の習得。 5. 植物成長調整剤などを利用した高品質安定生産技術の習得を行う。 <p>農家留学研修では、県内先進果樹農家において45日間の宿泊研修を行い農業経営者として、知識技術の習得や経営感覚を養う。</p>
	<p>肉用牛科</p>	<p>酪農科</p>
	<p>子牛を生み育てる生産牛及び肉用牛に育てる肥育牛を管理しており、管理の作業は、朝夕にエサを与え、牛舎の清掃、飼料作物栽培、牛の健康状態チェック、人工授精、子牛の世話など多くの仕事をする必要がある。栄養度の観察により、牛の痩せすぎや太りすぎにも留意している。</p> <p>また、加工実習ではハムやソーセージの加工を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肉用牛（子牛、育成、繁殖、肥育）の飼養管理の習得。 2. 飼養管理による産肉能力の向上及び、子牛の育成技術の習得。 3. 受精卵の採卵・移植技術の習得 <p>農家留学研修では、県内の先進肉用牛農家において45日間の宿泊研修を行い、農業経営者として知識技術の習得や経営感覚を養う。</p>	<p>酪農家を目指す学生が、実習を中心に学んでいる。</p> <p>牛を大切に育て毎日、1頭1頭丁寧に朝6時から夕方4時から2回搾乳をしている。</p> <p>作業は、エサを与え、搾乳、牛舎の清掃、飼料を栽培、健康状態チェック、人工授精、子牛の世話など何種類もの仕事をする必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 飼養管理技術の修得。 2. 搾乳牛の群管理による省力技術の修得。 3. フリーストール・パーラー方式の飼養管理技術の修得。 4. 体外受精・受精卵移植等の技術の習得。 <p>絞った牛乳は、タンクローリーで運ばれ牛乳として消費され、加工実習ではヨーグルトやチーズなどを作る。</p> <p>農家留学研修では、北海道の先進酪農</p>

		家において 45 日間の宿泊研修を行い農業経営者として、知識技術の習得経営感覚を養う。
	養豚科	
	<p>黒豚はもちろん 3 元大型交雑種を使い、養豚経営の第 6 次化産業の経営試算や加工などの新しいプロジェクトに取り組みながら、繁殖から肥育までの一貫した基本的飼養管理技術を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工授精等の活用による生産性向上技術の修得。 2. 豚の生理に配慮した健康豚の生産に関する技術の修得。 3. 肉量・肉質・環境等の改善技術の修得。 4. 精液採取、希釈などの人工授精術の修得。 5. 飼料給与診断を学ぶ。 <p>農家留学研修では、県内先進養豚農家や企業において 45 日間の宿泊研修を行い農業経営者として必要な知識技術を修得させ、優れた経営感覚を養う。</p>	

取得目標資格・技能	毒物劇物取扱者資格、危険物取扱資格、大型特殊及びけん引免許(農耕用)、農業機械士、ボイラー取扱技能講習(修了証)、小型車両系建設機械特別教育(整地・運搬・積込用及び掘削用)(修了証)、日本農業技術検定、フラワー装飾技能士、日本茶アドバイザー及び日本茶インストラクター資格、家畜人工授精師、2級認定牛削蹄師、家畜商免許取得資格
------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	62%			2%	30%	6%	

現状の学生数	
---------------	--

農業大学校名	沖縄県立農業大学校
ホームページ URL	http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/nodai/index.html
学科・定員など	本科（2年課程） 合計 30名 短期養成科（1年課程） 合計 10名 園芸課程 野菜専攻、花き専攻、果樹専攻 畜産課程 肉用牛専攻

カリキュラム（科目）	野菜専攻	果樹専攻
	<p>食の安全が求められる中で、野菜の栽培・防除法など専門的な知識を学び、プロジェクト実習を通して栽培管理技術と経営能力を身につけ、安心・信頼感が得られる総合的な栽培管理を実践できる農業後継者と地域における農業の振興に指導的役割を果たす人材を養成する。</p>	<p>果樹コースは1987年（昭和62年）に設置され、平成22年度までに186名が卒業、マンゴーの大規模経営をはじめとして、幅広い分野で活躍している。マンゴー、アテモヤ、カンキツ等の熱帯、亜熱帯、温帯果樹類を学生のプロジェクト研究品目に選定し、栽培技術の習得と収益性の検討を行い、果樹栽培の基礎および果樹園経営の素養を身に付けさせている。</p> <p>果樹コースの学生は世界の果樹に触れることができ、2月～3月のピワ、6月～7月のマンゴー、6月～1月のドラゴンフルーツ、12月～2月のアテモヤなど、年間を通して、美味しい果物を食味できる恩典つきである。</p>
	花き専攻	肉用牛専攻
	<p>大型施設を利用した輪ギク、ソリダゴの栽培、露地の小ギク、ヒマワリ、クジャクアスター等の生産技術と経営管理能力の習得。洋ラン、ブーゲンビレア、観葉鉢物等の栽培管理能力の習得。草花類、鉢物の栽培管理技術の習得。</p>	<p>肉用牛コースでは毎日の実践的な実習を通して、繁殖から肥育までの肉用牛飼養管理技術の全般を学ぶ。黒毛和種を中心に繁殖から肥育まで約40頭を飼養しており、学生は在学中、担当牛の健康状態や採食量、発情の観察など日々責任を持って管理し出荷するまで面倒をみ</p>

	<p>講義科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール（1年）プロジェクト実施計画の作成と発表。 ・花き各論 1.（1年）花き園芸の基礎的な知識とキクの栽培に関する知識を習得させる。 ・花き各論 2.（2年）主要花きの専門的知識及び栽培管理に関する知識を習得させる。 ・専攻実習（1年～2年）栽培技術の習得と実践経営管理能力の養成 ・先進農家派遣実習（2年）県外の先進農家での体験学習を通して幅広い視野と経営感覚及び経営実践力を養う。 ・卒業論文（2年）プロジェクト実績を集計分析させ、それをもとに卒業論文の作成及び発表をさせる。 	<p>る。</p>
--	---	-----------

<p>取得目標資格・技能</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大型特殊自動車運転免許（農耕用） 2. けん引免許（農耕用） 3. 農業機械士 4. 家畜人工授精士免許（畜産課程のみ） 5. 危険物取扱者 6. ガス溶接・アーク溶接作業安全講習
-------------------------	--

卒業生の進路状況	就農	農業法人	研修	進学	就職	その他	未定
	22		2		16		

<p>現状の学生数</p>	
----------------------	--

1.1.2 カリキュラムに関するまとめ

前節に列記した情報収集の結果から、カリキュラムに関して以下のような特徴が見えてくる。

- ・ 農耕を対象とした学科には、野菜、花き、果樹のコースが多い。
- ・ 畜産を対象とした学科には、肉用牛、酪農のコースが多い。
- ・ 定員は、1つのコースで10～20名程度が多い。
- ・ 教育時間に対する実習の割合が高い。最低でも50%。
- ・ 2年課程とは別に、農業従事者等を対象とした研修を行っている。

その他、科目名が公開されているところでは、栽培や農薬、土壌、農業機械等が、共通して実施されている内容となっている。但し、科目名の表示のみで読み取れることであり、実際には、農業大学校ごとに、所在する道府県の農業の実情に合わせた取組がなされていることが予想される。

1.1.3 卒業生の進路状況に関するまとめ

1.1.1 で列記した調査結果の中から、公開されているもののみ、卒業生の進路状況を分析した。但し、何年度の卒業生のデータであるかは統一されていない。単年度のデータ（例えば、「平成23年度卒業生のデータ」など）である場合もあれば、「過去5年間」のように、複数年度の累計である場合もある。また、データの表記も、人数の実数である場合もあれば、割合である場合もある。

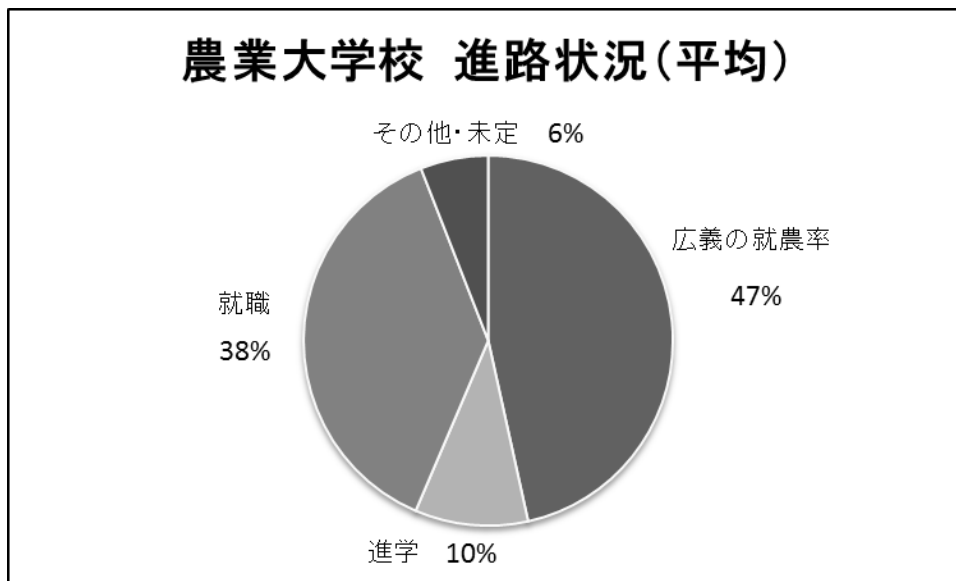
このように、統一されていないデータではあるが、本調査の目的は大まかな傾向をつかむことであり、正確なデータの分析ではない。そのため、このようにして得られたデータを分析することにした。

また、進路の分類も、農業大学校によってまちまちである。そこで、得られたデータを以下のように分類した。

分類	説明
就農	農業大学校を卒業してすぐに就農する。
農業法人への就職	農業大学校を卒業して、農業法人に就職する。資料によっては、「就職就農」と表現されている場合がある。
研修後就農	農業大学校を卒業した後、さらに研修を受けてから就農する。
進学	大学の農学部や、農業大学校の研修部等へ進学する。
就職	農業法人以外の企業・団体等へ就職する。非農業系企業その他、農業関連企業や農協、公務員等も含む。
その他	上記以外の進路。
未定	未定と明記されている場合はこちらに分類した。

図表 2 進路の分類

この分類により、卒業生の進路状況を人数または割合で公開している 33 校を対象に、「広義の就農率」、及び「進学」「就職」「その他・未定」の、卒業生数に対する割合を算出し、それぞれの平均をとると以下ようになる。なお、「広義の就農率」とは、「就農」「農業法人への就職」「研修後就農」の割合の合計とした。



図表 3 農業大学校の進路状況 (平均)

これによると、「広義の就農率」は 47%であり、半数をやや下回っていることがわかる。

一方、「就農」と、「農業大学校への就職」「研修後就農」とが明確に区別されて公開している 19 校を対象に、「就農」のみの卒業生数に対する割合（「狭義の就農率」とする）の平

均をとると、14%となった。

また、参考までに、平成23年の農業産出額⁶上位7県における、「広義の就農率」を比較した。その結果、農業産出額と「広義の就農率」との間に相関が見られた。

順位	県名	農業産出額 (億円)	広義の就農率
1	北海道	10,137	74%
2	茨城県	4,097	44%
3	鹿児島県	4,069	62%
4	千葉県	4,009	25%
5	熊本県	3,113	60%
6	愛知県	2,948	44%
7	宮崎県	2,847	43%

図表 4 平成23年農業産出額上位7県の「広義の就農率」

これによると、宮崎県は、同じ南九州に属する鹿児島県や熊本県と比較して、「広義の就農率」がやや低いことがわかる。また、千葉県はこの中では「広義の就農率」がより低い。千葉県立農業大学校の卒業生の、「広義の就農率」以外の進路は、進学40%、就職35%となっている。

このように、農業大学校の卒業生でも、卒業してすぐに就農する人の割合が低いという傾向が見て取れる。本調査によって大まかな傾向は把握できたが、さらに詳細なデータ、最新のデータを収集するため、次節の郵送アンケートによる調査を行うことにした。

⁶ 農林水産省 平成23年農業総産出額及び生産農業所得（全国）
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/nougyou_sansyutu/index.html#y を参照

1.2 農業大学校対象の郵送アンケート調査

前節で、公立の農業大学校のカリキュラムや卒業生の進路状況等の大まかな傾向は把握できた。こうして得られた傾向から、さらに詳細なデータ、最新のデータを収集して分析を進めるために、郵送でのアンケート調査を行った。

1.2.1 調査概要

調査の対象は、全国農業大学校協議会の会員校 47 校の内、宮崎県立農業大学校を除いた 46 校（公立 41 校、民間 4 校）とした。宮崎県立農業大学校は直接訪問して、アンケートと同様の内容をヒアリングして調査を行うこととしたため、本調査の対象からは除いている。

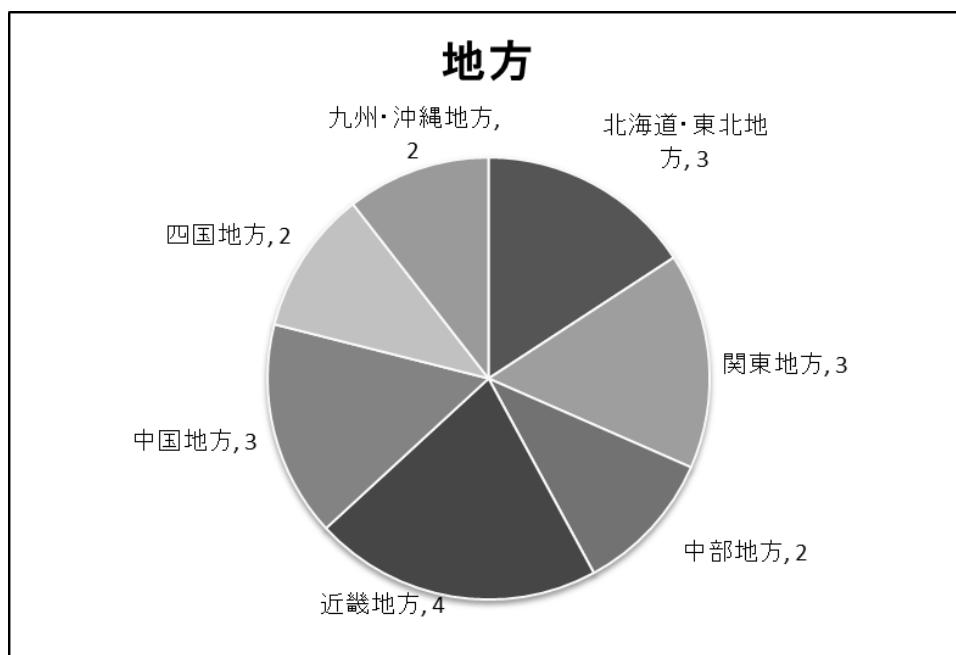
アンケートの設問内容は、以下の通りである。

- ・ 育成を目指している人材像
- ・ 学生の出身校
- ・ ターゲットとしている学生の進路
- ・ 学生指導上、重視している知識やスキル
- ・ 重視している知識やスキルを身につけさせる上での課題と、取り組んでいる解決策や工夫等
- ・ 近年の学生の応募状況
- ・ 近年の学生の進路状況
- ・ 進路指導上の課題と、取り組んでいる解決策や工夫等
- ・ 他の教育機関や農業法人、農協等との連携について
- ・ 農業法人や農協等から受けている、研修や指導方法に対する要望
- ・ 農業人材を育成する上での方針、今後の展開等
- ・ 農業人材育成やわが国の農業に関する自由意見

アンケート調査票は、平成 25 年 1 月 28 日に発送し、2 月 15 日を回答の締め切りとした。その結果、19 校から回答があった。回収率は 41.3%であった。なお、回答が得られた農業大学校は、全て公立であった。

なお、回答が得られた 19 校を地方別に分類すると、北海道・東北地方：3 校、関東地方：3 校、中部地方：2 校、近畿地方：4 校、中国地方：3 校、四国地方：2 校、九州・沖縄地方：2 校、となった。

地方	回答数
北海道・東北地方	3
関東地方	3
中部地方	2
近畿地方	4
中国地方	3
四国地方	2
九州・沖縄地方	2



図表 5 回答が得られた農業大学校の地方

全国からほぼ満遍なく回答が得られた。

以下、アンケートの結果を列記する。

1.2.2 調査結果

1.2.2.1 育成を目指している人材像

農業大学校で育成を目指している人材像について、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	農業技術や経営の基礎・基本を習得し、幅広い視野を持って社会変化に対応できる能力を持った農業後継者
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え行動できる ・作業管理者レベルのスキルを有する
3	次代の農業及び農村社会を担う優れた農業後継者、農業技術指導者
4	農業技術の高度化及び経営の革新に対応できる技術能力、経営判断能力を持ち、明日の農業を拓く、創造力・実践力を持った人材
5	農業の実践教育を通して、将来の本県の農業を担う人材の育成
6	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の生命・健康を守る農業を担う青年農業者の育成 ・個性豊かで、独創性と協調精神旺盛な農業技術者の養成
7	本県の農業を支える経営感覚に優れた農業経営者
8	社会経済情勢の変化に対応し得る応用力とたくましい実践能力を養い、地域農業の中核的担い手となり得る農業経営者
9	<p>農業経営のスペシャリストの育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高度で実践的な農業技術や地域資源の付加価値向上に向けた知識や技術を身に付けている。 2 創造性豊かで国際化や時代の変化に即応できる企業的感觉を身に付けている。 3 将来の本県の農業を担う地域社会のリーダーにふさわしい資質と能力を身に付けている。
10	本県の次代の農業経営を担う優れた人材を育成するとともに、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす、個性豊かな人材を養成する。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の農業の担い手 ・農業指導者
12	幅広い教養と農業及び食料に関し深い理解と熱意を持った農業及びその関連産業の担い手
13	21世紀の農業・農村社会が必要とする高度な専門的知識と技術、幅広い教養、国際性を身につけた有能な農業の担い手となり、地域社会を発展させる上でのリーダー的役割を担いうる農業青年の育成。
14	生産から販売まで一貫して行える自立経営農家

15	農業について、高度な専門能力（農業技術、経営管理能力）、幅広い視野と豊かな想像力を持ち、チャレンジ精神の高い人材を養成し、優れた農業技術者と農業後継者として、県下における農業振興の中核を担う人材を輩出する。
16	地域農業の担い手 ・ 高度な知識、技術を有する担い手農業者 ・ 農業生産法人等で生産・加工作業に従事、経営に参画する者
17	農業及びその関連産業の担い手
18	産業人としての自覚を持ち、近代的な農林業経営を推進するための幅広い専門的な知識・技術を習得した者。また、地域のリーダーとしての指導力を有し、幅広い視野で社会の変化に対応できる経営能力を持つ者。

(※1校無回答)

図表 6 育成を目指している人材像

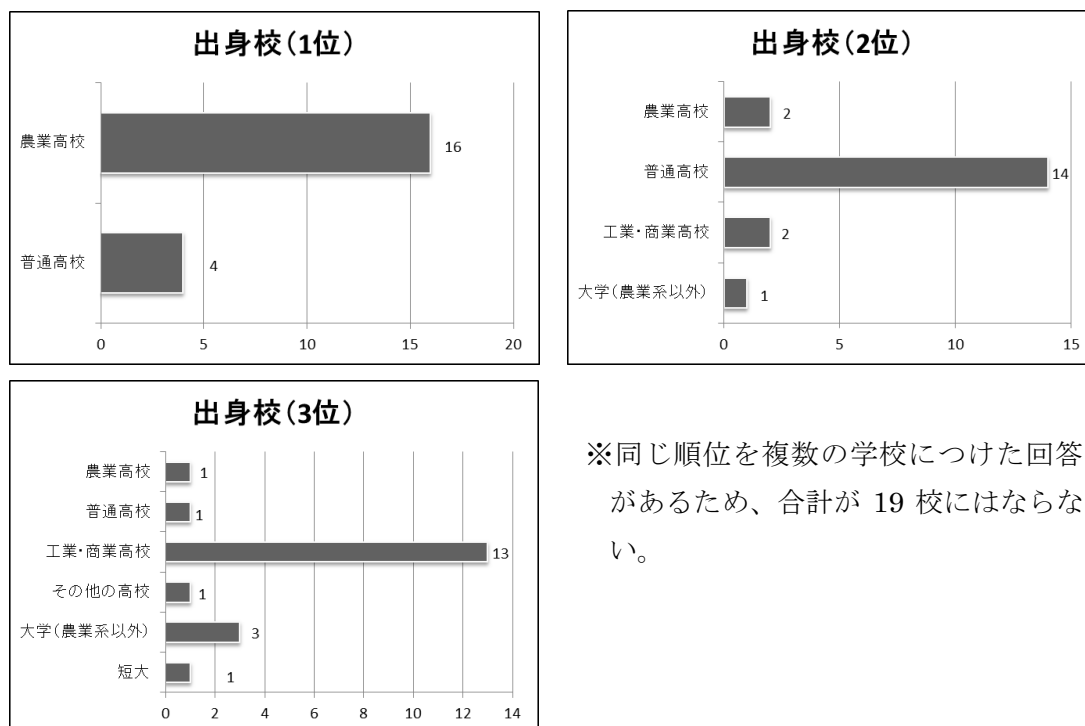
所在する県の農業人材を育成するという回答が多い。また、経営能力を身につけている人材という回答も多い。No.16のように、自営農家だけでなく、「農業生産法人等で」従事する人材、経営に参画する人材と明記されている回答も見られる。農業や経営に関する比較的高いレベルの知識やスキルを身につけているだけでなく、幅広い視野や、リーダーシップ、指導力、チャレンジ精神等、ヒューマンスキルでも高いレベルを目指していることがわかる。

1.2.2.2 学生の出身校

学生の出身校について、多い順に順位をつける形式で質問した。選択肢は、以下の通りである。

- ・ 農業高校
- ・ 普通高校
- ・ 工業・商業高校
- ・ その他の高校
- ・ 大学（農業系）
- ・ 大学（農業系以外）
- ・ 短大
- ・ 専門学校（農業系）
- ・ 専門学校（農業系以外）
- ・ その他

これらの中から、上位 3 位までに回答された選択肢とその回答内訳は、以下のようになる。



※同じ順位を複数の学校につけた回答があるため、合計が 19 校にはならない。

図表 7 学生の出身校 (人数の多い上位 3 位まで)

農業高校出身者が最も多いという回答 16 校からあり、全体の 8 割になる。それ以外の 4 校は全て普通高校出身者が最も多いという結果であった(1校はこの両方を 1 位としている)。2 番目に出身者が多いのは普通高校であるという回答が、14 校からあった。3 番目に出身者が多い学校は、工業・商業高校が 13 校から挙げられている。全体的に、出身者の多い順に農業高校、普通高校、工業・商業高校となる。大学を選択した回答では、農業系よりもそれ以外からの方が多くという回答が多かった。

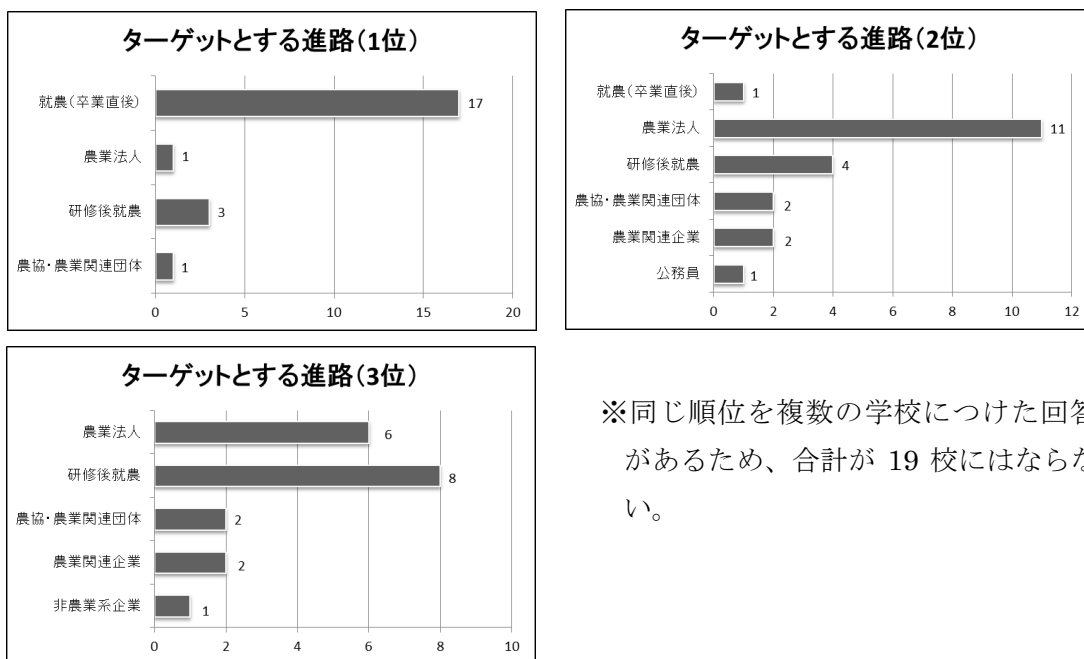
1.2.2.3 ターゲットとしている学生の進路

ターゲットとしている学生の進路について、重視している順に順位をつける形式で質問した。選択肢は、以下の通りである。

- ・ 就農 (卒業直後)
- ・ 農業法人
- ・ 研修後就農
- ・ 農協・農業関連団体

- ・ 農業関連企業
- ・ 非農業系企業
- ・ 公務員
- ・ 進学
- ・ その他

これらの中から、上位 3 位までに回答された選択肢とその回答内訳は、以下のようになる。



※同じ順位を複数の学校につけた回答があるため、合計が 19 校にはならない。

図表 8 ターゲットとする進路 (上位 3 位まで)

最も重視している進路で「就農 (卒業直後)」を選択した回答は 17 校からあり、9 割近くに上る。2 番目に重視している進路では、「農業法人」を選択した回答が最も多く、11 校で 6 割近くになる。3 番目に重視している進路では、「研修後就農」が 8 件で最も多く、「農業法人」が 6 件で次に多い。全体的に、重視している順に、「就農 (卒業直後)」「農業法人」「研修後就農」となる。その一方で、少数ながら、「農協・農業関連団体」を最も重視しているという回答もあった。

1.2.2.4 学生指導上重視している知識やスキル

学生指導上、重視している知識やスキルについて、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・農業技術や経営の基礎、基本の習得 ・社会変化に対応できる能力（社会性）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・農業技術検定2級レベルの知識、技術 ・資格、免許（大型特殊、家畜人工授精士等の取得） ・観察力 ・社会人基礎力
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な農業技術及び経営能力の習得 ・プロジェクト研究 ・各種資格、免許の取得 ・各種技能検定の取得
4	農作物の栽培技術 農業経営感覚（生産、加工、販売） 農作業技術 農業経営していく上での各種資格 社会人としての生活態度
5	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な技術の習得 ・農業に関する幅広い知識の習得 ・実践的な経営感覚の醸成 ・プロジェクト学習 ・全寮制による協調と自立精神の育成
6	<ul style="list-style-type: none"> ・作物・家畜の栽培、飼養技術 ・農業経営を行うための経営感覚の醸成 ・全寮制による自律と協調の精神の涵養 ・農業に必要な各種資格の習得
7	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い理論学習と豊富な実習を相互にリンクして実務能力を養う。 ・課題解決型学習（プロジェクト学習）を通して自ら考え、学び、行動する力を身につける。 ・実際の農家や研究現場での学習を通して経営感覚や先進技術を学び、自分のものとする。 ・寮生活をとおして社会性や協調性を身につけさせる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の作物栽培、家畜飼養に必要な知識・技術

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理に必要な簿記、経営設計、情報処理に関する知識・技術 ・ 6次産業化に向けた原料調達・加工・販売（マーケティング）に関する知識 ・ 技術 ・ 組織や集団による営農に向けた集団行動・作業 ・ 自主学习・記録・調査・観察・考察する習慣
9	<ol style="list-style-type: none"> 1 農畜産物の栽培・飼養管理・加工技術 2 流通・加工・販売等の経営管理能力 3 地域資源を活かした新たな商品開発等ができる企画開発・プレゼンテーション能力 4 コミュニケーション能力 5 自律、自主性、協調性
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業に関する基礎知識および専攻する分野の専門的知識 ・ 農作業に関する実践的技術 ・ 経営管理に関する知識 ・ 課題解決手法 ・ 作業効率
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農畜産物の栽培、飼育、販売、加工の知識と技術 ・ 食の安全・安心及び環境保全に根ざした農業の知識 ・ 地域のリーダーとしての資質
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業に関する知識・技能の向上 ・ 社会性の向上
13	<p>プロジェクト活動を通じ、自ら課題解決できる能力</p> <p>幅広い経営能力</p> <p>農業生産だけでなく、農産加工や六次産業化に対応できる技術</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広くかつ高度な専門的知識・技術 ・ 経営管理能力 ・ マネジメント能力 ・ 優れた国産感覚
15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定生産ができる基本技術力 ・ マーケティング能力 ・ 経営管理能力
16	<p>実習を重視し、演習やインターンシップ（30日間の農家留学、5日間の市場研修）も含め、農業の実践教育に力を入れている。</p> <p>又、就農時や農業関係方面への就職に有利な資格取得に向けた支援にも力を入れている。</p> <p>取得に向けて支援している資格</p>

	①大型特殊自動車運転免許（農耕車） ②フォークリフト ③小型車両系建設機械 ④刈払機作業安全衛生教育 ⑤毒物劇物取扱者 ⑥危険物取扱者乙4種 ⑦園芸技術員（県農協連） ⑧日本農業技術検定2級
17	・基本的な栽培・家畜飼養管理技術の習得（農業機械操作も含む） ・作物・家畜に関する基本的な知識の習得
18	豊かな人間性の涵養に努め、専門知識や農業技術、経営能力を総合的に実践学習し技術の革新に対応できる応用力の養成。 自らの実践によって、地域の農業や農村の振興発展に意欲的に取り組むことのできる組織力と指導力の養成。 時代を先取りする農業者として国際性を磨き先見性を持ち、機敏に行動できる能力の養成。 農村社会がもつ高度な文化を正しく受け継ぎ、自然環境を守り地球と強制しようとする視野の養成。

(※1校無回答)

図表 9 学生指導上重視している知識やスキル

農業の実践力に加え、経営能力や自律性を挙げている回答が多い。具体的な資格を挙げている回答もあった。

1.2.2.5 重視している知識やスキルを身につけさせる上での課題と解決策・工夫等

前節で回答いただいた知識やスキルを身につけさせる上での課題、及び取り組んでいる解決策・工夫等について、自由記述形式で質問した。以下の表の No.は、前節の表と対応している。

No.	課題	解決策・工夫等
1	・農業に関する知識の習得	・カリキュラムでの対応（各論、ゼミの活用） ・内部講師による学生個々にあった学習
2	・基礎学力、学習意欲、理解力、農業に取り組む姿勢など学生間のレベル差が大きい ・教育方法に関する専門資格（教員免許）、知識を有する職員が少ない	
3	・各種資格の合格率が低い（特に、危険物取扱者資格、毒劇物取扱者資格） ・日本農業技術検定、漢字能力検定等の合格率が低い	・各種資格、能力検定の勉強会を開催している
4	入校生が農業、普通、工業、商業高校卒や大学卒と多様であり学力（基礎学力）に大きな差があり、指導が難しくなっている。（どのレベルに合わせるのか）	従前は各専攻で対処していたが、専攻講義や実習に支障をきたすため入校初期における基礎学力の講義や補講を実施することとし、具体的な指導方法を確立するため全国農大の状況をアンケートし検討しているところである
5	・非農家子弟の増加 ・基礎学力（数学、作文等）の不足	・実践中心として授業の半分は実習にするとともに大学農学部や県農業研究所等と連携し、魅力ある授業を実施する。 ・基礎学力向上対策として、講義時間を設け対応している。
6	・学力格差が激しい	・補講の実施 ・休暇や時間外を利用した資格取得講座の実施
7	・専修学校化され、近年、多様な価値観、背景を有する学生が入学して来ている	・農業生産技術、経営管理技術を身につけさせるだけでなく、他産業には

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生間での目的意識・意欲の有無の差が拡大してきている。(学生のレベルの差が広がっている) 	<p>ない農業のメリットや農村社会の良さなどを理解させ、就農の意識付けを図る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生レベルに応じた指導が必要となると思われる。
8	<p>農業高校出身と非農業系高校出身により基礎的な農業知識や技術に格差がある。また、実習（作物栽培・家畜飼養）と座学、それぞれにおいて、学習意欲に差がある。</p>	<p>必修科目がほとんどを占め、一律の座学が行われてきたが、自由選択科目として「6次産業論」「モバイル・IT活用農業論」を新設し、学習意欲の高い学生について学ぶ機会を増やした。また、学習意欲の向上を図るため、今後も校外学習等により、先進事例を学ぶ機会を増やしていきたいと考えている。</p>
9	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境保全型農業の実践教育の拡充 2 新商品開発・マーケティング実践活動の充実・強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境に配慮した先進的な技術を習得できる施設・設備の整備とカリキュラムの充実を検討している。 2 農産加工経営学科を中心に、地域資源を活かした新商品開発や販売などの実践活動を行うカリキュラムの充実を検討している。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の実践技術を身に付けるためには、長い年月を要する。 ・文章読解、計算など基礎学力が不十分な学生がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間数の約半分を農場実習にあてている。 ・先進農家への派遣学習を2か月間実施。 ・課題解決学習の実践。
11	<p>入学生のニーズの多様化し、農業の知識や経験に差があるので指導等に苦慮している。</p>	<p>人員、時間、実習ほ場等を調整し、できるだけクラス分け、班分けして指導している。</p>
12	<p>本校は園芸（野菜、花き、果樹）、畜産（酪農、肉用牛）のコースがあり、それぞれの専門性を高めることができている。</p> <p>反面、本県農業の主体である米、麦、大豆に係る知識・技能を十分に要請する体制・カリキュラムがない。</p> <p>→現場で即戦力となる人材となっていない面がある</p>	<p>近隣の農業法人等と連携して、米、麦等の基幹産業を体験させてもらうなどの取り組みを平成21年度から行っている。</p>

13	能力の低い学生の対応	基礎学力の向上対策の実施
14	生産現場では大規模化や先端技術の導入、6次産業化が進んでいるが、大学校のカリキュラムや施設・設備はこれらに対応できていない。	平成26年度を目途としたカリキュラム等の見直しが進められており、いくつかの改善点が打ち出されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・専攻を見直し、より専門的学習を可能にする。(例：果菜専攻をイチゴ専攻とトマト専攻に分ける) ・先端技術の導入。(例：最新養液栽培システムの導入など) ・生産法人との連携強化。(例：法人での研修カリキュラムの充実化など) ・マーケティングや6次産業化に関するカリキュラムの充実。(例：地域の店舗の一角に大学校の農産品販売や情報発信が出来るスペースを設け、ここでマーケティング実習を行う計画が進んでいる。)
15	専門的な講師の確保	人脈等を通じて搜している
16	①農家留学は、農家と寝食を共にし農家の経営と生活等を学ぶために実施するものであるが、農家の経営主や家族にかかる負担が大きく、受け入れ農家の確保が困難である。 ②学生の基礎学力が低いため、通常の準備(受験対策)時間数では合格率が低い。	①同窓会組織や普及組織等を通じて、人選と協力依頼を行い、何とか農家留学の学生受け入れ農家を確保している。 ②筆記を中心とした受験対策として、専門の外部講師に補習を依頼するとともに、十分な時間をかけて補習をしている。
17	農作業の経験のある学生が少なくなっている	実習カリキュラムの充実を図った
18	非農家出身の増加傾向に伴い、農業体験の少ない学生が増加してきている。また、基礎学力テストの結果から、特に数学において学力不足を指摘せざるを得ない学生が散見されている。	入学当初は基礎的な科目を多くし、次第に専攻科目など専門的な科目を履修するよう系統的なカリキュラム編成を行っている。農業基礎の科目では、農業の基礎的学習やレポートの作成技術の基本など、本校で学習するのに必要な基礎的知識を習得させている。 また、1年次の担任団で課外授業として

		数学の個別指導を行うなど、基礎学力の向上に努めている。
--	--	-----------------------------

(※1校無回答)

図表 10 重視している知識・スキルを身につけさせる上での課題と解決策・工夫等

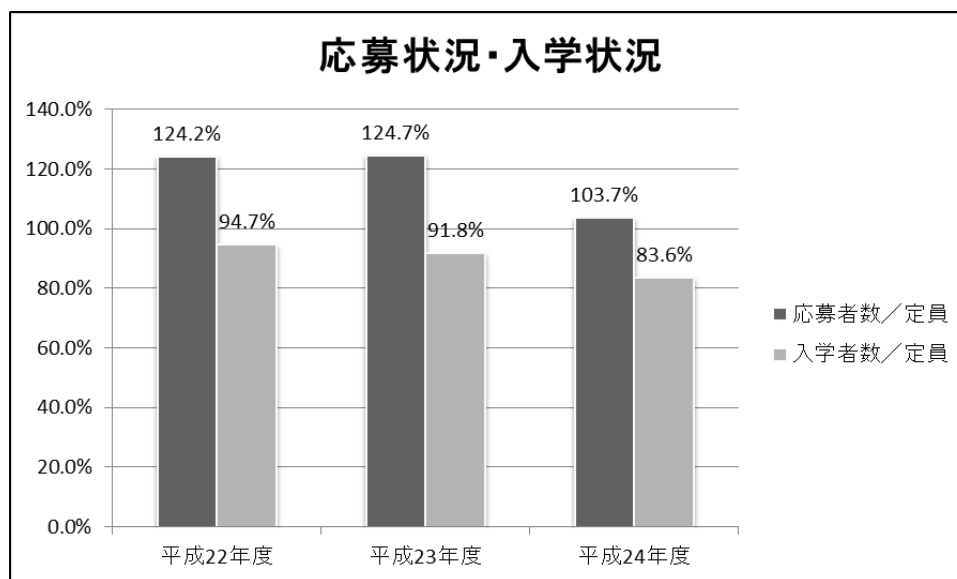
近年、農業大学校は専修学校化されているが、そうした背景の下、入学する学生に農業高校以外の出身者も増え、農業に関する基礎知識に差が出てきているという回答が多数見られる。また、基礎学力についても同様であり、農業系以外の専門学校にも共通した課題が表れてきている。また、生産現場の6次産業化への対応を挙げている回答もある。

取り組んでいる解決策・工夫等では、個別指導を行う、補講を実施する等の、基礎学力や農業に関する基礎知識の向上を図る方法が挙げられている。

1.2.2.6 応募状況・入学状況

近年の学生の応募状況、及び入学状況に関して質問した。得られたデータを基に、ここでは、応募者数の定員に対する割合（応募者数／定員）、及び、入学者数の定員に対する割合（入学者数／定員）の、年度ごとの平均を算出した。なお、応募者数は2校無回答があったため、応募者数／定員は17校のデータ、入学者数／定員は19校のデータを用いて算出している。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
定員合計	945	900	900	17校分のデータ
応募者数合計	1174	1122	933	
応募者数／定員	124.2%	124.7%	103.7%	
定員合計	1015	970	970	19校分のデータ
入学者数合計	961	890	811	
入学者数／定員	94.7%	91.8%	83.6%	



図表 11 応募状況・入学状況

回答のあった17校のデータを平均すると、ここ3年間、定員を上回る応募はある。しかし、応募者数は減少傾向にある。一方、入学者数は定員を下回っており、定員に対する入学者数の割合も減少傾向にある。

コメントとして、「推薦選考により入校した学生にも関わらず、学校生活に馴染めず退校する学生が見られる」という回答もあった。

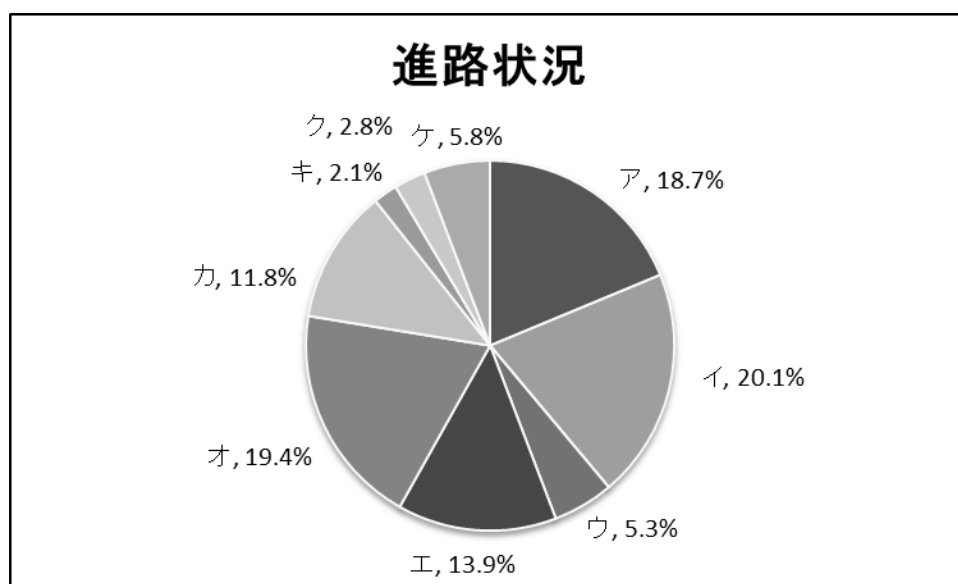
1.2.2.7 近年の学生の進路状況

近年の学生の進路について、比率による回答形式で質問した。選択肢は、以下の通りである。

- ・ 就農（卒業直後）
- ・ 農業法人
- ・ 研修後就農
- ・ 農協・農業関連団体
- ・ 農業関連企業
- ・ 非農業系企業
- ・ 公務員
- ・ 進学
- ・ その他

19校のデータから、全体の割合を算出すると以下ようになる。

選択肢	割合
ア 就農（卒業直後）	18.7%
イ 農業法人	20.1%
ウ 研修後就農	5.3%
エ 農協・農業関連団体	13.9%
オ 農業関連企業	19.4%
カ 非農業系企業	11.8%
キ 公務員	2.1%
ク 進学	2.8%
ケ その他	5.8%



図表 12 進路状況

「その他」の回答は、「結果待ち、フリーター等」「農協臨時職員、アルバイト等」「食品関連産業」「卒業時進路未定（3校）」というものであった。

1.1.3と同様、広義の就農率（＝就農（卒業直後）＋農業法人＋研修後就農）を算出すると、44.1%となる。また、狭義の就農率（＝就農（卒業直後））は18.7%である。1.1.3で述べた全国の公立農業大学校の現況に関する情報収集で得られた値と比較すると、広義の就農率はやや低く、狭義の就農率はやや高い、という結果となった。多少、数値に差異が認められるものの、ほぼ同じ傾向であると考えられる。

1.2.2.8 進路指導上の課題と解決策・工夫等

進路指導上の課題と、取り組んでいる解決策や工夫等に関して、自由記述形式で質問した。

No.	課題	解決策・工夫等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定が遅い ・試験対策が不十分な学生が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試の活用 ・面談による進路の聞き取りと動機づけ ・ハローワークの活用
2	就職希望者の意思決定、動き出しが遅い	<p>県関係機関で構成する「大学校就農・就職促進会議」での就職支援を行っている。</p> <p>具体的には、農業法人や関連企業とのガイダンスやマッチングの開催、情報共有など</p> <p>希望者へのインターンシップの実施</p> <p>求人情報の随時提供</p>
3	就職を希望する学生が年々増加しており、求人情報の収集に苦慮している	就職・就農指導を行う指導班を設置している
4	<p>就業意識に欠ける学生が多く、卒業後の進路を考え始める時期が遅く就職活動の時期を逃したり、自己アピールが苦手です就職試験や面接に失敗する学生が多い。</p> <p>また、求人職種に偏りがあり広く求人を求める必要がある。</p>	<p>職員による模擬面接を実施している。</p> <p>新卒応援ハローワークの実施する各種支援事業を活用し、1年生を対象に就職活動セミナー等を実施し、就業意識を醸成し早期に進路を考えられるように支援している。</p> <p>また、求人を広く求めるために職員による企業訪問（農業関連企業）を実施し求人情報の収集に努めている。</p>
5	本校設立の趣旨は「すぐれた農業者と農村の地域担い手の育成」となっているが、近年の学生の就農率は20%を下回っている。また非農家出身の学生が30%を越え、目標が不明確な学生が増えている。	学生自身の意識改革を図るため、個別面接等により進路決定及び就職活動のバックアップを図っている。
6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就農率向上 2. 進路決定率向上 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就農促進対策 ・就農意欲の高い学生の確保 ・就農者（OB等）との交流促進

		<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人への求人掘り起こしとフォローアップ 2. 進路指導 ・進路支援講座、セミナーの開催（就活対策） ・個別指導の強化
7	<ul style="list-style-type: none"> ・専業農家出身以外の学生の農業への就業機会（農家の就職先）が少ない。特に、国が緊急雇用対策を行ったため新規学卒者の就業先が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が自分の知り合いを頼って捜している。
8	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非農家出身学生の増加による進路の多様化 2. 非農家出身学生の雇用就農、自立就農対策 3. 進路決定率の向上対策（就農、進学を含む） 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三者面談（年度当初）実施による進路決定動機付けの早期化、進路希望の把握。 2. 農業生産法人等の説明会出席への誘導。関係機関の就農相談員との面談、農業生産法人とのマッチング。 3. 就職情報の収集と提供。就職セミナー等への参加誘導。 4. 随時、学生の個性に合わせた個別指導の実施。
9	<p>進路決定が遅い上、就職活動においても消極的な学生が増加してきている。特に農家出身学生には、就職が無理なら就農と言った考えが多いように思われる。</p>	<p>1学年を対象とした進路ガイダンスを開催し、働くことの意義や就職活動について学ぶ機会を設定している。</p> <p>また、保護者懇談会を1年次（9月）、2年次（6月）に開催し、家庭内での早めの進路決定及び進路に向けた学習や資格取得を促している。</p> <p>しかし、これらの取組みによっても、自らの進路に対して消極的な学生が見られる。</p>
10	<ol style="list-style-type: none"> 1 就農率の一層の向上 2 就農定着に向けた支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1 各担当が、就農に向けた計画づくりを支援するとともに、選択科目「就農講座」において、就農するための基礎知識の習得、先進農家研修などを行っている。また、青年就農給付金制度などをPRしている。

		2 就農後、学生が孤立することなく普及課や地域との繋がりが持てるよう、地域の普及課と連携、情報交換を行い、研修会などへの参加誘導を行っている。また、養成部（2年）に加え、研修部での就農実践研修（試験研究機関、先進農家との連携）を行い、よりスムーズに就農し、実践できるよう体制づくりを行っている。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・求人側の要望に能力が伴わない。 ・求職への積極性がない学生が多い。 	1年次より進路ゼミとして、就職活動を意識づける。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生ニーズが多様化しているので、指導に苦慮している。 ・就職・就農意識の高まりが遅いので、出遅れしている。 ・修学年数が2年間と短いので、入学早々、進路を考えなければならない。 ・カリキュラム上、就職活動の時間が制限される。 ・新規農業法人は増加しており就職・就農先として期待できるが、給料、保険等、雇用条件に関する情報が少なく、学生が希望する条件とのマッチングが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時、進路ガイダンス、個別面談を実施し、進路の意識付け、個人のニーズを把握して指導している。 ・農業法人等へのアンケート調査・訪問、関係機関との情報交換を通じ、情報の把握に努めている。 ・卒業生の体験談等によるガイダンスを通して学生の意欲向上に努めている。
13	雇用を必要とする農業法人には限りがあり、安定した求人が確保できない。	毎年、年2回程度、県内各法人に訪問し、求人情報の入手等に努めている。
14	就職希望者の場合、進路の希望が明確でなく、就職活動も遅れがちとなっている	1年次の早い段階から基礎学力向上のための補習の実施や、就職セミナー等へ参加させている。
15	学校としては早期の進路決定に努めているが、学生本人の意思決定がなかなか進まない状況が見受けられる。	1年次の教養基礎演習では、進路別の選択コースにより企業研究やEC演習などに取り組んでおり、学生個々の進路実現を目指している。
16	非農家出身学生の割合が6割を超え、卒業後の進路として就職を希望する学生が	求人を開拓するため、毎年過去に本校学生を採用したり、求人票を提出した実績

	大半を占める中、本校への農林関連企業の求人数は十分とはいえない。また、非農家出身学生が農業を職業として選択する場合、農業法人への雇用就農あるいは自立就農の前段階として、農業法人への就職を希望する学生が増えており、希望に対応できるだけの求人数が不足している。	のある企業を中心に、求人訪問を実施している。昨年度の 38 社に対して今年度は 70 社に訪問数を増やして、求人開拓の強化を図ってきた。求人数は昨年度の 46 社に対して今年度は 61 社に回復してきている。 学生から希望の多い農業法人への就職指導として、インターンシップを単位認定し、1 年次から行くことを奨励している。また、学校カリキュラムにある先進経営研修の受入先として積極的に農業法人へ受入を依頼し、求人を考えている法人には入社選考の参考にしてもらっている。
17	農業法人が少なく、かつ、求人のある農業法人も非常に少ないため、非農家出身者の就職先がなかなか見つからない。 また、新規での農地の確保も困難である。	①入学当初に卒業後の進路を決めていない学生については、初年次教育等を通じて 1 年生の早い時期に就業意識と就業意欲を持たせ、卒業後の目標に向けた就学計画を立てさせる。 ②卒業生の就職先確保に向けて、管理職を中心に春から JA 関係や農業関係会社等を訪問し、求人依頼に努める。
18	自家就農に至るまでの間の研修先、一時就職先の確保が課題	・農業会議所を通じ、農業生産法人との連携を図るよう努めている。 ・研修先のあっせん等を普及センター、JA の協力のもと実施

図表 13 進路指導上の課題と解決策・工夫等

全体的に、「進路決定が遅い」という回答が多い。非農家出身者、農業高校以外の出身者が増加したため、進路のニーズも多様化しており、対応に苦慮している様子が見える。解決策としては、三者面談や模擬面接を実施し、なるべく早い時期から就職意識を高めるような工夫をしているところが多い。

農業法人からの求人が少ないという回答も多く、農業法人への訪問や、県の関連機関・農協等と連携して解決を図っているという取組が見られる。

1.2.2.9 他の教育機関や農業法人、農協等との連携

他の教育機関や農業法人、農協等と連携している取り組みについて、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	大学に8講義を依頼している
2	県教育委員会、県農林水産局、農業高校、大学校で構成する「農業教育連絡協議会」で連携して、農業高校と大学校の5年間を通じて担い手を育成するプログラムを検討している。
3	・流通現場（青果・花き市場、直売所等）において、実態を学習する市場流通研修 ・農業法人での体験インターンシップ（予定）
4	農業教育振興会（会員：農協中央会等農業関係団体の長、各農業高校校長、農業者代表）の活動として、関係者の情報交換、農業高校生の大特（農耕車限定）免許講習、農業教育研究集会への参加等を実施している。
5	農業士会との連携、先進的経営体実習についての意見交換
6	大学、高校と協定を結び、講師等の協力を行っている。
7	・農業会議、農林振興公社、県関係機関就農支援担当者との連携による就農相談、農業生産法人とマッチングの推進。
8	県内ビジネス系大学と連携協定を締結し、①教員の相互乗り入れ、②学生交流を実施している。
9	1 平成19年11月に、県内農業学科設置高校と連携と協力に関する協定書を締結し、生徒、学生の研修・交流活動、教職員の研修会などを開催している。 2 平成22年8月に、県内の大学の農学部と学術交流に関する協定書を締結し、学生の研修・交流活動、教職員の研修会などを開催している。 3 コンソーシアム（県内高等教育機関11校の組織）に加盟し、大学の充実・発展のため連携・交流活動を行っている。 4 地域農業の動き、取り組み等について学ぶため、地元農協の職員を講師に招き学習している。
10	協定締結 ・大学…大学教授の講義、大学生の酪農体験、相互に学祭への出展 ・県内農業関係高等学校…協議会の開催、合同発表会の実施、合同PR
11	農大生が現地に行くことで、地域も明るくなっているような気がします（現地からはまた来て欲しいというオファーが絶えない）
12	商工会議所と連携し、起業・マネージメント・商品開発・マーケティング等の強化・充実、経営に関する資質の向上を図っている。

	食品関連講座において、県内の大学から講師を派遣してもらうなど、内容の充実を図っている。
13	本県の農業法人協会（会員数 118）と連携し、協会会員への農林大学校見学ツアー及び合同会社説明会を昨年 12 月にはじめて開催した。13 社が参加し、農業法人には本校の教育システムや学生を理解してもらい、学生には企業研究の視野を広げるなど、雇用マッチングでの連携を図った。
14	大学の生物理工学部と県農協連等から、外来講師の派遣を受けている。又、2 年生を対象に実施している市場研修（インターンシップ）については、県農協連の協力を得て中央卸売市場等で実施している。
15	近隣の農業高校との連携（出前授業）

（※「特になし」が 2 校、無回答 1 校）

図表 14 他の教育機関や農業法人、農協等との連携

他の教育機関との連携では、大学や農業高校と、講義の依頼や出前授業等、授業実施に関する連携が見られる。学生交流等にも取り組んでいる例もある。

一方、県や農業法人等との連携では、就農や就職に関する取組が見られる。産学官で就農対策・就職対策を支援している動きがある。

No.11 のように、農業大学校生が現地に赴くことで、地域の農業の活性化につながっているという例もあり、このような連携した取組を積極的に行っていくことの重要性がわかる。

1.2.2.10 農業法人や農協等から受けている要望

農業法人や農協等から、研修や指導方法に関して受けている要望について、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・毒劇物取扱者資格の取得 ・農業法人での就農体験
2	<p>研修指導方法について具体的な要望はないが、特に農業法人は、学生の進路先として重視している。</p> <p>農業法人等の求める人材等のニーズの確認が必要と認識している。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業が出来るだけでなく、マネジメントが出来る人材育成を要望されている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営者より：非農家出身の学生の就農については、雇用就農の推進だけでなく、独立経営の目指す学生への支援も必要。
5	<p>農業法人はオペレーター人材を求めており、実践的に機械作業ができる人材育成が求められている。</p> <p>また、一般農業者、農業法人従事者を対象として大型特殊自動車免許、けん引免許（いずれも農耕車に限る）の取得に向けた研修を実施しているが、時期的に定員を上回る応募があり、定員を増加して欲しいとの要望がある。</p>
6	<p>農業大学校へのニーズとして下記のことがあげられている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境保全型農業の実践教育・研修 2 6次産業化を担う農業者の育成 3 情報発進と地域への貢献
7	専攻する分野以外の広い知識
8	米、麦、大豆の生産が行える人材を育成して欲しいという要望あり（即戦力を求めている）
9	農業法人の規模拡大や取扱品目の多様化が進む中で、雇用従事者に対する教育・研修機会の拡大が農林大学校に求められている。
10	機械関係の資格取得の推進

（※「特になし」が6校、無回答が3校）

図表 15 農業法人や農協等から受けている要望

農業機械による作業ができる人材育成や、農作業だけでなくマネジメントができる人材の育成、環境保全型農業の実践教育・研修、6次産業化を担う農業者の育成、即戦力等、幅広い要望が寄せられていることがわかる。また、農業法人の雇用従事者に対する研修機会の拡大が求められているという回答もあった。

1.2.2.11 これからの農業人材を育成する上での方針、今後の展開予定等

これからの農業人材を育成する上での方針や今後の展開予定等を、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	日本農業、本県農業の実態を把握しつつ、現場で即戦力となる人材の育成（販売実習の強化、米・麦・大豆生産に係る知識・技能の向上、法人等が望む人材の育成）
2	模擬会社を通じ、生産から加工、直売までの経営活動を通じた学習・教育により、実践的な経営感覚の醸成に努めている。
3	これまでと同様、本県の農業・農村における担い手育成を進めるとともに、非農家出身者など自立就農が困難な学生には農業法人への就職就農や農業関連企業など農業に関係する職業への就職を勧め、農業に関する高度な知識と専門的技術を備えた人材を育成することにより本県農業・農村の発展に寄与する。
4	次代の農林業を支える企業的な発展を志向する新規就農者、農業法人等における農場管理責任者、農場長など中核を担う人材を育成することが重要な課題と考える。従って、安定生産を支える農業生産・経営に関する高度な知識と技術に加え、企業的な経営感覚と経営管理能力、新たな価値や市場を開拓する能力、国際化、情報化、環境保全等の諸問題に柔軟に対応できる能力の習得を目指す取り組みが必要である。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・プロ農業経営者を育成するための経営マネジメントやマーケティング能力を重視したカリキュラムの検討 ・6次産業化に取り組める人材の育成
6	2年間の学生教育は、平成24年度までは全寮制で行われたが、平成25年度からは希望者のみが入寮する希望入寮制に移行し、農業を目指す者に幅広く農業を学ぶ機会を与えることとした。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力の向上 ・資格取得の拡大
8	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業に関わる者として自覚と意欲を高め、農業に取り組む自信と誇りを持たせる。 2. 科学的で優れた農業経営・技術を取り入れ、新しい農業を創造できる能力を養う。 3. 幅広い視野を持ち、連帯と協調性、行動のできる実践力を養成する。 4. たくましい体力と精神を養い、豊かな人間性を身につけさせる。
9	キャリア教育の充実を検討中
10	・いかなる農業情勢の変化にも対応できるよう、農業技術はもとより、経営、流通

	<p>面など、あらゆる角度から総合的な学習を行い、学生の有する潜在能力と可能性を引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や人との触れ合いによる実践を通して、強じんな肉体と不屈の精神、社会の中で生き生きと行動できる力を併せ持った人材を育成する。
11	<p>福祉事業所が農業生産部門を立ち上げたり、農業法人が障がい者を雇用する機会が多くなっており、卒業生が就農・就職の選択肢として考えられる分野となっており、障がい者を理解できる農業人材の育成に取り組んでいくこととしている。</p>
12	<p>農業の楽しさを学んでもらい、就職しても農業の理解者となるように指導する。</p>
13	<p>○就農意欲の高い人材の育成 (本県の将来の農業を担う人材育成)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 就農意欲の高い学生の確保 (2) 就農者との交流会等、就農促進講座の充実 (3) 農業法人への就職就農の促進
14	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的に入学者を確保するために学校のあり方を変更するのではなく、将来、本県の農業を担う人材を育成するという長期視点で学校のあり方を検討する。 ・学生が将来就農した時に自ら考え、実践していくことができる、最低限の能力、資格を習得させる。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導等を行うための演習等をカリキュラム上に設け、より充実した農業人材育成（農業以外も含む）に取り組む（H25年度より）。
16	<p>人口減少社会や経済のグローバル化、情報社会の進展の中、本県農業を維持・発展させていくためには、農業の6次産業化や販売対策の強化などによる農業者の所得確保と、地域経営の中核となる経営体の育成が急務となっている。</p> <p>このため、これまでの生産面の技術力修得に加え、経営能力とビジネス感覚を兼ね備えた次世代の農業者の育成に向け、カリキュラムの見直し等により教育の改善を目指している。</p>
17	<p>今後の人材育成の方向は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本県農業を支える人材の育成 農業技術や経営管理能力を備え、緑豊かな地域農業の再生に貢献し、本県農業・農村の持続的な発展を支える実践的な農業経営者 2 本県農業を変える人材の育成 環境にやさしい先進的な技術を駆使し、次世代の農業を切り開く革新的な農業経営者 3 本県農業の価値を高める人材の育成 地域資源を活かした6次産業化の推進役となり、本県農業の価値を高める創造性豊かな農業経営者 4 本県農業を全国に発信する人材の育成

	豊かなコミュニケーション能力と強力な人的ネットワークを活かし、新たな情報を発信できる実践的農業経営者
18	<ul style="list-style-type: none"> ・食と農の担い手づくり ・地域の農業を守るリーダーの育成 ・国際交流、世界的視野に立った人材の育成 ・農業及び食料に関する理解を深める。

(※無回答1校)

図表 16 これからの農業人材を育成する上での方針、今後の展開予定等

農業の実践力や経営能力を向上させるという回答が多い中、6次産業化を担う人材を育成するという回答もある。また、全寮制から希望入寮制に移行するという意見もあり、時代の流れに柔軟に対応していこうという姿勢がうかがえる。

1.2.2.12 農業人材育成やわが国の農業に関する自由意見

農業人材育成や、わが国の農業に関する自由意見を、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・非農家出身の学生が増加しているが、独立就農は少ない。就農のための資金調達や土地確保等フォローする体制が必要 ・農大の施設は 30 年を経過したところが多く、老朽化している。道府県は財政状況が厳しいため、国の支援が必要。
2	<p>各道府県の農業大学校は、今後も地域農業を担う人材育成を担う機関として重要な役割を担うものである。また、国も青年に対する就農意欲を喚起させ、新規就農者の増加を図ろうとしている。魅力ある農業大学校としてカリキュラムや施設・設備の充実を各道府県が努力することも必要であるが、地方財政が厳しい中において充実かつ継続的な国の支援が必要と考える。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自給自足や家庭菜園レベルの入学希望者は別機関が対応する。 ・家族経営、血縁による農業の継承だけでは、農業や農村が維持できない時代となった。今後は人材養成を含めて農業生産（農作物、畜産物や農産加工品）を担う農業法人の育成が急務である。こうした農業法人へ優れた人材を送り出すことが農業大学校の使命のひとつとなっている。
4	<p>校内全体の施設機能が老朽化し、時代に即した技術指導が困難である。厳しい県財政の中で、県費のみで現施設機械の更新や新施設等の導入は不可能であり、国の支援が不可欠である。</p>

(※「特になし」が 2 校、無回答 13 校)

図表 17 農業人材育成やわが国の農業に関する自由意見

農業大学校の施設の老朽化を指摘する意見が 3 校からあった。対応には国の支援が必要であるということまで述べられている。また、今後は、農業法人へ優れた人材を送り出すことが農業大学校の使命の一つであるという指摘もある。独立就農だけでなく、農業法人への就職（就職就農）も視野に入れた人材育成の重要性もわかる。

1.3 宮崎県立農業大学校へのヒアリング

1.2 で述べた、農業大学校対象の郵送アンケート調査での調査項目について、より詳しく調査をするために、宮崎県立農業大学校に訪問してヒアリングを行った。

1.3.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 1 月 22 日

時間：15:30～16:30

調査対象：宮崎県立農業大学校

担当者：副校長 濱川 清 様

調査に先立ち、ヒアリングシートを送付していたが、ヒアリングの当日、その内容に関係した資料をご用意いただき、それに関してご説明を受けた。

1.3.2 調査結果

以下、調査結果を列記する。

●教育方針

教育方針は、以下のようなものである。

- ・校訓：「自律」「創造」「協調」
- ・経営能力を身につけ、国際化に対応しうる自立心の強い社会人の育成
- ・21 世紀の農業を拓く、創造力豊かな社会人の育成
- ・寮生活を通じ、協調性に富む社会人の育成（全寮制）

但し、寮生活は今の若者とはフィットしない。一部寮制にする等、見直すことも検討中である。

●学科・コースの構成

高卒以上でこれから農業関係の仕事に就こうとする人を対象とした2年間の農学部と、IターンやUターンにより県内で農業に就こうとする人を対象とした研修センターがある。

農学部は専修学校化されており、卒業と同時に専門士の称号を取得できる。アグリビジネス学科、園芸経営学科、畜産経営学科の3つの学科があり、現在は全寮制となっている。

研修センターにはみやざき農業実践塾があり、IターンやUターンの社会人を対象として6ヶ月から1年間の研修を行い、卒業直後に県内で就農する人材の育成を行っている。

学部等	学科等	年限	特徴
農学部	3学科 アグリビジネス学科、園芸経営学科、畜産経営学科	2年間	2年間の全寮制 専修学校 高卒以上
研修センター	みやざき農業実践塾	6か月～1年間	Iターン・Uターン者で県内農業従事希望者（即就農）

図表 18 宮崎県立農業大学校の学科・コースの構成

●育成の対象

農学部の95%程度が新卒（高卒）。2～3名、一般（既卒）の人もある。実家が農家、非農家のどちらもある。一般の人は、研修センターのみやざき農業実践塾に行く人が多い。

●卒業後の進路としてターゲットとする業界

就農、農業関連企業、農業機械企業、農業法人、JA、等をターゲットとする。

●学生指導上重視している知識やスキル

実習主体で実践力を鍛えている。時間数は座学と実習で半々としている。

●上記の知識やスキルを身につけさせる上での課題と解決策、力を入れている取組等

学科・コースにより、1人1ハウス、1人1圃場、1人牛10頭を担当させている。大学

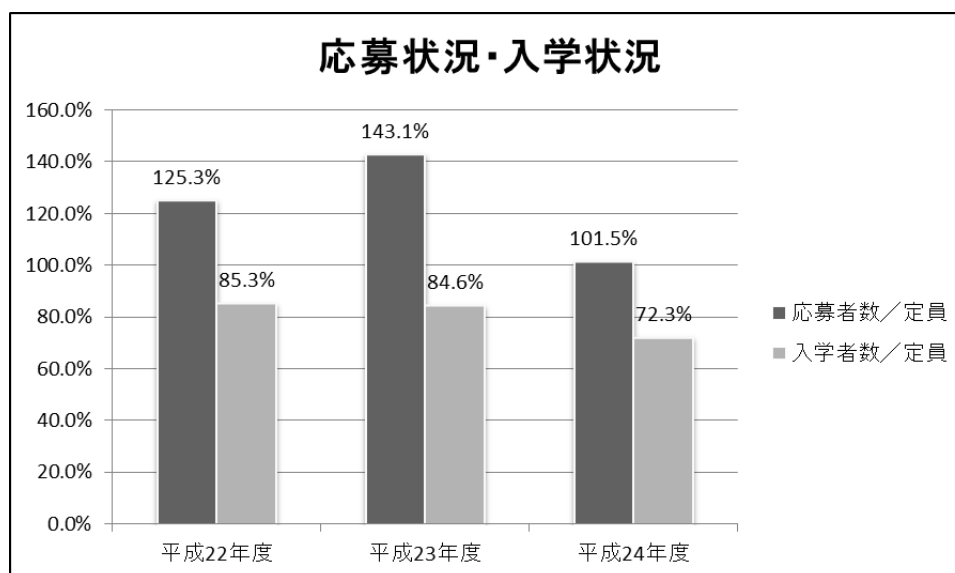
校内の豊富な施設が利用できる。また、1 コースに教員を1 人つけ、教員1 人で学生10 数名を担当する少人数の指導を行っている。

●近年の学生応募状況・入学状況

平成 20 年度から平成 25 年度の、定員、受験者数、入学者数は、以下のようなものである。但し、平成 25 年度は、ヒアリング時は入学者数が確定していない。また、得られたデータを基に、平成 22 年度から平成 24 年度の、応募者数の定員に対する割合と、入学者数の定員に対する割合を算出してグラフ化した。

※農学部のみ

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25
定員	65	65	75	65	65	65
受験者数	83	64	94	93	66	61
入学者数	63	53	64	55	47	—
() 女子	(9)	(3)	(9)	(9)	(11)	—



図表 19 近年の応募状況・入学状況

平成 22 年度の定員が他の年度に比べて 10 名多いのは、高校生の就職状況を勘案して 10 名の追加募集を行ったことによる。

1.2.7 で述べた農業大対象の郵送アンケートと同様、応募状況、入学状況はともに減

少傾向にある。応募者数／定員は、平成 23 年度を除くと、ほぼ郵送アンケートの結果と同様である。入学者数／定員は、郵送アンケートの結果よりもさらに低い傾向にある。

入学者数が定員を下回っているのは、不合格者がいること、合格者の中に入学辞退者がいることが理由である。辞退者は宮崎大学へ進学する人が多い。学校訪問も行っているが、少子化の影響と四大志向とにより、学生がなかなか集まらないという現状である。

また、農学部入学生の出身校は、以下のようなものである。

区分	H20	H21	H22	H23	H24
農業系	46	34	49	43	36
普通系	14	12	10	9	8
その他	3	7	5	3	3
計	63	53	64	55	47
農業系の割合					
本県	73%	64%	77%	78%	76%
全国	55%	53%	51%	55%	

図表 20 入学生の出身校（農学部）

全国と比較して、農業系の出身者の割合が多い。

出身者が多いのは、高鍋農業高校、高原農業高校、日南農林高校（現・日南振徳高校）、宮崎農業高校の 4 つである。宮崎農業高校は宮崎大学への進学が多い。

また、入学生の実家の職業は、以下のようになっている。

区分	H20	H21	H22	H23	H24
農業専業	37	28	34	23	21
農業兼業	10	12	12	9	12
非農業	16	13	18	23	14
計	63	53	64	55	47
非農業の割合					
本県	25%	25%	28%	42%	29%
全国	39%	43%	50%	48%	

図表 21 入学生の実家の職業（農学部）

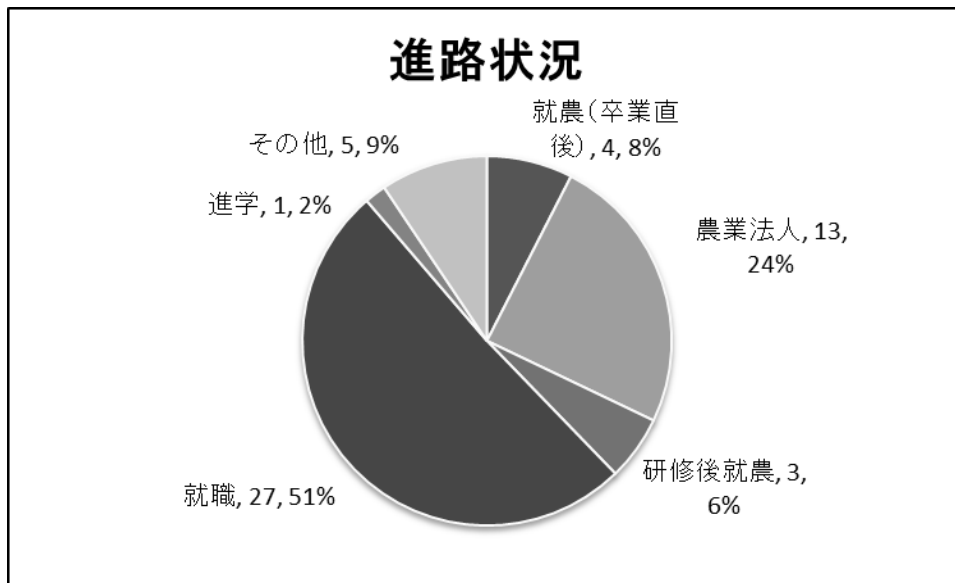
農業と非農業がおおよそ7:3の割合になっている。全国平均では、農業と非農業とがほぼ半々になっているので、本県ではそれよりも農業が多いことがわかる。

●学生の進路状況

学生の進路状況は、以下の表のような状況である。

年度	卒業者数	就農者数			継続研修者数	就職者数	進学者数	その他	就農者数 就農率
		うち自営就農	うち法人就農						
19	62	27 100%	16 59%	11 41%	7	20	7	0	34 55%
20	58	19 100%	12 63%	7 37%	9	26	1	3	28 48%
21	60	27 100%	16 60%	11 40%	7	10	10	6	34 57%
22	50	16 100%	9 56%	7 44%	7	24	2	1	25 50%
23	61	20 100%	10 50%	10 50%	6	30	1	4	26 43%
24	53	17 100%	4 24%	13 76%	3	27	1	5	20 38%

図表 22 学生の進路状況



図表 23 学生の進路状況（平成 24 年度）

全体的な傾向として、法人就農にシフトしつつあることがわかる。1.2.8と同様、平成 24 年度のデータを基に広義の就農率（「就農（卒業直後）」「農業法人」「研修後就農」の合計）及び、狭義の就農率（「就農（卒業直後）」）を算出した。広義の就農率は 38%で、1.2.8 で述べた郵送アンケートの結果（44.1%）や、1.1.3 で述べた農業大学校対象の情報収集の結果（47%）よりもやや低い結果となった。また、狭義の就農率でも、1.2.8 で述べた郵送アンケートの結果（18.7%）や、1.1.3 で述べた農業大学校対象の情報収集の結果（14%）よりも低い結果である。

就農率は若干減りつつある。背景として、親がまだ若いので、いったん外に出て将来帰る、という学生が多いという状況がある。

進学者の中には、大原簿記公務員専門学校（学校法人宮崎総合学院）への進学も含まれる。一方、宮崎大学は編入試験をやらない。

●学生の進路への意識

入学直後は、進路への意識はあまりない。将来のことは、1 年後半～2 年になってから考えている。早い時期に目標設定をして欲しい。また、「仕方なく来た」「親が言うから来た」という学生もいる。

●進路指導・就職支援における課題と解決策

1年生の意識が弱い。一方、求人は多い。農業法人からも多く、今年は去年よりも良い。引込み思案の学生が多く、もっと外に出て行って欲しいと思う。

青年就農給付金制度⁷⁾は、毎年2~3人が利用している。1年生は8人が利用している。就農したいと考えている学生がいる一方で、親がもらえと言っているから利用しようという学生もいる。

●他の教育機関、農業法人等との連携

宮崎大学や南九州大学との連携がある。

高鍋農業高校とは連携協定があり、高鍋農業高校から農業大学校への5年間一貫コースを検討している。5年後には作りたい。また、体育や保育の教員がいないので、高鍋農業高校から教員を派遣してもらっている。逆に、高鍋農業高校へも教員を派遣している。

農業高校の教頭と連携会議をやっているが、再編の影響で、教頭が農業以外の人になってしまうこともあり、困っている。

平成24年度から、県内の農業法人とのマッチングを行っている。今年度は20社が参加し、就農PRと学生との個別面談を行った。その結果、法人への就職が増えた。畜産の企業で、5人採用したところもある。他の学校の学生も参加するところだと、農業大学校の学生は引いてしまう。

●業界団体からの評価

農業機械の免許を持っていることが即戦力と見られている。農業機械のリースをしている株式会社キング⁸⁾という会社からも、5人くらい欲しいと言われている。また、先輩の評価が高い。

●今後の展開

学科・コースの再編を検討する、という意見はある。乳肉複合、果樹茶、花きは農家が

⁷⁾青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間（2年以内）及び経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保する給付金を給付する制度。参考：

http://www.maff.go.jp/j/new_farmer/n_syunou/roudou.html

⁸⁾ <http://ag-king.co.jp/>

減っている分野であり、実情に合わせる必要はある。

豚は宮崎にはなく、鹿児島農大に行っている。他県で学ぶ学生も多い。このように、九州全体で連携し、各県で扱う分野を分担した方が技術は上がるのではないかと。

農業高校の教員が学生指導に来ている。農業大学校の教員は農業技術を教えることはできるが、学生指導は難しい。農学部長、アグリビジネス学科、園芸経営学科に1人ずついる。畜産経営学科にも1人欲しい。

1.3.3 調査のまとめ

宮崎県立農業大学校は、広大な敷地に豊富な施設や設備があり、農業技術を指導する上では十分すぎるほどの環境が備わっている。にもかかわらず、学生募集では高校訪問を継続的に行っているにもかかわらず、なかなか応募者が集まらず、入学試験の不合格者もいれば、合格者の中に入学辞退者もいて、定員まで学生を集めることに苦慮しているという現状である。

その一方で、業界からの評価は高い。また、農業法人とのマッチングでも成功しており、進路指導を行う上で農業法人との連携が効果的であることがわかる。

しかし、学生が進路を考え出すのが遅いという現状は、1.2.9で述べた農業大学校対象の郵送アンケートの結果と一致しており、取り組むべき重要な課題の一つと認識しておく必要がある。

第2章 宮崎県、宮崎市関連機関の取組に関する調査

宮崎県や宮崎市、それらの関連機関が、本県の農業振興のためにどのような取組を行っているか、ヒアリングにより調査を行った。調査対象は、以下の3つの機関である。

- ①宮崎県 農政水産部 地域農業推進課⁹
- ②公益社団法人 宮崎県農業振興公社¹⁰
- ③みや PEC 推進機構¹¹

以下、調査結果を列記する。

2.1 宮崎県 農政水産部 地域農業推進課へのヒアリング

2.1.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 1 月 22 日

時間：9:30～10:30

調査対象：宮崎県地域農業推進課

担当者：課長補佐 山本 泰嗣 様

調査に先立ち、ヒアリングシートを送付していたが、ヒアリングの当日、その内容に関係した資料をご用意いただき、それに関してご説明を受けた。

2.1.2 調査結果

以下、調査結果を列記する。

●宮崎県での6次産業化への取り組み状況（農業法人数の推移等）

1. 推進体制

- 農商工連携

⁹ <http://www.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/nosei/chiikinogyosuishin.html>

¹⁰ <http://www.mnk.or.jp/>

¹¹ <http://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/www/contents/1346736786527/index.html>

庁内に「宮崎県農商工連携推進会議」を、庁外に「宮崎県農商工連携推進ネットワーク会議」を設置し、庁内各部や関係機関団体との連携を密にしながら、全県的な視点から農商工連携を推進している。

○6次産業化

県農業振興公社に6次産業化（農商工連携を含む）のワンストップ窓口を設け、県産業支援財団等と連携して、農水産業者等に対するきめ細かな支援を行うとともに、地域農林振興局単位にシーズ・ニーズの掘り起こし等を行う体制を整備した。

2. 推進状況

○総合化事業計画の認定状況（H24.11.1現在） ※農林水産大臣が認定

平成23年度 26件

平成24年度 12件（第2回認定まで）

累計 38件（九州：1位、全国：6位） 全国1,078件

○サポートセンター、プランナー

宮崎県農業振興公社に新農業支援課を新設（H21年度）し、6次産業化及び農商工連携のワンストップ窓口を整備した。

・新農業支援課 4名体制（県からの派遣職員2名、コーディネーター2名）

①国の6次産業化サポートセンター業務

②農商工連携推進の窓口業務（産業支援財団との連携）

③県の6次産業化推進業務（県6次産業化推進大会開催、農業経営多角化チャレンジ塾開講、マッチング機会創出、等）

・プランナーの登録（国が認定し、県内で活動する者を県が登録する）

平成23年度プランナー 5名 → 平成24年度 18名

※中小企業診断士（7名）、農業改良普及員OB（5名）、その他（6名）

○意識啓発対策

農林漁業者や関係者の意識醸成を図るため、「みやざき6次産業化推進大会」を開催するとともに、「6次産業化の手引き」（1,500部）を作成・配布した。

○人材育成対策

○宮崎農林水産業経営多角化チャレンジ塾を開催した。

・開催期間 平成24年8月30日（木）～11月9日（金）

・受講者 グローバル農業法人育成コース 24名（農業法人の若手、中堅、社長も）

6次産業化推進プロデューサー育成コース 23名

(JA、関係企業、物流、農業に参入したいという人)

○戦略的なマッチング機会の創出

- ・「全国キャラバン！食の発掘商談会 in 宮崎」の開催

(農業振興公社・JTB 西日本と共催)

日 程：平成 25 年 1 月 17 日～18 日

会 場：シーガイアコンベンションセンター

出展者：119 社（うち宮崎県から 54 社）

内 容：6次産業化法に基づく認定事業者等と全国の百貨店、スーパー、卸、小売、ホテル等のバイヤーとの商談会

- ・「みやざきの食品産業マッチング会」

平成 25 年 2 月 19 日 ニューウェルシティ宮崎にて開催した。

- ・「みやざき農商工連携・6次産業化食品産業求評会」

平成 25 年 2 月 6 日 宮崎観光ホテルにて開催した。

なお、6次産業化・農商工連携の相談件数は、以下のようになっている。

6次産業化・農商工連携の相談件数	窓口 人員	平成 24 年度（～11 月）		平成 23 年度実績	
		支援対象者数	相談件数	支援対象者数	相談件数
ワンストップ窓口（公社）	4	72 者（社）	109 件	94 者（社）	182 件
プランナー	18	77 者（社）	147 件	128 者（社）	313 件

※ワンストップ窓口（公社）への相談対象者・件数は 11/30 現在

※プランナーへの相談対象者・件数は 10/31 現在

図表 24 6次産業化・農商工連携の相談件数

●宮崎県内の農業法人の数について

平成 24 年 1 月 1 日現在、県内には 651 の農業法人がある。

1. 類型別農業法人数

県内の類型別農業法人数は、以下の表のようになっている。

作目名	畜産	野菜	花き	工芸作物	果樹	芝・花木	その他	合計
農業法人数	314	157	47	26	24	10	73	651

図表 25 類型別農業法人数

近年は、野菜の農業法人数が伸びている。

2. 他産業からの農業分野進出の状況

他産業からの農業分野進出の状況を、業種別、生産品目別に集計すると、以下のようになる。

(1) 業種別の参入状況

業種	参入法人数		構成比	
		農業生産法人		農業生産法人
建設業	33	23	36.7	39.7
食品製造・加工・販売等	13	8	14.4	13.8
農産物卸等	12	10	13.3	17.2
酒造業	6	5	6.7	8.6
農耕用品小売業	4	1	4.4	1.7
産業廃棄物処理業	3	2	3.3	3.4
その他	19	9	21.2	15.6
合計	90	58	100.0	100.0

図表 26 業種別の参入状況

本県は建設業からの参入が多いという特徴がある。他県は、食品製造・加工・販売等からの参入が多い。

民主党政権になって建設業が苦しくなったことが背景にある。

(2) 生産品目別の参入状況

生産品目	参入法人数		構成比	
		農業生産法人		農業生産法人
野菜（施設・露地）	41	36	45.6	62.1
畜産	28	5	31.1	8.6
果樹	10	8	11.1	13.8
花き	1	1	1.1	1.7
特用作物	3	3	3.3	5.2
農作業受託	3	2	3.3	3.4
その他	4	3	4.5	5.2
合計	90	58	100.0	100.0

図表 27 生産品目別の参入状況

野菜の比率が高くなっている。畜産の比率も高いが、初期投資が大きいというネックがある。

●宮崎県での6次産業化、ブランド化における支援策とその適用事例

①6次産業化支援策

○宮崎発・大地を活かす農商工連携ビジネスモデル創出事業 500 百万円

※平成 21 年度に宮崎県農業振興公社に基金造成

本県農業を元気にする多様な経営資源を有する企業等の農業参入を支援するとともに、農業法人や JA 等との生産、加工、流通・販売に係る連携強化や、農業関連技術の協働実証の促進によって、参入側・受入側双方が利益を享受できる宮崎発農商工連携ビジネスモデルを創出し、本県農業及び地域経済の活性化を図る。

①施設等投資・新規雇用創出支援事業

企業等が地域農業との連携のもとに行う農業生産、農産物の加工・流通・販売等に
必要な施設・機械の整備等の投資経費及び新規雇用に対する支援

- ・補助対象投資額の 10%以内（知事特認 20%以内）
- ・新規常用雇用者 1 人当たり 30 万円

②土地（農地）調整党活動支援事業

企業の農業参入等を受け入れるため、土地（農地）調整・集積等の地元活動に対する集積面積に応じた支援（11 社の実績、300 人の雇用創出）

○目指せ 6 次産業化！みやざき未来農業創出事業（地域農業推進課） 35 百万円

担い手の減少や農業所得の減少など本県農業を取り巻く厳しい状況を打破し、新たな成長産業化を図るため、農業法人を本県農業の重要な担い手として育成確保するとともに、6次産業化等を通じて、需要を起点とした生産から加工販売に至る企業間の連携強化や、農業における新たな価値の創出に向けた農業者のチャレンジを支援する。

(1) 法人経営化フルサポート事業

- ①セミナー等による農業経営の法人化や他産業からの農業参入支援
- ②経営安定化のためのサポート活動

(2) グローバル農業法人育成支援事業

- ①農商工連携や6次産業化のワンストップ窓口の設置
- ②農業経営多角化に必要なスキルやノウハウを習得するチャレンジ塾の創設
- ③本県農業の強みを活かすための企業との戦略的なマッチング機会の確保
- ④農業分野におけるIT技術応用のための研究

(3) オール宮崎連携体構築促進事業

- ①本県農産物や加工品に対する企業等の要望に対して、農業法人やJA系統が連携して対応できる体制の構築
- ②新規農業法人の経営安定のために先輩農業法人が指導・助言を行う仕組みの構築

(4) 農業経営多角化整備支援事業

農業経営の多角化に必要な機械・施設等の整備を支援

○みやざき農商工連携ビジネスチャンス発掘事業 1.65 百万円

(H25 年度で終了)

1. 事業の目的

地域の農業者や商工業者の持つアイデアを幅広く掘り起こし、事業者間のマッチングを効率的に行うことで、地域発の農商工連携の事業化を促進するとともに、連携の効果を面的に波及させることによって、本県農業及び地域経済の活性化を図る。

2. 事業の概要

①地域発・農商工連携ビジネスチャンス発掘事業

ア 地域に眠る事業化アイデアの発掘

地域の農業者、商工業者の持つ貴重なシーズ、ニーズ、事業化のためのアイデアを幅広く掘り起こして登録し、一元的に管理。

イ 事業者間のマッチング

登録された事業化アイデアを、地元事業者を含めたワークショップ等で公開し、地域に根ざしたシーズ・ニーズのマッチングを促進。

②シーズ・ニーズ交流ネットワーク化事業

連携の成果や事業アイデアを、他の地域や他産業の企業等に効果的に情報提供し、連鎖的な取組を促進。

②ブランド化支援策

○儲かる農業を支える「みやざきブランド力」強化対策事業 12百万円

みやざきブランドの視野の拡大や、「みやざきならでは」の新戦略の展開、並びに「安全・安心の確保」に向けた取組の強化等に努めることにより、本県農畜産物のブランド力の向上を図り、儲かる農業の実現を目指す。

(1) オールみやざき商品ブランド拡大推進事業

新たな商品や産地に対応した「商品ブランド認証制度」の再構築

新たな認証制度に対応する産地取組の支援

(2) みやざきブランドオリジナル戦略構築事業

①栄養・機能性成分分析技術確立事業

新たな栄養・機能性成分に対応した分析体制の構築及びデータ蓄積

優位な栄養・機能性成分の含有量向上に向けた栽培技術の開発

②「健康」や「環境」に着目した販売戦略展開事業

栄養・機能性成分や環境貢献を打ち出した表示販売

(3) 安全・安心トップランナー産地育成事業

① 残留農薬分析体制維持強化事業

新規登録農薬に対応した分析技術の確立

②ブランド産地 GAP 導入推進事業

安全・安心をより一層促進するための GAP の導入推進

(4) ブランド推進体制再構築事業

○「みやざきブランド」連携型プロモーション強化事業 19百万円

「みやざきブランド」の認知度向上や定番・定着化による農家所得の向上を図るため、様々な業態等との連携・協働による戦略的なプロモーション活動を展開することにより、本県農畜産物の情報発信力の強化や安定的な取引づくりを促進する。

(1) 「みやざきブランド」連携型情報発信対策事業

①連携型情報発信対策事業

様々な業態と連携したキャンペーン等の実施による情報発信力の強化

②市場・量販店等対策事業

パートナーシップ強化のためのトップセールスやトップ会談の実施

関係者等による産地販売連絡会議の開催

③商品ブランド・ブランド力強化事業

携帯サイトの充実・強化による商品ブランドの情報発信力の強化

④みやざきブランド認知度等調査事業

みやざきブランドの認知度把握のためのインターネット調査の実施

(2) 情熱みやざきサポーター活用促進事業

みやざきにゆかりのある著名人等を情熱みやざきサポーターとして選定し、旬の農畜産物を提供すること等を通じて「みやざきブランド」のPRを実施

●宮崎県の政策の方向性

フードビジネス構想（H26年度～）

基本目標

総合的な食関連産業（フードビジネス）の「成長産業化」を目指して
～「食の王国 みやざきづくり」への挑戦～

数値目標

食品関連産業生産額 1兆2,586億円（2009年度）→1兆5,000億円程度（2020年度）

課題

1. 現在の食関連事業者が抱えている課題
①情報ネットワーク ②流通・販売ネットワーク
2. フードビジネスの基礎を固める上での課題
③生産・加工能力 ④新分野・地域展開
3. フードビジネスを持続的に発展させる上での課題
⑤人材育成・確保 ⑥研究開発・産業育成

展開の視点

「マーケット・イン」

企画開発、生産、加工・製造、流通・販売の各段階において実需者のニーズを起点に行動

「連携・価値連鎖」

農商工や6次化などの連携推進、1次・2次3次産業の川上から川下の流れの中で価値を上乘せ、付加価値を創出

「人材・基盤強化」

プランナーやコーディネーター等の人材の育成、技術面・経営面の支援体制の構築

具体的展開の方向性

「攻め」の姿勢によるフードビジネスの創出

- ①マーケット・インによる企画・開発、生産・加工の強化

- ②マーケットを意識した流通・販売戦略の展開
- ③海外市場の開拓

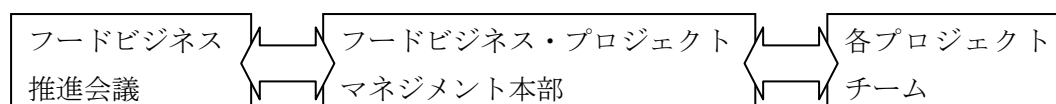
連携・価値連鎖によるフードビジネスの拡大

- ①企業参入や他産業との連携強化の加速化
- ②1次・2次・3次産業の価値連鎖の構築
- ③「食」や「食文化」を核とした地域産業の集積、観光交流の拡大等

フードビジネスの発展を支える基盤の充実

- ①産業人材育成・人的ネットワークの強化
- ②新商品や生産・加工の新技术の研究開発等を支える基盤強化
- ③「産・学・官・金」連携による総合的な推進体制の構築

推進体制



「産・学・官・金」の有する経営資源（人・物・金・知識・技術・情報）の集約化と連携を図るプラットフォーム（基盤）を構築

なお、ヒアリング実施後、フードビジネス構想に関して、平成 25 年 4 月に実施する県の組織改編で、総合政策部に「フードビジネス推進課」を新設するという発表があった。以下は関連する新聞記事である。

県組織改編

フードビジネス課新設

4月 東アジア戦略局も

県は4月の組織改編で総合政策部に「フードビジネス推進課」を新設する。フードビジネスは2013年度一般会計当初予算案の目玉でもあり、部局横断的に推進することが目的。さらに、商工観光労働部に「観光物産・東アジア戦略局」を新たに設け、東アジア戦略重視の姿勢を鮮明にする。

県は「みやぎフードビジネス振興構想」（8年間）を3月までに策定する計画。13年度予算案では農業参入支援やマーケティング強化など35事業に24億1900万円を計上している。「フードビジネス推進課」は各部局にまたがる施策の調整役を担うほか、1〜3次産業の連携強化による付加価値創出、産学官の協力推進などに取り組む。

「観光物産・東アジア戦略

局」は、商工観光労働部の観光交流推進局を廃止して新設。局内には新たに「オールみやぎ営業課」を置いて東アジア戦略などを進める。また、口蹄疫からの復興をさらなる成長につなげるため、農政水産部の畜産・口蹄疫復興対策局を廃止し「畜産新生推進局」をつくる。

図表 28 フードビジネス課新設（宮崎日日新聞 平成 25 年 2 月 19 日）

フードビジネス 構想など報告

県農政審議会

県農政審議会（椎葉晃充会長）は18日、県庁であった。委員16人が出席、フードビジネスを目玉とする県の2013年度一般会計当初予算案などについて意見を交わした。

会合では、県地域農業推進課の担当者が「みやざきフードビジネス振興構想」の中間素案の内容を報告。企業の農業参入や6次産業化、農商工連携の推進などを通し、「県内の食品関連産業生産額を09年度の1兆2586億円から、20年度に1兆5千億円まで引き上げたい」などと説明した。また、木質バイオマス

の普及や宮崎牛の販路拡大を目指す新規事業についても説明した。

出席者からは「本県は農業産出額が高いが、加工する食料品製造業出荷額になると全国で真ん中に落ちる。県庁内でも部署を超えて情報を共有し、『売る』ことにもっと力を入れてほしい」「宮崎牛を材料に観光を盛り上げることができないか」などと意見が出た。

図表 29 フードビジネス構想など報告（宮崎日日新聞 平成 25 年 2 月 19 日）

2.2 公益社団法人 宮崎県農業振興公社へのヒアリング

2.2.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 1 月 22 日

時間：13:30～14:30

調査対象：公益社団法人 宮崎県農業振興公社

担当者：常務理事 押川 延夫 様、新農業支援課 課長 河野 明彦 様

2.2.2 調査結果

以下、調査結果を列記する。

●農業振興公社の取組

6次産業化のワンストップ窓口として、相談を受け付けている。サポートセンターは国からの委託事業として運営している。国の認定したプランナーを公社でまとめている。プランナーを派遣し、総合化事業計画の認定申請に持って行く。6次産業化は昔からあるが、昨年、一昨年くらいから事業化されてきた。

認定は年3回（8月、12月、3月）ある。3月末に申請書を提出後、計画の手直し等で4月にプランナーの派遣が多かった。

●農業の法人化について

宮崎県内での総合化事業計画認定は39件となっている。

補助事業は個人では難しい。また、規模拡大では認定されない。新しい商品をつくる、新しい販路を開拓する、というものが認定される。

農業がビジネスに変わってきている。卸を通さない流通システム等、流通革命もある。しかし、資金力も必要である。企業から出資を受けた展開というのも出てきている。

●青年就農給付金制度について

給付金を生活費ではなく、資金として使って欲しい。農業大生でももらえるが、進路を制限されるのを嫌っているようで、あまり活用されていない。給付金を使うコースが

あっても良い。ビジネスとして捉えることが必要である。

●農業法人に勤める人材の育成について

会社員と変わらない。仕事に耐えられるかどうか問われる。会社で仕事を任せられるのと同じように、農業法人では圃場を任せられる。基礎知識は必要である。また、農業が好きな人、好きになった人が残る。さらに、人の目で管理するのと、数値化するのと、どちらも大切である。両方兼ね備える人材が必要である。

農作業の中には効率化されていない部分が多い。お金は目の前にあるのに、掴み切れない人が多い。畜産ならエサを自分で作る、等、工夫できることが重要である。

2.3 みや PEC 推進機構へのヒアリング

2.3.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 2 月 19 日

時間：13:30～14:00

調査対象：みや PEC 推進機構

担当者：専務理事 鈴木 隆 様

2.3.2 調査結果

以下、調査結果を列記する。

●フードビジネスコーディネータについて

宮崎市では、フードビジネスコーディネータの講座¹²を実施した。平成 24 年度は 10 月～12 月の間に 80 時間の講座を実施している。食べるだけでなく、商品開発や食べるところの環境、食育、メディア等の内容を扱った。修了すると修了証が発行される。この資格は、食産業、レストラン等でコーディネータに役立つものである。付加価値として、開発する教育プログラムの参考になるだろう。

受講者は女性がほとんどで、男性が少数であった。小料理店の女将や従業員等が受講している。社会人が自身のスキルアップとして受講しているようだった。

農作物を作ることでは、安全や衛生、農薬等の知識が必要となってくる。それに加えて、食べ物を摂取するところまで考えられる人材が必要である。食べる形をコーディネータでできる人材の育成につなげられる。食材はたくさんある。それをいかに美味しく作るか、配置するか、という視点が、食品関連産業にも重要である。

ユーザーが求めるものは何か。それがわかる人でないといけない。農商工連携や 6 次産業化を進める上で、農業生産者にも必要な視点である。

¹² 参考：<http://livecollege.jp/class/food/course01.html>

第3章 農業法人の現況調査

本調査では、以下の2つの取組を行った。

(1) 農業法人対象の郵送アンケート

宮崎県、熊本県、鹿児島県の農業法人 237 社に郵送アンケートを実施した。

(2) 農業法人対象のヒアリング

宮崎県内の農業法人 5 社を訪問し、ヒアリング形式で調査を行った。

以下、各調査の結果を列記する。

3.1 農業法人対象の郵送アンケート

農業法人の採用人数等の現況や、求める人材像、6次産業化の事例等を収集し、教育プログラム開発の基礎資料とするために、郵送での調査を行った。

3.1.1 調査概要

調査の対象は、宮崎県、熊本県、鹿児島県に所在する農業法人 237 社とした。それぞれ、宮崎県農業法人経営者協会、熊本県農業法人協会、鹿児島県農業法人協会の本会員である。県ごとの内訳は、以下の通りである。

県	発送先数
宮崎県	72 社
熊本県	78 社
鹿児島県	87 社
合計	237 社

図表 30 発送先数の県ごとの一覧

アンケートの質問内容は、以下の通りである。

- ・ 対象としている主要生産物
- ・ 近年の採用人数
- ・ 主な採用ルート

- ・ 入社時に必要な知識やスキル
- ・ 農業人材を育成する教育機関に対する人材育成上の要望
- ・ 社員の評価方法
- ・ 近年の農業や将来展望等に関する自由意見
- ・ 6次産業化に取り組んでいるか

<以下は6次産業化に取り組んでいる企業のみ>

- ・ 連携している企業・業種とその数
- ・ 概要（生産から販売までの流れ、等）
- ・ 6次産業化に取り組み始めたキッカケ
- ・ 6次産業化に取り組んだ結果得られた成果
- ・ 成果を上げることができたポイント
- ・ 6次産業化に取り組む上での失敗談
- ・ 6次産業化に関連した自由意見

アンケート調査票は、平成25年1月28日に発送し、2月15日を回答の締め切りとした。
その結果、10社から回答があった。回収率は4.2%であった。

なお、回答が得られた10校を県別に分類すると、宮崎県：4社、熊本県：3社、鹿児島県：3社、となった。

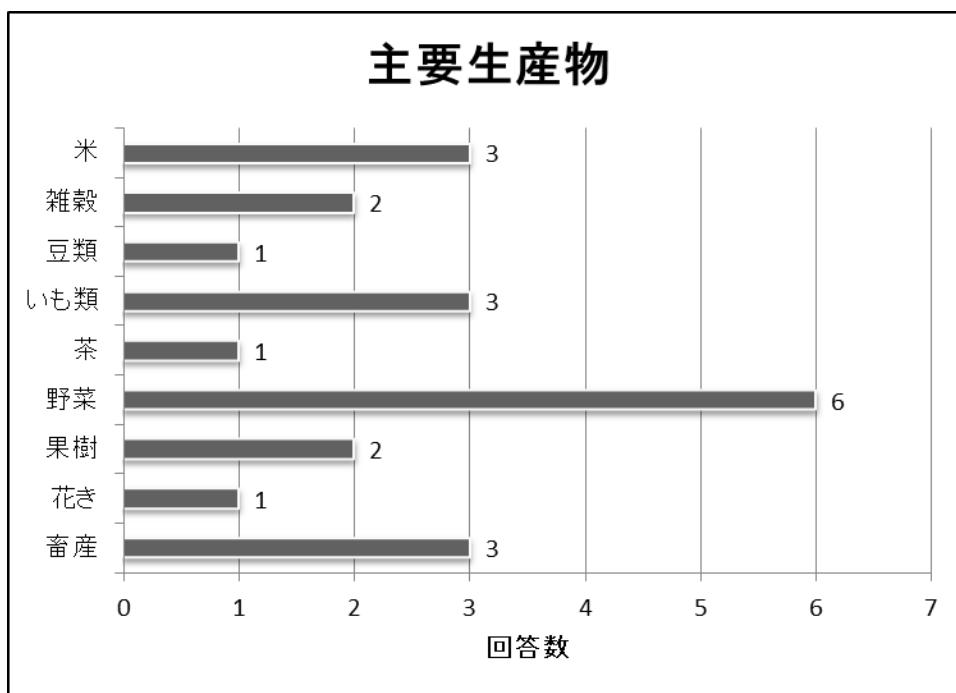
以下、アンケートの結果を列記する。

3.1.2 調査結果

3.1.2.1 主要生産物

主要生産物を自由記述形式で質問した。得られた回答を分類すると、以下のようになる。

品目	回答数
米	3
雑穀	2
豆類	1
いも類	3
茶	1
野菜	6
果樹	2
花き	1
畜産	3



図表 31 主要生産物

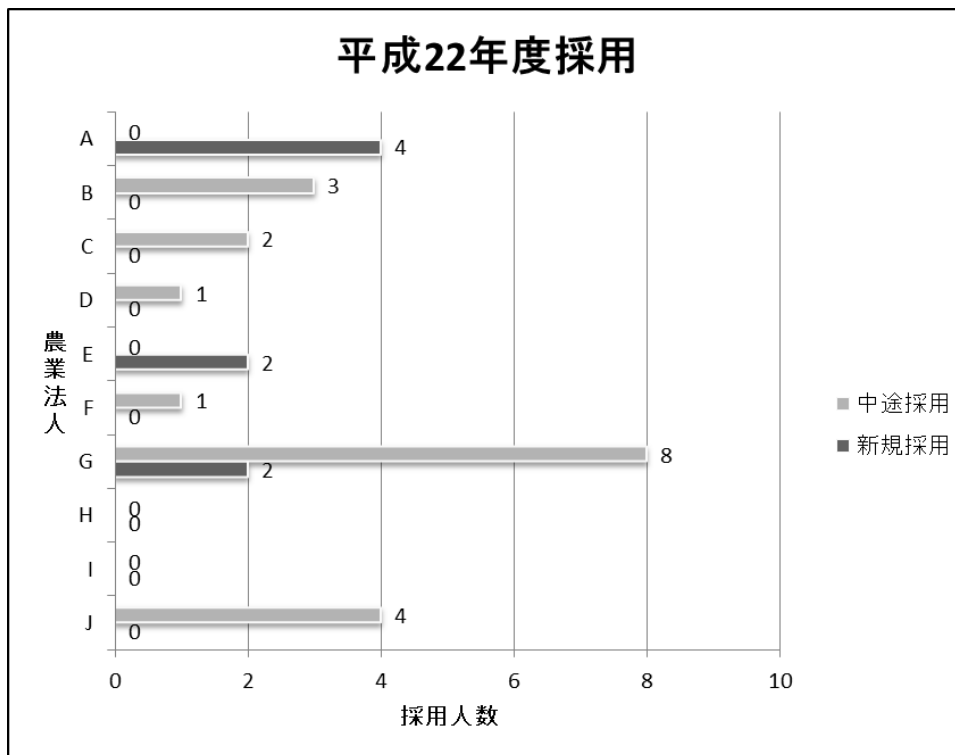
主要生産物では、野菜が最も多く、6社から回答があった。次いで、米、いも類、畜産が3社ずつであった。野菜では、大根、人参、ゴボウを挙げた回答が多い。

3.1.2.2 採用人数

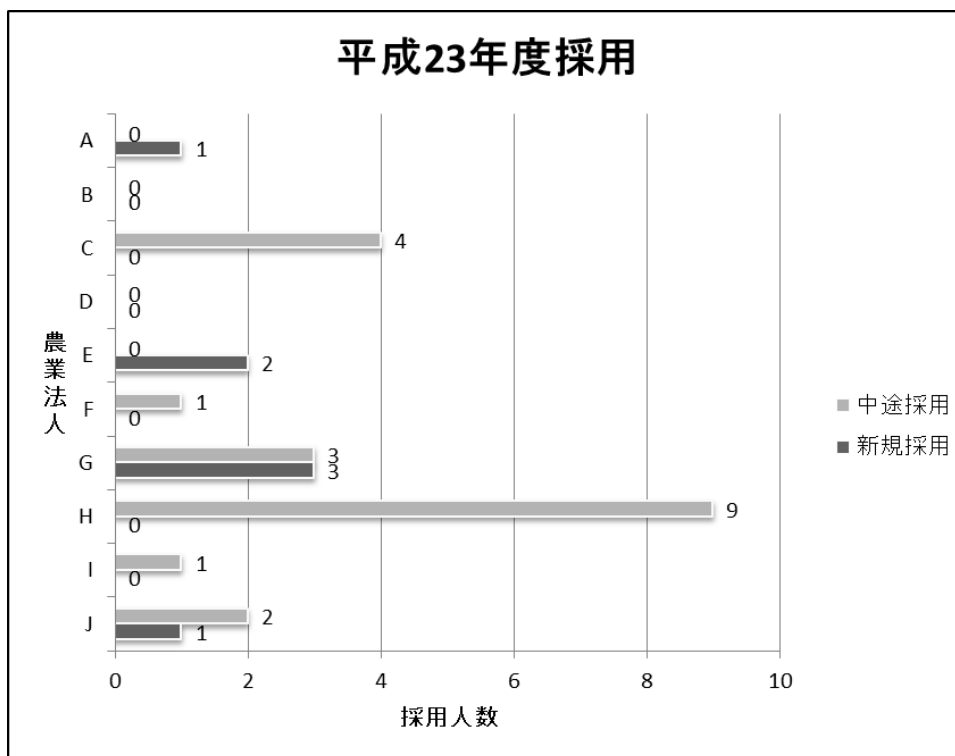
年間採用人数を、平成 22 年度から平成 25 年度まで、新卒・中途別で質問した。なお、平成 25 年度は採用計画である。以下、集計表、及びグラフである。

農業 法人	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
	新卒	中途	新卒	中途	新卒	中途	新卒	中途
A	4	0	1	0	2	2	2	2
B	0	3	0	0	0	2	0	0
C	0	2	0	4	1	3	2	2
D	0	1	0	0	0	5	0	0
E	2	0	2	0	3	0	2	0
F	0	1	0	1	0	2	0	1
G	2	8	3	3	6	5	5	2
H	0	0	0	9	0	38	2	3
I	0	0	0	1	0	2	1	1
J	0	4	1	2	0	6	1	3

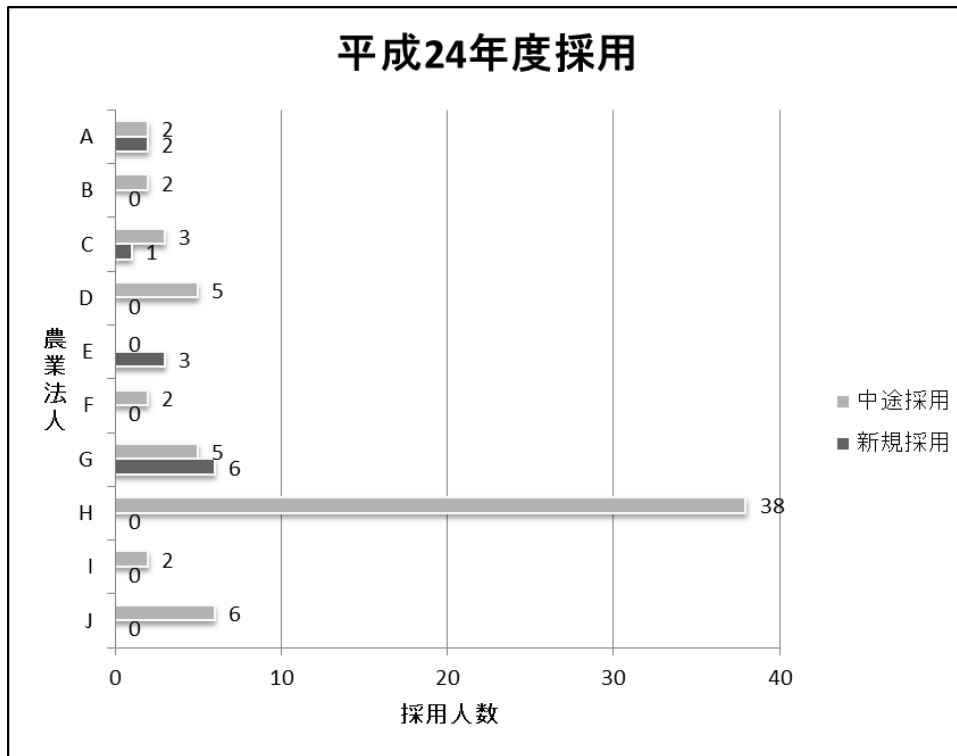
図表 32 年間採用人数



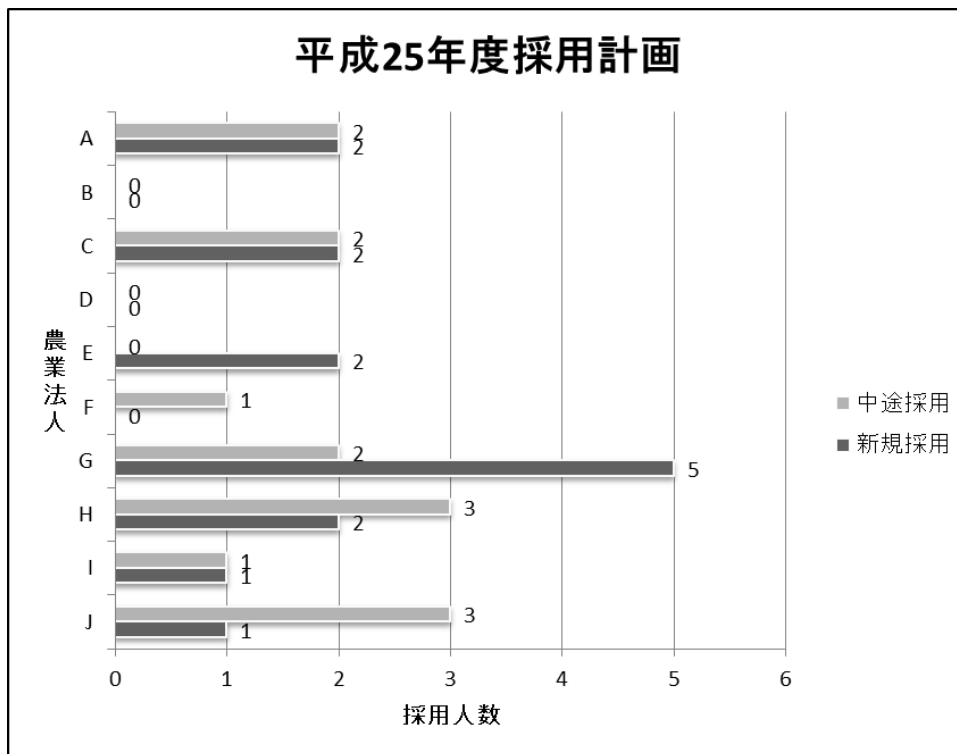
図表 33 平成 22 年度採用人数



図表 34 平成 23 年度採用人数



図表 35 平成 24 年度採用人数



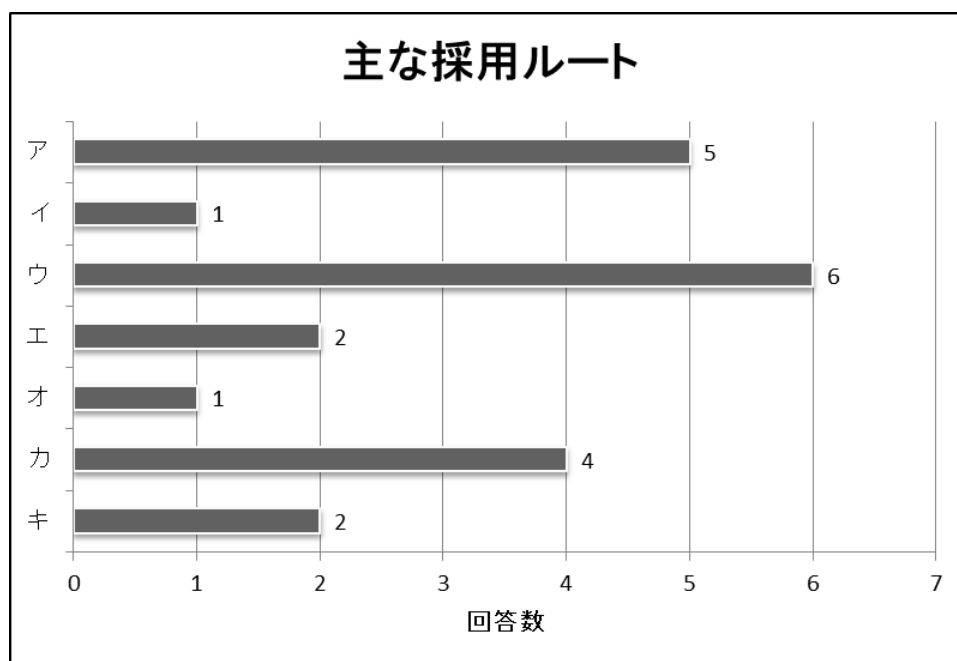
図表 36 平成 25 年度採用計画

年度ごとの採用人数は、どの農業法人も少ない。平成 25 年度の採用計画で、これら 10 社を合計すると、新卒採用は 15 人、中途採用は 14 人である。なお、平成 24 年度の農業法人 H の採用人数が 38 人と抜きん出ているのは、「営業譲り受け会社の従業員 22 名を再雇用」したためである。

3.1.2.3 主な採用ルート

主な採用ルートについて質問した。

採用ルート	回答数
ア ハローワーク	5
イ 就活サイト	1
ウ 大学、農業大学校、農業高校等の就職課・キャリアセンター等	6
エ 農協、農業関連団体	2
オ 求人誌	1
カ 独自で募集	4
キ その他	2



図表 37 主な採用ルート

主な採用ルートで最も多かったのは、「ウ 大学、農業大学校、農業高校等の就職課・キャリアセンター等」で、6 社から回答があった。次いで、「ア ハローワーク」の 5 社、「カ 独

自で募集」の 4 社と続く。また、「その他」は「親類、知人」「自衛隊」という回答であった。

3.1.2.4 入社時に必要な知識やスキル

入社時に必要な知識やスキルについて、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	農業に対しての思いと情熱、やる気があれば、農業に対する知識や技術は深くなくても OK です。
2	農業栽培に関する知識、経験
3	普通自動車免許（マニュアル）
4	牛さんが好きなこと
5	普通自動車免
6	専門の知識や技術は無い方が良い。 一般的な学力、体力があり、真面目に仕事に取り組む姿勢が必要。
7	特に知識は必要ないが、常に向上心があり、冷静に判断し、自分の思い込みで行動せず、何かあれば指示をあおぐ姿勢がある人を必要とします。

(※「特になし」が 3 社)

図表 38 入社時に必要な知識やスキル

「特になし」という回答が 3 社からあった他、農業に関する知識やスキルをそれほど求めてはいないという回答が多い。逆に、「専門の知識は無い方が良い」という意見もある。一方で、基礎学力や仕事に取り組む姿勢、農業に対する情熱、やる気を重視しているという回答がある。

3.1.2.5 農業人材を育成する教育機関に対する人材育成上の要望

農業人材を育成する教育機関に対して、人材育成上の要望があるかどうかを自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	一般常識（仲間・上司とのコミュニケーション） 会社の指示命令系統の理解
2	日本農業の歴史と今後の役割を正しく認識させる教育 農業は「特に限られた農地で食糧の供給と国土の保全という使命をもたされている。さらにこの使命は次世代に引きつがれていくものである」と考えるものです。
3	農業というものを職業として追求把握する真摯な姿勢、理解を得るような教育をしてもらいたい。
4	インターンシップにより、農業現場を体験する機会を増やす。
5	技術論が重要であるが、あくまで業務に取り組む姿勢が重要。
6	特になし。個人個人の問題によりけり。
7	個人就農と農業法人での就農を分けて教育してほしい。
8	特になし
9	農業機械の操作を教えてください

(無回答 1 社)

図表 39 農業人材を育成する教育機関に対する人材育成上の要望

一般常識や、組織で働く姿勢等を指摘する回答と、農業の現場、農業機械の操作という回答とに分かれた。

3.1.2.6 社員の評価方法

社員の評価方法について、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	業務・勤怠状況
2	創造性と実践力、さらに協調性など
3	取り組む姿勢、技術の実情により
4	生産技術の習得、勤務日数（時間）、勤務態度などを総合的に評価
5	仕事に対する姿勢
6	あいさつ、そうじ、牛さんが好き
7	面接と実習によって
8	日々の業務の進捗で判断 業務会議での判断
9	設問 4（常に向上心があり、冷静に判断し、自分の思い込みで行動せず、何かあれば指示をあおぐ姿勢）を重要視します
10	能力で決めている 仕事の評価はそれぞれの班長が決める

図表 40 社員の評価方法

社員の評価方法は、一般的な企業とほぼ同様のものが多い。仕事に取り組む姿勢・態度を挙げている回答もある。

3.1.2.7 近年の農業や将来展望等に関する自由意見

近年の農業や将来展望等に関して、自由意見を自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	「土づくりから、作物の栽培、取れた野菜等を料理して食する」までの体験を受け入れています。 今月その「体験の館」も落成しました。 農業体験から料理講習会等は好評です。
2	農業者が減少していく中、農業をやりたいという若者は大勢いるが、どうしたら良いのか分からないというのが現状。
3	既得権益組織が力を有している間は国内農業の成長性は見込めない。また、行政が国際的な流れを理解できておらず、見通しに明るさはない。

(無回答 7 社)

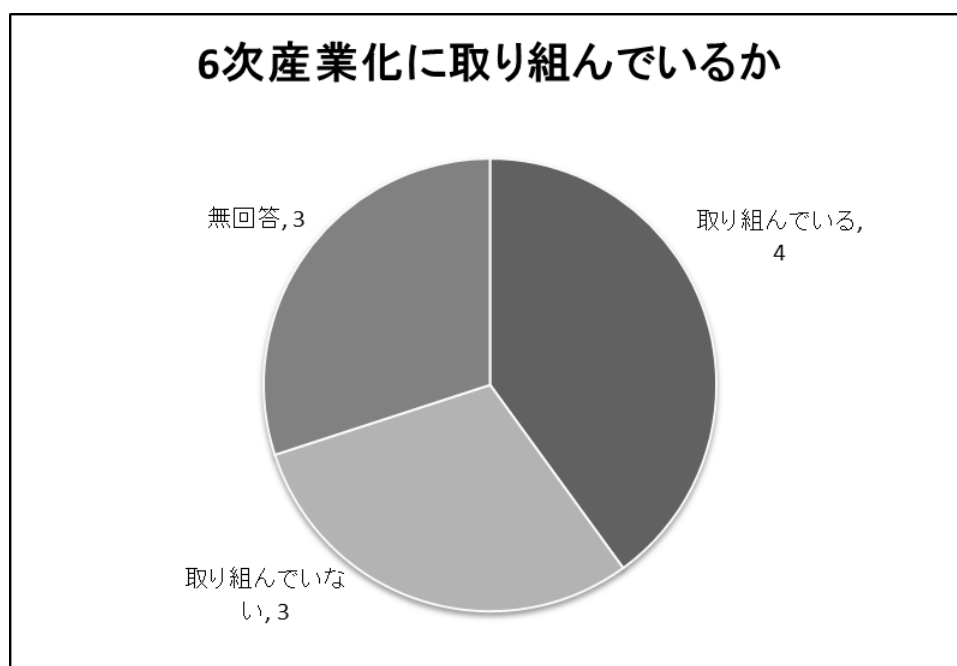
図表 41 近年の農業や将来展望等に関する自由意見

農業体験の受け入れを行っているという回答、及び、近年の農業の課題を指摘する回答であった。厳しい意見もある。

3.1.2.8 6次産業化に取り組んでいるか

6次産業化に取り組んでいるかどうかを質問した。

選択肢	回答数
取り組んでいる	4
取り組んでいない	3
無回答	3



図表 42 6次産業化に取り組んでいるか

6次産業化に取り組んでいる農業法人は4社であった。取り組んでいない農業法人は3社、無回答が3社だった。「取り組んでいない」という回答には、「取り組む方向で検討中」とコメントが付けられているものが1社あった。

3.1.2.9 6次産業化の事例について

以下、6次産業化に取り組んでいるという4社の事例について、それぞれ報告する。

<1 社目>

●取り組み開始時期

平成24年4月頃

●連携体制

農業生産法人：3社、農家：3軒、食品加工会社：1社、スーパー：4社

●概要

生産

- ・自社農地（5ha）での大根の自社栽培

加工

- ・自社工場で電気感想によるせんぎり大根、鮮度保持処理（ピーリング、浸漬、カット、ボイル、凍結）によるカット冷凍大根の加工

販売

- ・ICタグを使用したトレーサビリティ情報を消費者へ提供
大手食品会社、スーパー等に卸売、一部小売

●6次産業化に取り組み始めたキッカケ

農業に参入した平成23年1月（法人設立）から視野にあった

●6次産業化に取り組んだことで生まれた成果

取り組みの中でまだ成果は出ていない

●上記成果を上げることができたポイント

（無回答）

●失敗談

生産加工設備の建設と生産物収穫とのタイムラグ

（生産収穫が先行して加工設備が後手に回った）

<2 社目>

●取り組み開始時期

平成元年頃

●連携体制

6次化は自社で完結している。

一次：自社での生産

二次：自社での選果選別 → コンシューマーパッケージ

三次：販売企画・営業

取引先：量販関係（約 20 社）、業務加工関係（約 10 社）

●概要

生産→選果選別→コンシューマーパッケージ→販売チャネルで販売

(1次)

(2次)

(3次)

●6次産業化に取り組み始めたキッカケ

包括的に取り組むことで売上も増え、収益性も向上すると考えた為

●6次産業化に取り組んだことで生まれた成果

- ・売上の落ち込みを防止（売上の安定化）
- ・収益性向上
- ・相手先の信用向上

●上記成果を上げることができたポイント

事業設計

●失敗談

受注が生産量を超えてしまった

<3 社目>

●取り組み開始時期

平成 12 年 3 月頃

●連携体制

食品加工会社 2 社

●概要

(無回答)

●6 次産業化に取り組み始めたキッカケ

- ・農産物の減少のロスをはかるため
- ・自社の PR のため

●6 次産業化に取り組んだことで生まれた成果

売上 15%増

●上記成果を上げることができたポイント

ムダな経費をかけなかったため

●失敗談

(無回答)

<4 社目>

- 取り組み開始時期

平成 19 年 3 月頃

- 連携体制

農家 550 戸

- 概要

農家直売所、パン製造・販売、惣菜弁当製造販売、菓子製造販売

- 6 次産業化に取り組み始めたキッカケ

自社生産に付加価値を付け販売したかった。

- 6 次産業化に取り組んだことで生まれた成果

売上 15 倍、新規雇用 25 人

- 上記成果を上げることができたポイント

地域を巻き込んだ農産物の販売

- 失敗談

人材確保が難しかった

人材教育

3.1.2.10 6次産業化に関連した自由意見

6次産業化に関連した事由意見を、自由記述形式で質問した。

No.	回答
1	<ul style="list-style-type: none">・加工度合いの高い6次化はイニシャルコストも大きく、リスクが多い。・6次化の前に1次の産業化を進めるべき。・1次側に2次、3次と対等な交渉ができる人間がいるかどうか、甚だ疑問。・農業行政施策で成功例はないため、今回も同様の印象を持つ。
2	6次産業化は農業にとって魅力ある事業ではあるが、計画性のない事業展開はむずかしい。販路を拡大してからでも遅くはない。できる限りコストと時間をかけない。
3	思ったら行動あり

図表 43 6次産業化に関連した事由意見

6次産業化の難しさを指摘する意見と、積極的に行動すべきとの意見とがある。また、厳しい意見もあった。

3.2 農業法人対象のヒアリング

農業法人の現況を詳細に調査するために、実際に訪問してヒアリングを行った。調査対象は、以下の5社である。

- ①有限会社グリーンハウス宮崎¹³
- ②有限会社加藤えのき¹⁴
- ③有限会社福富農産¹⁵
- ④大山食品株式会社¹⁶
- ⑤有限会社新福青果¹⁷

以下、調査結果を列記する。

3.2.1 有限会社グリーンハウス宮崎へのヒアリング

3.2.1.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成25年2月18日

時間：10:30～11:30

調査対象：有限会社グリーンハウス宮崎（宮崎市）

担当者：代表取締役 野中 誠 様

¹³ <http://www.greenhouse-m.jp>

¹⁴ <http://www.katoenoki.co.jp>

¹⁵ <http://www.aya-fukutomi.com>

¹⁶ <http://www.ohyamafoods.co.jp>

¹⁷ <http://shinpukuseika.co.jp>



図表 44 有限会社グリーンハウス宮崎



図表 45 野中様

以下、調査結果を列記する。

3.2.1.2 調査結果

●主要生産物

- ・ 青ジソ（全体の 8 割）
ほぼ 100%契約で、北海道から沖縄まで販売している。宮崎県内への販売は少ない。
- ・ チマサンチュ

- ・ ブロッコリー（露地）
- ・ スイートコーン（露地）
- ・ ミニトマト

時期的な生産。試験的に生産を始めて 2 年になる。モノができるかどうかを見極めているところである。

その他、イチゴの直売所等もやっている。

●事業について

主な事業としては、青ジソを生産して出荷している。MaxValue のプライベートブランドにあるドレッシングの材料として、等。

グローバル GAP 認証を取得して、作業を行う上での基準として活用している。農薬を使わないことが安全・安心という意見もあるが、使っていても管理をしっかりとしていれば十分である。また、新薬を導入する基準としてもしっかりと活用している。グローバル GAP 認証を取得するまでに 4 年かかった。但し、単価に反映されるものではないので、直接販売につながるわけではない。自己満足になっている面がある。ただ、基準がないと管理できないので導入した。

ジソの出荷のためにパッキングをしているが、それが加工に当たる。もともと 6 次産業化を意識して始めてはいない。

●従業員数

37 名（常勤と非常勤が半々程度）

雇用の安定のため、中国人の実習生を社員扱いで受け入れている。期間は 3 年間で、現在は 4 名いる。平成 25 年 3 月に 3 名を追加する予定である。彼らは国での生活のため、ハングリ精神が強い。反面、言葉の壁がある。きちんとやることを明確に伝えないといけない。例えば、「ここで収穫すること」と伝えると、そこだけを延々と作業することになる。「ここからここまで」と明確に指示を出している。彼らは収穫を専門にやってもらっている。栽培管理は、日本人の男性社員が担当している。

●採用について

最近は定期採用を行っていないが、ハローワークを通じて常に募集はしている。

2～3 年前は応募者が多かった。年間 50 人程度になったこともある。その際、国や県の補助金を利用しながら何人か採用した。4～5 年前は一人も応募者が来なかった。最近は落ち着いている。

●入社時に必要な知識や技術

知識はそれほど必要ない。入社したら一から教えている。自社で失敗を積み重ねてきたものなので、シソに関しては全て指導している。学校で勉強したことを基に「こうしたい」というものがあれば、その意欲は買っている。学校での勉強を否定はしない。

グローバル GAP の認定を受けている関係で、衛生管理の知識は必要になってくる。

「元気」と「挨拶」を重要視している。また、コミュニケーションがどれだけとれるかも重視している。面接で、親の誕生日や親の仕事について質問し、親とコミュニケーションを取っているかを確認する。親とコミュニケーションがしっかり取れるようであれば、年上の社員ともコミュニケーションが取れるし、定着もする。定着しない人は、コミュニケーションに問題を抱えていることが多い。また、30代後半～40代くらいの人は、定着がよい。

●社員の評価について

手順通りに作業ができているかを現場の長が評価している。できないところは問題にせず、できるところを生かすようにしている。今後は点数制にしていく方針である。

また、現場の人を視察に行かせている。異業種の人と考えをすり合わせる訓練にもなる。さらに、作っているものがどう使われているかを見ると、考えが変わる。そういったものを外から感じてもらうようにしている。概ね、月に1回くらいで視察に行かせている。

●今後の事業展開

大葉で大きな販路を持っているので、そこにミニトマト等も乗せていきたい。販路は1社に大きく、という形にはしていない。大きくすると、用意できない、等のリスクも大きい。比較的小さなロットでたくさんの顧客に売っている。このようにしているため、どんな野菜を作っても乗せやすい販路になっている。

ミニトマトは学校給食やオイシックスに出荷している。

●増員計画

男性2名、女性2～3名くらいを増やしたい。応募はある。年金をもらいながら、ハウス内で手入れをして野菜や自然と触れ合いたい、という人が多い。

管理職はそれなりの人材が必要。作業員として雇える人はいくらでもいる。部長2人は経営者並み、一般社員は管理職並みのことをやっている。役職をつけられるのは、100人に1人くらいしかいない。

●これまでに失敗した経験

お茶で失敗した。健康ブームのときであり、手がけるのは早かったが、販路を拡大する前で乗せられなかった。コスト面で他にはかなわなかった。当時は手摘みでやっていた。現在は、花粉症に効果があることがわかり、定期的に購入されている。商品が余ってて作ってしまったというのもある。表示のしかたが難しい。

●自由意見

専業農家はそれなりに儲かるが、朝から晩まで仕事をしている。会社にしたら、夜中までやっても賃金は出せない。農家の時給を計算すると、300円/時くらいで夜中の1時2時までやっている。会社でやったら残業手当まで出せなくなる。そのため、残業はほとんどない。加工場は少し残業をしていることもある。17時過ぎには閉めてしまう。

雇用面に対する補助金の充実を求めている。現在は期間が1年間と短い。若い人を育成して今後どうやるかを見極めるのに2~3年かかる。しかし、その中で明確にするのは難しい。補助金を使って、育成する中で人吉にある中小企業大学校¹⁸に通わせると面白い。

¹⁸ 中小企業大学校人吉校 <http://www.smrj.go.jp/inst/hitoyoshi/>

3.2.2 有限会社加藤えのきへのヒアリング

3.2.2.1 調査概要

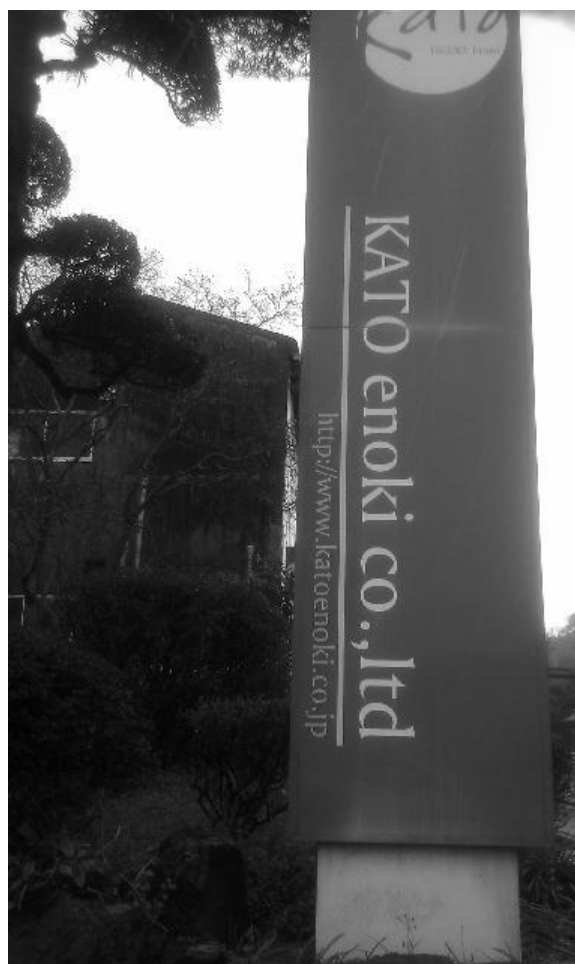
本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 2 月 18 日

時間：12:30～13:30

調査対象：有限会社加藤えのき（宮崎市）

担当者：代表取締役 加藤 修一郎 様



図表 46 有限会社加藤えのき



図表 47 加藤様

以下、調査結果を列記する。

3.2.2.2 調査結果

●主要生産物

- ・ えのき（生産のみ）

●事業について

えのきを工場で生産し、宮崎県や周辺の県の市場に出荷している。宮崎なら中央市場に出荷し、市場を通してスーパーや量販店と契約している。

6次産業化は取り組みたいが、まずは企業体力をつけることが先である。専門の人を雇い、それだけをやらせるようにする。そうした形で大丈夫なところまで体力をつけてから、取り組みたい。会社がやりたいと思わないとやれないし、続かない。今のまま6次産業化に取り組んでも、値段に対する価値という面で加工の専門に負けてしまう。我々は生産のプロではあるが、商品化のプロではない。企画の専門家を入れる必要があるが、補助金ではうまくいかない。

●従業員数

80名（常勤：20名程度、非常勤：60名程度）

80名になると、マネジメントをやる人が必要になってくる。

●採用について

ハローワークを通して募集している。知人の紹介など、直接応募に来る人もいる。定期

採用はなく、欠員が出たときや、戦略的に必要なときに募集している。

研究室を作るときには専門家を雇っているが、現場研修でつぶれてしまう。現状、現場をわかって欲しい。それを乗り越えられないと、人の上には立てない。

●入社時に必要な知識や技術

農業の知識や経営の知識はあるに越したことはないが、なくても良い。流通、マーケティング等の経済的などころが必要。また、農作業を数値化し、分析する情報処理能力が重要。

農業法人は農家の延長になってしまっていて、マネジメントは下手である。マネジメントができないのは、数値で管理できないからである。物事を客観的に捉える能力が必要。

気合いと根性も必要。勉強は社会に出るために最低限必要なものと捉えている。学校の勉強があまりできなかったとしても、入社してから勉強すれば十分追いつける。

また、農業の中でこういうものがやりたいという欲望を続けられる人を求めている。会社がそれを受け入れられることも必要である。

さらに、農業の現実は厳しい、ということも教える必要がある。その上で入社したら現場を知ることが必要。経営を勉強した人でも、研究職に就く人も、現場を知ることが大切。そのため、入社したら最初は現場研修から行う。

●社員の評価について

評価制度の整備に取組中。チャンスを平等に与えて、わかりやすい指標にする。

また、研修の一環として、他県と同業者へ出張に行かせて勉強させている。良いところを見極め、自社とどう違うかを判断させる。ここで、「パッキングが速かった」ではなく、例えば「1時間で何パックできていた」等、数値化する考え方が重要になる。業界の最先端になりたいので、必ず平均よりも良いところ、自社よりも良いところに行かせている。こうした現状を見ることを重要視している。

●増員計画

5年後には、売上目標から考えて120人程度（パートも含む）まで増やしたい。機械化は進めている。補助金をもらうための採用はしない。

●自由意見

生産を工場で行っているため、温度や湿度の管理が必要になってくる。

人材に100%を求めないようにすると、結構長続きする。その中でチャンスを与えて、まあまあ人にはまあまあな給料を与える。そういう人から、チャンスを与えると大きくなる人もいる。こういう事を考えられる人材が必要。それを運用する側になるための人材（＝中間管理職）育成が重要になる。

夢を与えるような教育を求めている。現状、厳しさを教えて、こうなるためにはこういう人材が必要、というもの。将来が見えることが重要だと思う。

3.2.3 有限会社福富農産へのヒアリング

3.2.3.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 2 月 18 日

時間：14:30～15:30

調査対象：有限会社福富農産（綾町）

担当者：代表取締役 福富 博之 様



図表 48 有限会社福富農産（フクトミファームガーデン アヤ）



図表 49 福富様

以下、調査結果を列記する。

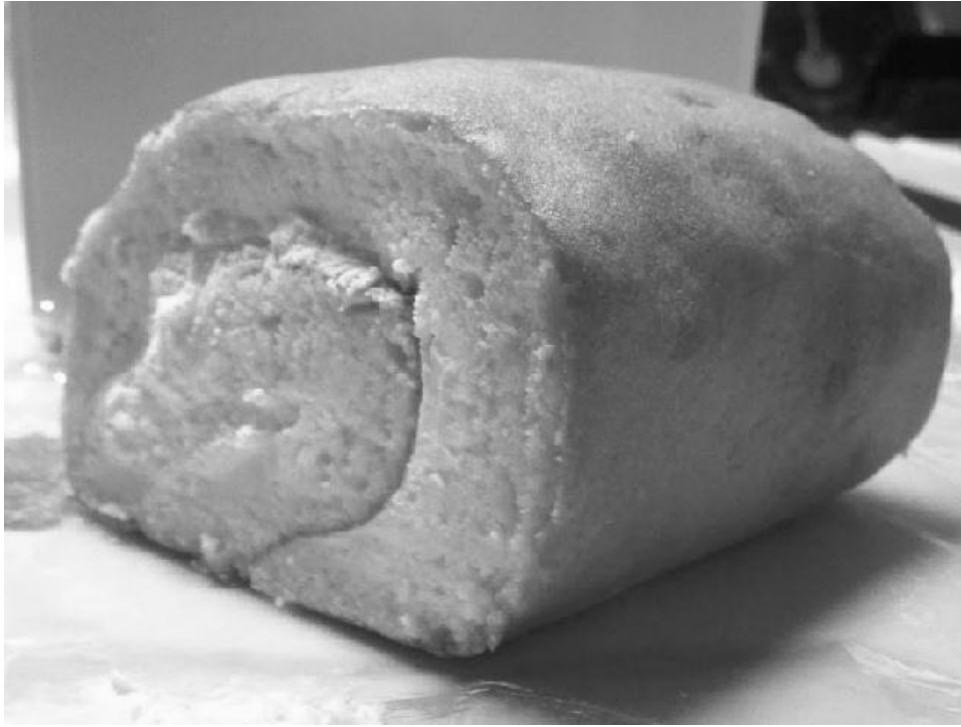
3.2.3.2 調査結果

●主要生産物

- ・ 米
米を生産し、販売している。また、米粉の販売、及び米粉パン、米粉スイーツ等を製造し、カフェショップ「フクトミファームガーデン アヤ」で販売・提供している。
- ・ 人参
- ・ ほうれん草
これらは米の裏作で生産している。カフェでのドリンク、料理等にも使用。

●事業について

米の生産、販売、農作業の受託、フクトミファームガーデン アヤ（米粉パン&米粉スイーツカフェ）の運営を行っている。宮崎空港でも、米粉ロールケーキなどを販売している。



図表 50 米粉ロールケーキ

●従業員数

18名（常勤：10名、非常勤：6名、役員：2名）

●採用について

定期採用は行っていない。

男性で、農業高校卒ではなく、知人の紹介で元気、やんちゃな人を採用している。今は、農業高校や農業大学校からの応募が増えている。

平成23年4月のカフェ開店前にパティシエ等を探した。

今後は、農作業や農作業受託で従業員を増やしたい。

●入社時に必要な知識や技術

知識はあった方がよいが、それよりもやる気のある人を求めている。夢や目標のある人が良い。仕事以外でも持っているかが重要。仕事の動機になるものが欲しい。プライベートでも良いし、人に言えなくても良い。持っていることが重要。

コミュニケーションも重要。

初めから仕事ができる人はいない。入社してから育てていきたい。

生産は生産、加工は加工、販売は販売の専門家が必要。全部やりたいなら、経営者になるしかない。経営者になるのであれば、3年、5年の計画書だけではダメ。経営者として将

来を背負える人でないといけない。生産の現場で利益が出ないといけないので、現場も知らないといけない。

●社員の評価について

定期的に回ってコミュニケーションを取るようになっている。常に見たり、周りに聞いたりしている。慣れてくると自分で判断してミスにつながることも多い。社長として、経営者として、しっかり見ることを重視している。ミーティングで、いつまでにこれだけ、というものが解決できているか、常に見ている。

また、コミュニケーションは常に取りようになっている。

●今後の事業展開

生産では、品質向上と規模拡大に取り組んでいく。

店舗展開は、新会社で専門的に取り組む。

海外への進出もしたい。輸入や輸出に取り組んだり、ノウハウを持って行って各国でやったりもしたい。衣食住を中心とした異業種への参入も考えている。

販売会社はプロの手段であり、福富農産にもそのノウハウを反映している。いくつかの会社をまとめるような会社にしていきたい。

常に喜ばれるものは何かを考えていく。農業だから農産物だけではなく、おしゃれなバッグを作ったり、中に入れるものを作ったりする。

他には真似できない、綾ブランドというものを、他とのコラボによって作っていきたい。

●6次産業化について

米が適正な価格で売れば、現在のような6次産業化に取り組む必要はなかった。自給率が低下している。学校給食にも米を入れているが、量が減っている。価格の低下を食い止めたい、米に熱を入れて生産して欲しい、農業に着目して欲しい、そう思い、米粉パンや米粉スイーツ、カフェに取り組んできた。米を売るための一つのツールに過ぎない。

カフェには、農家という感じを出していない。綾町でおしゃれなお店という感じにしている。最初は農業を出してやりたかったが、お客さんはそうではなかった。消費者ニーズが違った。お客さんを作ってから、農業を出していくことにした。しかし、商品がおいしくないとお客さんは来ない。サービスや価格がいくら良くても。商品を出すのには責任感がある。売れる商品を作る必要がある。お客さんはいつ欲しいのか、どんなパッケージが良いのか、ということに関し、アンテナを張って経営者として先に知っておくことが重要。お客さんとの距離を近くして、お客さんの声を生産現場に活かす必要がある。そのために、経営者になりきることが重要だった。お客さんは、6次産業化でお店に来るのではない。

自分がやりたいと思って勉強もした。お金の出入りを見てやっていくことが経営で、何をやっても同じだと思う。また、周りに仲間がたくさんいた。デザイナーや設計者、パティ

シエ等、人脈・仲間作りに取り組んだ。そうして知識を身に付けるのに3年かかった。

若いなりに計算してやってきた。何歳のときにこうするという計画を立て、確認して進捗をチェックしてきた。

●自由意見

法人化前にいろいろな品種に取り組んできた。加工もやった。元は味噌工場だった。機械を買ってきて、倉庫に入れっぱなしになっているものを見てきたので、そうならないようにしてきた。

どんぶり勘定がダメ。きちんとしたシステムに変えることが必要である。

資金は、JAではなく銀行に借りてやった。JAに甘えすぎてはいけない。借金もあるし、赤字もある。そうした中で、次にどうするかを分析することが重要。

3.2.4 大山食品株式会社へのヒアリング

3.2.4.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 2 月 18 日

時間：17:30～18:30

調査対象：大山食品株式会社（綾町）

担当者：代表取締役 大山 憲一郎 様



図表 51 大山様

以下、調査結果を列記する。

3.2.4.2 調査結果

●主要生産物

- ・ お酢（7割）
- ・ コンニャク（2割）

半分くらいが業務用に販売している。給食センターや仕出し、レストラン、病院、施設等。

- ・ 農産加工品（1割）
調味料等。

●事業について

小売りに力を入れている。業務用やプライベートブランドの OEM（代表的なものに、生協やコスモスドラッグに出している黒酢がある）が主力で、全体の半分以上。

お酢の需要は横ばいであり、加工品が上昇中。

どぶろく特区により、どぶろくの生産、販売も行っている。どぶろく用の米は全て自家生産でないといけない。お酢用の米は福富農産等からも仕入れている。どぶろくはだいぶ酒屋にも卸すようになってきており、黒字化した。

その他、農家レストランや農家民宿にも取り組んでおり、今年は黒字化した。

●従業員数

11～12名

5年前、豆腐やどぶろくを作るようになって、農業部門と販売部門を分けた。農業部門は農業生産法人である。原料も自分たちで作るという流れになってきている。これら全体で20名弱になる。

●採用について

定期採用は行っていない。地元の人や、アルバイトできていた人を採用している。どぶろくは知人が多い。欠員が生じたら採用を行っている。

基本的に全員社員制を取っている。忙しいときはパートやアルバイト等を採ることはあるが、急に増やす、ということはない。

●入社時に必要な知識や技術

人間性を重視している。人間的な思いやりや優しさなど。

ものすごく難しい業務はないし、ものすごい才能がないとできないものはない。

辞める理由は人間関係がほとんど。会社に合う人間性ということ、2000年頃から重視してきた。しかし、短期の面接だけではわからない。わかるのは、よく知っている人だけになってしまう。

●社員の評価について

業績は決算書で公開している。業績が上がっているとモチベーションになるが、下がっているとデメリットになる。給与はオープンにしていない。

また、数字だけの評価はしない。年齢での昇給を行っている。また、賞与や退職金には貢献度を反映している。どういう貢献をしたかで、給与はあまり変わらない。

●今後の事業展開

規模追求型ではない。自然にニーズが増えて大きくなるのが良い。お客さんの満足が重なっていく形を目指している。売上よりも、会社としての利益、お客さんに喜んでもらった度合いを重視している。継続するためには、コスト管理、方向性の統一が必要。

扱っている商品が増えすぎたので、どういう基準で整理するかを検討中である。

他社にできないもの、南国だからできるものというものは宝になる。ここに集中しているというものが見えてきた。

生産が大事だと思う。日本にとっても。市場の原理でアトピーの人が食べられるものや調味料がなくなってしまう。これは原料の問題であり、わかる人に届かないと意味がない。

●6 次産業化について

もともと加工から始めた。発酵食品の勉強をしていて、日本酒の味から自分で作りたいと思った。日本酒はなかなか作れないが、どぶろくは小泉政権で特区ができたため、取り組んだ。原料も自分たちで生産するために農業に参入したが、農業は土地を持たないといけない。農地の管理をするか、農具やトラクタを持つ必要がある。農業委員会や地元の農家の審査が必要で、認定をもらうのに4~5年かかってしまった。辞めるのはすぐに辞められる。

農作業の8~9割はお金にならない作業である（土作り、堆肥作り、草取り、等）。コスト計算ができないものが多い。また、農作物の安さにもビックリした。市場卸の農業は無理と判断し、加工から生産・販売をやるようになった。

また、長女がアトピーであることから、アトピーの人も食べられるものを作っている。石油原料の合成保存料や合成甘味料を食べると、体外に出そうとしてアトピーになるのでは、という研究結果がある。綾町には有機農家がたくさんあり、無農薬のために化学肥料を使わない。ちゃんとした米や野菜だけを食べさせると、3ヶ月でアトピーが消える。こういう食材がないので、直売所で売り出した。

●これまでに失敗した経験

失敗だらけであるが、チャレンジし続けている。チャレンジしている人や会社に共感を持つ。

新しいことを始めることが好きである。始めたからには、継続していかないといけない。継続は、人に任せている。任された人が、継続するのに長けていることが多い。10年はやるつもりでやると、3~5年で軌道に乗る。

農業を始めて10年、どぶろくは5年目になるが、大きな失敗はない。

●自由意見

1~2年で見ると失敗でも、10年、100年でみると何かが生まれている。失敗を恐れて何もやらないよりは、何かやった方が良い。

3.2.5 有限会社新福青果へのヒアリング

3.2.5.1 調査概要

本調査の概要は、以下のようなものである。

調査日：平成 25 年 2 月 19 日

時間：10:00～11:00

調査対象：有限会社新福青果（都城市）

担当者：代表取締役 新福 秀秋 様



図表 52 有限会社新福青果



図表 53 新福様

以下、調査結果を列記する。

3.2.5.2 調査結果

●主要生産物

- ・ ゴボウ、サトイモ、ニンジン、サツマイモ、等、多数

●事業について

グローバル GAP 認証を取得している。

圃場でタブレットを使用し、生産記録を取ったり、トレーサビリティに活用したりしている。

●従業員数

58 名（男女比=9 : 1）

●入社時に必要な知識や技術

座学だけではなく、現場を知って欲しい。ムリ・ムダ・ムラをどれだけ意識して、コスト削減ができるか。個人農業ではあまり関係はないが、企業農業では必須。また、農業に興味をもって、農業界で力を試してみたいという人が必要。

新福青果は 20 代～30 代が多く、40 代～50 代が少ない。管理者となる人材が少ない。管理者として育てないといけないので農業簿記や企業会計がわかっている必要があるが、減点は生産である。必ず農場からやらせている。現場に出て初めて、一般的な企業との償却

違い等がわかる。

商工と農の結びつきが弱かった。包括的に見られる人材がいけない。

職業高校の部門を受託して、現状を教える必要がある。先生も含めて。就職するときギャップが生じる。1年間の定着率が半分に満たないが、待遇等でミスマッチが生じていることが原因。会社と新入社員でお互いに悩んでいる。

気象学や土壌学も大切だが、マネジメントの方が重要。

●社員の評価について

入社3か月～半年の間に面接をして、本人の能力がどうなったか、どこが足りないかを確認している。その上で、準社員にするか、正社員にするかを決めている。管理能力が弱いと正社員になれない。勤続年数は問わない。どうしたらもう一度スイッチを入れるかを考えている。

大型特殊免許は会社負担で取らせている。また、機械ができる人から正社員化している。

●今後の事業展開

女性社員の割合が高いと、売上・利益が上がっているというデータが出ている。そのため、現在の男女比は9:1だが、女性をもっと増やしたい。農地に休憩所やトイレがないので、国に働きかけている。女性視点での運営の仕方が、これからのキーワードになるだろう。

●増員計画

男性2名、女性2~3名くらいを増やしたい。応募はある。年金をもらいながら、ハウス内で手入れをして野菜や自然と触れ合いたい、という人が多い。

管理職はそれなりの人材が必要。作業員として雇える人はいくらでもいる。部長2人は経営者並み、一般社員は管理職並みのことをやっている。役職をつけられるのは、100人に1人くらいしかいない。

●自由意見

6次産業化は人材が重要。箱物も必要だが、それを活用するのも人材。もっと人材育成に予算を使う必要がある。平成25年度は、人材に関する予算が出るらしい。

農業法人には、人材不足、資金不足、販売先が弱いという課題がある。人件費を多く持ったところは、将来、相当伸びるだろう。

人材を育てるには、相当の経費と時間がかかる。現在、大学や高校の教育と現場ではミスマッチが生じている。現状の分析をする必要がある。

厚生労働省や農林水産省等からさまざまな支援策やファンドもあるが、それらを見つけてきて、活用する人材がいけない。

働く側に立った環境整備も重要。コストはかかるものだと割り切り、上がったコストを付加価値として利益を上げる方法はある。

組織は人でできている。成長エンジンに投資をしないと、先がない。人材資金を使って雇用を創出する必要がある。現在は運転資金から雇用の資金を出している状態である。

第2部 開発報告

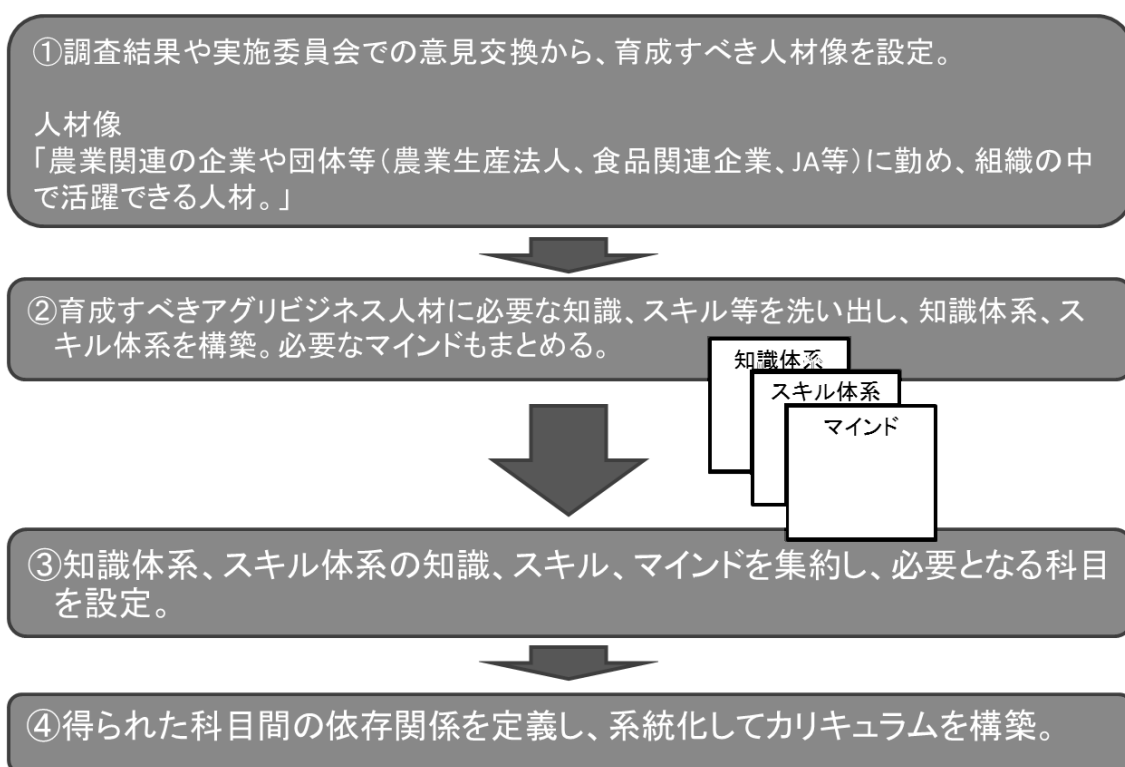
調査で得られた結果を分析し、それを基にして、教育プログラムの開発を行った。

第1章 教育プログラム開発

本事業では、地域の農業振興に貢献するアグリビジネス人材を育成するプログラムの開発を行った。以下、教育プログラムの開発報告を行う。

1.1 教育プログラム開発の基本的な考え方

教育プログラム開発に先立ち実施した調査の結果を基に、実施委員会等で検討し、まず、本教育プログラムで育成すべき人材像を設定した。その上で、育成すべきアグリビジネス人材に必要な知識、スキル等を洗い出し、体系化した。この際、「組織で働く人材」という視点から、組織で働く人材に必要な素養を「マインド」としてまとめた。こうして構築した知識体系、スキル体系、マインドを集約し、必要となる科目を設定した。最後に、科目間の依存関係を定義し、系統化してカリキュラムを構築した。さらには、使用する教材の基本構想として、それぞれの科目で想定される教材の概要を検討した。



図表 54 教育プログラム開発の基本的な考え方

1.2 育成すべき人材像の検討

調査の結果から、農業大学校、農業法人の状況をまとめると、以下のようになる。

<農業大学校>

- ・ 卒業生の進路として、卒業直後に就農する人の割合は 14%と低い。一方で、農業法人への就職や、研修後就職を合計すると 47%になる。
- ・ 近年では、農業法人への就職や、農協、農業関連企業、団体等への就職が増加しており、組織に就職して農業に関わるという形が時代に流れになっている。
- ・ 農業の実践力を重視して指導している他、経営に関する内容を指導している所も多い。

<農業法人>

- ・ 入社時に求める知識やスキルとしては、農業関係のものはそれほど深く求めている。
- ・ 経営管理能力や情報処理、簿記等を求める声もあるが、管理職を目指す人材向け。
- ・ 元気、挨拶、コミュニケーション、働く姿勢、等、組織で働く上で必要なマインド等を重視する声が多い。

これらを比較すると、農業大学校で重視して指導している内容（農業の実践力、経営に関する内容、等）と、農業法人で求められる内容（元気、挨拶、コミュニケーション、働く姿勢、等）とにミスマッチが見られる。農業大学校も農業法人も地域で事情が異なるという見方もできるが、こうしたミスマッチをできるかぎり解消することが、地域の農業振興に貢献するアグリビジネス人材の育成につながる考えた。

そこで、こうした事情も踏まえ、本教育プログラムで育成する人材像を、以下のよう定めた。なお、これは図表 53 の中にも記述している。

「農業関連の企業や団体等（農業生産法人、食品関連企業、JA 等）に勤め、組織の中で活躍できる人材」

図表 55 育成すべき人材像

調査の結果を基にこれを更に掘り下げると、以下のような要素も求められる。

- ・ 組織の中で働く上で必要なマインドを身につけている。
→組織の中で働く人材として

- 経営能力や情報処理能力の基礎を身につけている。
→農業法人が求める管理職を目指す人材として
- 生産から加工、販売までを川上から川下と例えると、川中付近に位置し、川上も川下も見渡せるような知識やスキルを持ち合わせている。
→6次産業化を進め、地域の農業振興に貢献する人材として

これらを踏まえて、人材像に必要な知識、スキル、マインドを洗い出した。

1.3 知識体系、スキル体系、マインドの構築

前節で設定した人材像に求められる知識、スキル、マインドを洗い出した。そして、それらを体系化し、知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドを設定した。なお、これらの体系を構築することは、本教育プログラムにおける評価項目の基本設計としての側面もある。評価項目の検討については、「第3章 達成度評価に関する検討」で後述する。

1.3.1 知識体系

これまでの調査結果から得られた知識体系は、以下のようなものである。

農業関連
農業用語を理解している。
基本的な栽培・管理技術を理解している。
農作物の種類を知っている。
農作物の特徴を知っている。
農作物の栽培方法を知っている。
農具の種類を理解している。
農具の用途を理解している。
農業機械の種類を理解している。
農業機械の用途を理解している。
農業機械の構造を理解している。
農業機械を用いて安全に作業するための知識を身につけている。
農業機械を用いた作業による事故を防止するための知識を身につけている。
農業施設の基本的な構造を理解している。
農業施設の基本的な用途を理解している。
農業経営の基本的な知識を身につけている。
農業経営の運営に関する基本的な知識を身につけている。
農業経営の診断や改善に関する基本的な知識を身につけている。
農業市場の仕組みを理解している。
コスト管理の必要性を理解している。
農業マーケティングの基本的な知識を身につけている。
農地法等、農業に関わる法律を理解している。
宮崎県の農業に関する主要な政策を理解している。
GAPに関する基本的な知識を身につけている。

気温、水温、土温、CO ₂ 濃度、日射量等の環境データの種類を理解している。
環境データの農作物ごとに最適な値を知っている。
農業ソフトウェアの種類を理解している。
農業ソフトウェアの用途を理解している。
主要な病害虫に関する基礎知識を身につけている。
防除に関する基礎知識を身につけている。
防除の目的や手法に関する基礎的な知識を身につけている。
農薬に関する基本的な知識を身につけている。
主要な農薬の種類を理解している。
主要な農薬の用途を理解している。
土壌の生成過程を理解している。
土壌の構造を理解している。
土壌の性質を理解している。
土壌と栽培との関わりを理解している。
主要な肥料の種類を理解している。
主要な肥料の成分を理解している。
主要な肥料の利用方法を理解している。
気象に関する基本的な知識を身につけている。
気象と農業との関係を理解している。
気象災害に関する基本的な知識を身につけている。
宮崎県の気候を理解している。
主要な微生物の種類を理解している。
微生物の農作物や栽培への影響を理解している。
微生物の栽培への基本的な活用方法を理解している。
微生物の食品加工への基本的な活用方法を理解している。
微生物の、農作物・食品貯蔵に関する注意点を理解している。
微生物の、農作物・食品運搬に関する注意点を理解している。
食品衛生に関わる法律を理解している。
食品の品質保持に関する基礎知識を身につけている。
食品衛生の基礎知識を身につけている。
流通の役割を理解している。
農作物ごとの流通システムの違いを理解している。
現状における流通の課題や問題点を理解している。
農作物・食品の主要な成分を理解している。
農作物・食品の特性を理解している。

農作物や食品に含まれる栄養素の効果的な摂取方法を理解している。
農作物の生産から食卓までの一連の流れを理解している。
農作物・食品を美味しく食べる方法を理解している。

図表 56 農業関連の知識体系

ビジネス関連
利用する IT 機器やシステムを把握するために、コンピュータシステムやネットワークに関する基本的な知識を身につけている。
IT を利用した問題分析及び問題解決手法に関する基本的な知識を身につけている。
業務の分析やシステム化の支援を行うために IT システムの開発及び運用に関する基本的な知識を身につけている。
経理・財務担当者に必要な基本的な知識を身につけている。
農作物や関連商品を販売するための基礎知識を身につけている。
販売における接客に関する基礎知識を身につけている。
マーケティングに関する基礎知識を身につけている。
プロモーションに関する基礎知識を身につけている。
IT を活用した商品 PR の基礎知識を身につけている。
マネジメントに関する基礎知識を身につけている。

図表 57 ビジネス関連の知識体系

アグリビジネス関連
6 次産業化を成功させるために必要な、1 次、2 次、3 次産業に関する基本的な知識を身につけている。
6 次産業化法や農商工連携法、各種の支援制度を理解している。
宮崎県における 6 次産業化、農商工連携に関する主要な施策を理解している。
6 次産業化における基礎的な経営知識を身につけている。
販路の開拓、拡充に関する基本的な知識を身につけている。

図表 58 アグリビジネス関連の知識体系

地域の支援関連
農業の集落維持機能を理解している。
農業による災害対策に関する基本的な知識を身につけている。
地域の知名度アップや訪問者数の増加の重要性を理解している。
グリーンツーリズムの意義を理解している。
グリーンツーリズムによる癒しの提供について理解している。

農村の活性化の重要性を理解している。
農業による農村を活性化させる方法を理解している。

図表 59 地域の支援関連の知識体系

1.3.2 スキル体系

これまでの調査結果から得られた知識体系は、以下のようなものである。

農業関連
農具を用途に応じて正しく使える。
栽培するための基本的な農作業ができる。
農業機械を使って基本的な作業ができる。
農業機械の簡単な点検・修理ができる。
農業施設内における環境の基本的な制御ができる。
農業経営の基本的な診断ができる。
農業における基本的な経営分析手法を身につけている。
農業経営における基本的な課題解決手法を身につけている。
環境データをもとに、最適な農作業の方法を判断できる。
代表的な農業ソフトウェアを栽培管理や経理等の業務に活用できる。
病虫害を防除するための基本的な作業ができる。
土壌を適切に管理できる。
適切に施肥が行える。
気象に応じた農作業ができる。
気象災害を予防するための基本的な作業が行える。

図表 60 農業関連のスキル体系

ビジネス関連
オフィスツールを活用できる。
簡単な問題分析や問題解決に IT 機器を活用できる。
経理・財務担当者に必要な基本的スキルを身につけている。
農作物や関連商品を販売するために必要な基本的スキルを身につけている。
消費者に商品を説明するスキルを身につけている。
マーケティングに関する基本的なスキルを身につけている。
プロモーションに関する基本的なスキルを身につけている。

ブランディングに関する基本的なスキルを身につけている。
商品開発に関する基本的なスキルを身につけている。
ITを活用した商品PRの基本的なスキルを身につけている。
マネジメントに関する基本的なスキルを身につけている。

図表 61 ビジネス関連のスキル体系

アグリビジネス関連
農業やビジネスの基本的な知識やスキルをもとにして、6次産業化や農商工連携を成功させるための基本的なスキルを身につけている。

図表 62 アグリビジネス関連のスキル体系

地域の支援関連
農業やビジネスに関する基本的な知識やスキルをもとにして、農業や関連事業を通して地域へ貢献するために必要な基本的スキルを身につけている。

図表 63 地域の支援関連のスキル体系

1.3.3 社会人・職業人マインド

これまでの調査結果から得られた社会人・職業人マインドは、以下のようなものである。

社会人・職業人マインド
人生観、勤労観、職業観
社会人、職業人としてのマインド
常識としてのビジネスマインド
マナー
言葉遣い
態度
振る舞い
言動
意欲

図表 64 社会人・職業人マインド

1.4 カリキュラム構築

前節で得られた知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドを基に必要な科目を設定し、科目間の依存関係を定義してカリキュラムを構築した。このカリキュラムを構築するまでに、実施委員会や分科会等で何度も検討を重ね、今年度の成果としてのカリキュラムを確定した。以下、事業計画段階から最終的なカリキュラムを構築するまでの経緯を報告する。

1.4.1 事業計画段階のカリキュラムのイメージ

事業計画段階におけるカリキュラムのイメージは、以下のようなものであった。

分野	内容
生産	栽培や畜産に関する基礎知識、土壌、農薬、IT の活用、宮崎県独自の農業、等
加工・調理	地域の主要作物に適した加工法、加工実習、調理法、調理実習、製菓実習、等
流通・販売	マーケティング、流通経路、インターネット販売、販売実習、販売戦略、等
ビジネス創出	起業、ブランド化、6次産業化の先進事例、等
地域の支援	集落機能維持、鳥獣被害対策、都市との交流、災害対策、宮崎県ならではのアグリビジネス、等

図表 65 事業計画段階におけるカリキュラムのイメージ

このカリキュラムは、2年間で1,800時間程度を想定したものである。この後、事業開始とともに調査を開始し、また、実施委員会等での意見交換を重ね、調査と並行しながら検討材料を収集してカリキュラムの構築作業に入った。

1.4.2 カリキュラムの第一案

ある程度調査の結果がまとまった時点で、カリキュラムの第一案を構築した。これは、「農業の基礎」を学習することを中心とし、それに加えて、幅広い教養を身につけるための「一般教養」、及び、組織の中で働く社会人・職業人が身につけておくべきマインドを学ぶ「職業とキャリア」の3つの分野からなる。事業計画段階の分野は、「農業の基礎」の中に組み入れており、それ以外の2つの分野を新たに設定した形となった。想定した時間数は、2年間で1,800時間である。

<p>農業の基礎(約1,500時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培の基礎 ・ 農業機械 ・ 農業施設 ・ 農産物の加工 ・ 農業経営 ・ 農業と暮らし ・ 農業情報処理 ・ 食品衛生に関する科目 ・ 農産物の流通 ・ トレーサビリティ ・ 微生物に関する科目、等を検討中 <p>※プロジェクト学習や実習、ワークショップ等に全体の40%以上の時間を割り当てる。 ※農業法人での実習や、農業機械等の資格取得も含める。</p>	<p>選択科目として、製菓・調理、フラワーアレンジメント等の科目も設置</p>	<p>一般教養(約200時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会 ・ 法律 ・ 経済 ・ 外国語、等を検討中
		<p>職業とキャリア(約100時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間と労働 ・ 人生と職業選択 ・ 社会人・職業人の倫理、等を検討中

図表 66 カリキュラムの第一案

このカリキュラムについて、実施委員会等で検討した結果、以下のような指摘があった。

- ・ 農業大学校等で実施されている教育内容との違いが不明確。
- ・ 宮崎総合学院の強みを組み入れたものにすべき。
- ・ 調査を更に進め、人材像や求める知識・スキル等を、より明確にしておく必要がある。
- ・ 1年当たり 900 時間にこだわる必要はない。1,000 時間を多少超えても実現可能。
- ・ 簿記や経営に関する科目を入れたい。日商簿記の 3 級程度であれば、それほど難しくもなく、高卒生でもすぐに取得できる。
- ・ 農業ソフトウェアがいくつかある（農業簿記等）ので、その使い方を扱うような科目も必要。
- ・ 「一般教養」「職業とキャリア」はもう少し時間を減らしても良いのではないか。それよりも、マーケティング等の科目を設定して時間をとった方が良い。

これらの指摘を踏まえ、各調査を更に進めることで、人材像や知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドを確定し、カリキュラムの再構築を行った。

1.4.3 最終的なカリキュラム案の構築

前節のような検討を重ね、カリキュラムの再構築を行った。

まず、人材像であるが、「農業法人等の組織の中で働く人材」という想定はそのままに、管理職や 6 次産業化を担うという要素も組み入れた。求める人材像は農業法人によってま

ちまちであるが、「個人農業」ではなく「企業農業」に携わるという点では共通している。あとは、各農業法人の実情に応じて、現場で働く人材なのか、将来管理職に就く人材なのかは異なる。しかし、そのどちらでも農業の現場を知っておくことが必須の条件として挙げられていることから、知識体系、スキル体系には、農業の現場で働くという要素を盛り込んでいる。

知識体系、スキル体系には、農業に関する内容の他に、ビジネスに関する内容も盛り込んでいる。主に農業法人へのヒアリング調査でわかったように、管理職となる人材が不足していることから、それに対応して、マーケティングやマネジメント、簿記等も加えている。

また、農業法人では農業の知識やスキルよりも、働く姿勢やコミュニケーションを重視していることも、調査の結果からわかった。働く姿勢の基礎は「職業とキャリア」で扱うマインド部分で対応し、コミュニケーションは「ビジネスコミュニケーション」として「ビジネス基礎」の分野に加えることにした。その他、「アグリビジネス」分野で扱うケーススタディ学習等で、これらを実践的に学習する方法を採った。

情報処理や簿記に関しては、本校、及び系列校で実績のあるカリキュラムを持っているため、それを本事業で開発するカリキュラムに反映させた。これによって、宮崎総合学院の強みを活かしたカリキュラムにすることができた。また、この部分が、本カリキュラムの特徴であり、他教育機関との役割分担に活用できる部分である。

以下、構築したカリキュラムについて報告する。

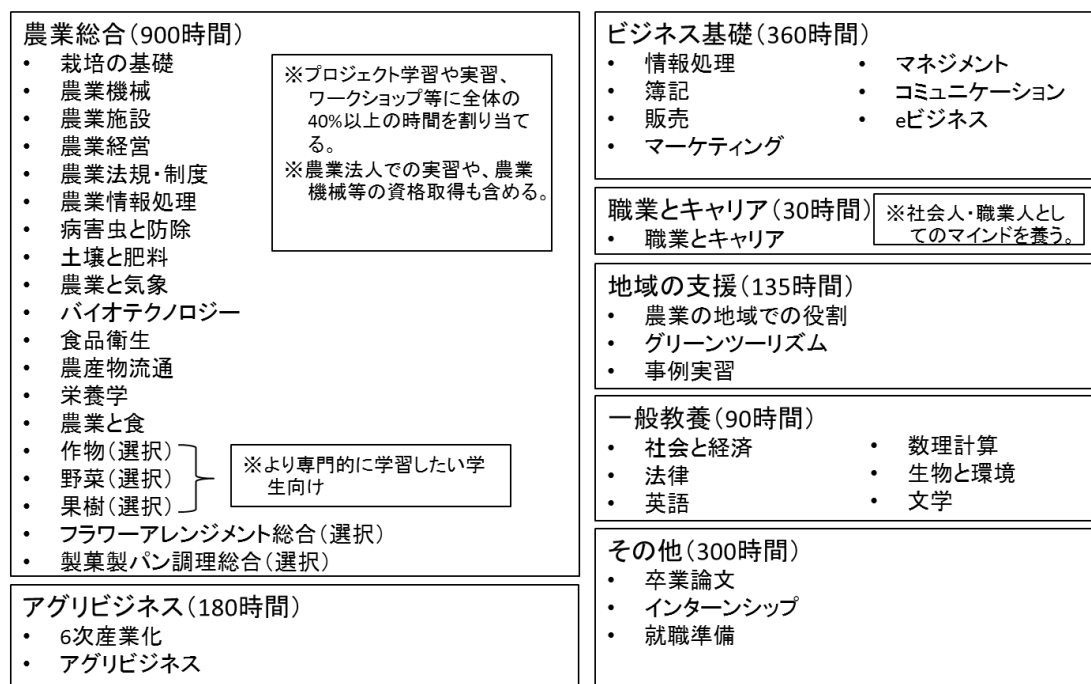
1.4.4 カリキュラムの実際

今回構築したカリキュラムは、「農業総合」「ビジネス基礎」「職業とキャリア」「アグリビジネス」「地域の支援」「一般教養」「その他」の7つの分野からなる、2年間・1,995時間である。以下は、各分野の概要と科目数、時間配分である。なお、「農業総合」には、選択科目を5科目含めている。

分野	概要	科目数	時間
農業総合	農業生産、加工、流通、販売等に関する基本的な知識、スキルを身につける。	19 科目	900 時間
ビジネス基礎	ビジネス活動を支える IT や簿記等に関する基本的な知識、スキルを身につける。	7 科目	360 時間
職業とキャリア	社会や組織の中で働く職業人として必須の素養、マインドを身につける。	1 科目	30 時間
アグリビジネス	農業を中心としたブランド化、6 次産業化、ビジネス創出等に関する基本的な知識、スキルを身につける。	2 科目	180 時間
地域の支援	農業を活用した地域の支援活動に関する知識、スキルを学習する。	3 科目	135 時間
一般教養	社会人として幅広い知識を身につける。	6 科目	90 時間
その他	卒業論文とインターンシップ、就職準備に関する科目。	3 科目	300 時間
合計		41 科目	1,995 時間

図表 67 分野とその概要

また、カリキュラムの全体像を示したのが、以下の図である。



図表 68 カリキュラム全体像

以下、各分野に含まれる科目の概要を述べる。

1.4.4.1 農業総合の科目一覧

農業総合には、19 科目、900 時間を割り振っている。農業の現状や現場を理解するうえで必要な科目として位置付ける。実習の時間を全体の 40%以上取り入れることを想定している。

なお、農業総合にある科目は基礎知識と実践力を重視しているが、より専門的に学習したい学生向けに、「作物」「野菜」「果樹」という専門科目を用意している。また、フラワーアレンジメントに関する知識やスキルを学習する「フラワーアレンジメント総合」、及び、製菓・製パン・調理に関する知識やスキルを学習する「製菓製パン調理総合」を選択科目として入れてある。こちらは、学生本人の希望で履修できるものとする。

以下、各科目の概要、及び使用を想定している教材の概要を述べる。

科目名	科目の概要	教材の概要
栽培の基礎	主に野菜を中心に、栽培・管理の基礎知識を理解するとともに、自らの責任をもって栽培し、生産するためのスキルを身につける。	栽培・管理に関する基礎用語や、栽培の流れ、農作業の意味等を解説したもの。
農業機械	農業の機械化に関する正しい知識を身につけ、効果的・効率的な利用スキルを身につける。また、基本的な構造を理解し、簡単な点検・修理を行うためのスキルを身につける。	実際の農業機械に加え、それらがどのような農作業に使われるかを解説したもの。
農業施設	農業に関わる施設や資材に関する正しい知識を身につけ、目的に応じてこれらを正しく使うためのスキルを養う。	農業施設、資材そのものに加え、それらがどのように使われるかを解説したもの。
農業経営	農業経営に関する正しい知識を身につけ、農業生産におけるコスト管理やマーケティングの必要性を理解し、農業経営に関わるためのスキルを養う。	農業経営に関する用語や分析手法等を解説したもの。
農業法規・制度	農業を取り巻く法律や制度に関する知識を身につけ、農業に活用できるスキルを養う。	農地法等、農業に関わる上で知っておかなければならない法律や制度について解説したもの。農業の運営にどのように関わるかも解説する。
農業情報処理	環境データの活用スキルや農業ソフトウェアの活用スキルを身につける。	農業ソフトウェアの例や使用方法、環境データやその利用方法を解説したもの。
病虫害と防除	病虫害の基礎を学習し、防除のための知識を身につける。	病虫害の基礎を解説し、防除の方法、及び実践例を解説したもの。
土壌と肥料	土壌と肥料について、科学的に理解し、経験則とも合わせて活用していくための知識やスキルを身につける。	土壌の生成や構成、肥料の成分やその効果、活用事例を解説したもの。
農業と気象	農業を行う上で重要な気象に関する幅広い知識を身につける。	気象に関する解説と、農業との関わりに関する解説をまとめたもの。気象に関する測定機器等。
バイオテクノロジー	バイオテクノロジーの基礎を学習し、生産や加工、貯蔵、運搬等に活用する	微生物に関する基礎を解説し、それが生産や加工、貯蔵、運搬等に

	ための知識を身につける。	どのように活用できるかを、事例も交えて解説したもの。
食品衛生	食品衛生に関わる法規や、衛生管理に関する知識を身につける。	食品衛生に関する法律の解説や、衛生管理の解説、安全管理の解説をまとめたもの。
農産物流通	農産物の流通システムを理解する。	農産物の流通について、品目別に事例を交えながら解説したもの。
栄養学	農産物に含まれる栄養や、効果的な摂取方法に関する知識を身につける。	栄養素の解説や、農産物に含まれる栄養素、摂取方法の事例等を解説したもの。
農業と食	生産から食卓までの一連の流れを理解し、美味しく食べる方法や安全な農産物・食品を提供するための知識を身につける。	生産、加工、等の段階ごとだけでなく、食品がどのように流れているかを解説したもの。また、美味しく食べるためのディスプレイ方法等も扱う。
作物（選択）	米や雑穀、いも類等の栽培方法に関する知識やスキルを身につける。	品目別の栽培方法やその流れ、解説、品種改良等に関する内容を含むもの。
野菜（選択）	野菜の品目別の栽培方法に関する知識やスキルを身につける。	品目別の栽培方法やその流れの解説、品種改良等に関する内容を含むもの。
果樹（選択）	果樹の品目別の栽培方法に関する知識やスキルを身につける。	品目別の栽培方法やその流れの解説、品種改良等に関する内容を含むもの。
フラワーアレンジメント総合（選択）	花の栽培から商品化までの一連の流れを理解し、フラワーアレンジメントの簡単なスキルを身につける。	品目別の栽培方法やその流れの解説、フラワーデザイン、アレンジメントの方法に関する内容を含むもの。
製菓製パン調理総合（選択）	製菓・製パン・調理に関し、原材料に関する知識を学習し、それをもとにした製菓方法、製パン方法、調理方法を身につける。	原材料の解説から、製菓・製パン・調理のそれぞれでどのように使われるものか、商品開発等の内容を含むもの。

図表 69 農業総合の科目一覧

1.4.4.2 ビジネス基礎の科目一覧

ビジネス基礎には、7科目 360時間を割り振っている。この分野は、本校及び系列校で実際に扱っている科目が多く、本教育プログラムの特徴であり強みでもある。

科目名	科目の概要	教材の概要
情報処理	IT 機器やシステムに関する基本的な知識を備え、業務における課題に対して IT を適切に活用して解決を図る実践力を身につける。IT パスポート試験程度のレベルとする。	IT パスポート試験レベルのテキストや、実際のコンピュータシステム等。
簿記	経理関連書類の読み取りができ、経理事務に必要なレベルの簿記に関する知識やスキルを身につける。日商簿記 3 級程度のレベルとする。	日商簿記 3 級レベルのテキストや問題集等。
販売	小売店舗経営の基本的な仕組みを理解し、商品を販売するために必要な知識やスキルを身につける。販売士 3 級程度のレベルとする。	販売士 3 級レベルのテキストや問題集等。実際に販売実習も行うことを想定している。
マーケティング	マーケティングに関する基本的な知識を学習し、消費者ニーズの掘り起こしやブランディング、プロモーション等のスキルを身につける。	マーケティングの基礎や分析手法等を解説したもの。事例を扱ったもの等。
マネジメント	経営管理に関する基礎知識や、分析手法等を身につける。	経営管理の基礎や分析手法等を解説したもの。事例を扱ったもの等。
コミュニケーション	社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につける。	職場や公共の場等、様々な場面を想定したケーススタディ教材等。
e ビジネス	IT やインターネットを活用した販売や PR の方法を学習する。	IT やインターネットを活用した販売や PR の基礎を解説したものや、それらの事例を扱ったもの等。

図表 70 ビジネス基礎の科目一覧

1.4.4.3 職業とキャリアの科目一覧

職業とキャリアでは、組織の中で働く社会人・職業人が備えていなければならないマイン

ドを身につけることを目標とする。1科目 30 時間で構成される。この分野・科目は、平成 22 年度 文部科学省 産学連携による実践型人材育成事業 ー専門人材の基盤的教育推進プログラムー 「専門的中堅人材の育成に必要な基礎的能力向上教育プログラムの開発と実証」(代表校:学校法人中央情報学園 中央情報専門学校)の事業成果を参考に設定した。

科目名	科目の概要	教材の概要
職業とキャリア	社会人・職業人としての倫理を身につけ、将来のキャリアパスを自ら設定していくために必要な素養やマインドを身につける。	読み物のようなものとし、問題を認識させ、意識を喚起させるもの、考えさせるようなテキスト。

図表 71 職業とキャリアの科目一覧

1.4.4.4 アグリビジネスの科目一覧

アグリビジネスには、2科目 180 時間を割り振っている。6次産業化や農商工連携、ブランド化等の先進事例に学ぶ分野・科目である。

科目名	科目の概要	教材の概要
6次産業化	6次産業化の先進事例に学び、成功するための知識やスキルを身につける。	6次産業化の事例を解説したもの。
アグリビジネス	他分野の科目で学習した知識やスキルを活用し、ブランド化、6次産業化を題材としたグループワークやケーススタディ等で、知識・スキルの定着とレベルアップを図る。	ブランド化、6次産業化を題材としたケーススタディ教材等。

図表 72 アグリビジネスの科目一覧

1.4.4.5 地域の支援の科目一覧

地域の支援には、3科目 135 時間を割り振っている。農業の持つ機能を活用して地域を支援していく方法について学習する。

科目名	科目の概要	教材の概要
農業の地域での役割	集落機能維持や災害対策等、農業の地域での役割を理解し、農業を地域の支援につなげていくための知識を身につける。	農業の持つ集落維持機能や災害対策等の機能を解説したもの。
グリーンツーリズム	農村の自然や景観、農作業等を活用し、都会の人に農村の癒しを与える、非日常的な体験をさせる、等での農村の活性化を図る方法を学習する。	グリーンツーリズムに関する歴史や理論等を解説したもの。
事例実習	農業が地域の支援に活用されている事例をケーススタディ等で学習する。また、現地での実習を行う。	農業の機能やグリーンツーリズムの事例を解説したもの。現場での体験実習も含む。

図表 73 地域の支援の科目一覧

1.4.4.6 一般教養の科目一覧

一般教養には、6科目 90時間を割り振っている。

科目名	科目の概要	教材の概要
社会と経済	社会や経済の仕組みや時事問題に関して基本的な知識を身につける。	社会の動向や経済、時事問題を扱ったもの。新聞等。
法律	社会人として生活していく上で必要な法律の知識を学習する。	生活に近い範囲の法律を扱った書籍等。
英語	会話を中心とした英語によるコミュニケーションスキルを身につける。	英会話のテキスト、CD教材等。
数理計算	職業人として必要な計算スキルを身につける。	生活の中で数理計算を使うことを気付かせるようなもの。
生物と環境	生物に関する基本的な知識や、環境に関する知識、環境問題等を学習する。	生物と環境の関係を解説したもの。
文学	様々な文学に触れ、心を養う。	比較的有名な作家の作品を扱ったもの等。

図表 74 一般教養の科目一覧

1.4.4.7 その他の科目一覧

その他には、他の分野で学習する内容を応用するような科目、及び就職に関する科目を配置した。3科目 300時間を割り振っている。

科目名	科目の概要	教材の概要
卒業論文	学生それぞれが研究テーマを決め、それに関して自由に研究し、卒業論文としてまとめ提出する。	各自の研究テーマによる。
インターンシップ	農業法人等でのインターンシップを行う。学校で学んだ知識やスキルをもとに、農業法人等で働く上での実践力を身につける。	インターンシップ先企業による。
就職準備	ビジネスマナーや企業とのマッチングセミナー等。	ビジネスマナーを解説したものや、企業の用意する資料等。

図表 75 その他の科目一覧

1.5 カリキュラムの補足事項

本事業で構築したカリキュラムは、「1.2 育成すべき人材の検討」でも述べたように、「川中付近に位置し、川上も川下も見渡せるような知識やスキルを持ち合わせている」人材の育成を目指している。そのため、川上に当たる農業の基礎的な内容を一通り備えている。また、川下に当たる食や、マーケティング等のビジネスに関する内容も組み入れた。特に、ビジネス基礎に関する内容は、本校及び系列校の既存のカリキュラムに含まれており、ここが本カリキュラムの強みとなる部分である。

当初は、青年就農給付金制度（準備型）を活用するようなコースの構築も想定していた。しかし、この制度を活用するためには、給付を希望するものが、概ね1年以上、1年につき概ね1,200時間以上の研修を受けることが義務付けられている。今年度の事業は、モデルカリキュラムの一案の構築段階と位置付けており、農業に関連した各方面のニーズをさらに分析してそれらを反映させた明確なカリキュラムを構築することは次年度の課題とした。そのため、今年度構築したカリキュラムは、2年間で1,800時間と無理のない時間数になっている。次年度以降、青年就農給付金制度を活用するような、年間1,200時間以上のコースの構築を目指したい。その際には、本事業の実施委員会に参画している、学校法人九州総合学院九州工科自動車専門学校で実施している農業人材育成科のカリキュラム¹⁹を参考にするなどして、よりカリキュラムを具体化、充実化していく必要がある。

農業総合の分野は900時間と、1年間でも実施できるような時間数に留めている。これによって、他の教育機関で簿記や情報処理等を学習してきた者が、農業の現場を学習して、農業法人等で簿記や情報処理等の知識やスキルを活かすような職に就くためのコース（1年を想定）も設置することができる。また逆に、農業高校や農業大学校等で農業に関する知識やスキルを学習してきた者が、経営管理や情報処理等を身につけるためのコースも設置できるようにしている。このように、農業法人等の多様な人材ニーズに対応することを想定に入れたカリキュラムとなっている。

¹⁹ 社会人を対象に、6か月間、約600時間の研修を行っている。

第2章 実証講座設計

開発した教育プログラムを基に、その教育効果や妥当性を検証するための実証講座の設計を行った。実際の実施は、次年度を予定している。

2.1 実証講座の計画

本事業で開発した教育プログラムは、農業に関する内容（「農業総合」）だけでなく、ビジネスに関する内容（「ビジネス基礎」）や、応用分野である「アグリビジネス」「地域の支援」、組織で働く社会人・職業人が身につけておくべきマインドを扱った「職業とキャリア」等、多彩な分野から構築されている。その中でも特徴であり、強みでもあるものが「ビジネス基礎」の分野である。そこで、本教育プログラムの実証講座としては、ある程度農業に関して学習してきた者に対し、「ビジネス基礎」や応用分野の科目を実施した場合にどれだけの教育効果があるかを中心に検証する。そのため、実証講座としては、「ビジネス基礎」「アグリビジネス」「地域の支援」を中心に構成した。

以下、実証講座の計画である。

- 実施時期

平成 25 年 8 月～10 月頃

- 時間数

18 時間（3 日間）～30 時間（5 日間）程度

- 対象

農業大学校、大学農学部¹の学生、農業高校の生徒、農業法人の若手社員等 30 名程度

●講座構成

	1 日目	2 日目	…	N 日目
1 時限	農業情報処理	実習 ※農業情報処理や簿記、マーケティングで学習した内容が、農業法人での業務にどのように活かされるかを、現場で体験しながら学習する。	2 日目の内容を複数回繰り返す。実施する農業法人を1 日ごとに変更して、比較させるような方法も検討する。	アグリビジネス
2 時限				
3 時限	簿記			
4 時限				
5 時限	マーケティング			
6 時限				

図表 76 実証講座構成案

実施時期を平成 25 年 8 月～10 月頃にしたのは、圃場での農作業を想定してのことである。露地栽培の場合、冬場は作業が少なくなってしまう。但し、施設栽培（植物工場等）を想定するのであれば、冬場でも実施は可能である。

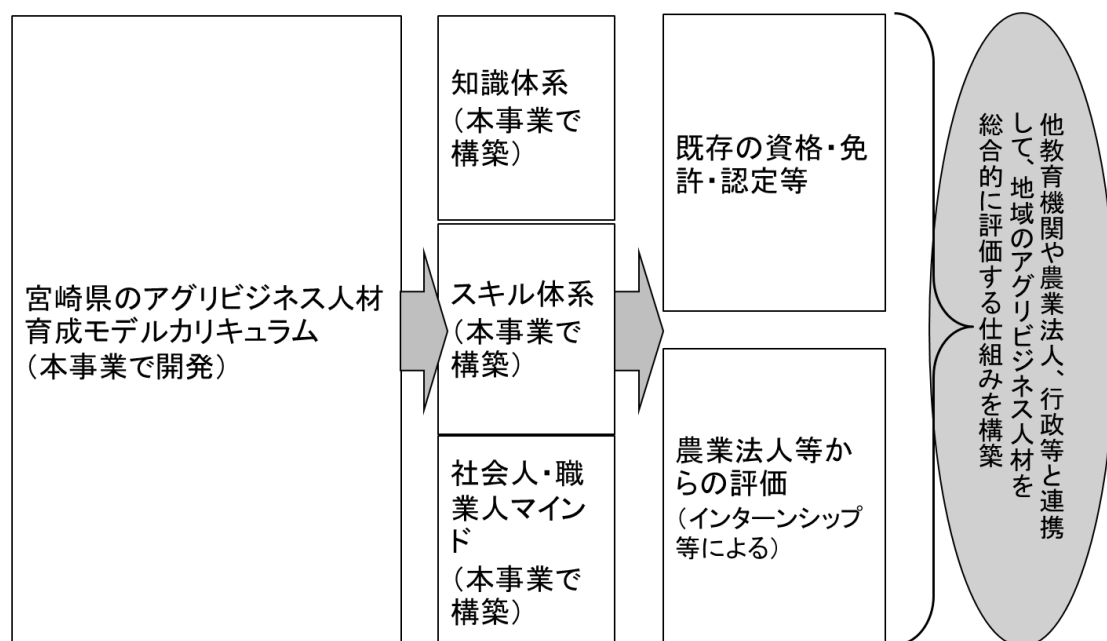
第3章 達成度評価に関する検討

本事業で開発した教育プログラムを基に、達成度評価の手法を検討した。

本事業において構築したカリキュラムは、調査結果を基に構築した知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドから構築したものである。そこで、これらの体系を評価指標に活用する方向で検討した。

具体的には、構築したカリキュラムから、知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインドまで落とし、そこに既存の資格・免許・認定等、及び農業法人等からの評価（インターンシップ等による）を加味して新たな体系を構築する。この過程において、農業大学校や大学、農業高校等の他教育機関、農業法人、行政等と連携し、地域のアグリビジネス人材を総合的に評価する仕組みを構築する。

次年度以降、この方向性に沿ってさらに具体化し、達成度評価の手法、システムの確立を目指したい。



図表 77 達成度評価のイメージ

第4章 成果の普及、次年度以降の課題等

本事業の成果としては、開発した教育プログラム（カリキュラム、知識体系、スキル体系、社会人・職業人マインド）はもちろん、前段に実施した調査の結果も含まれる。全国の農業大学校の現況調査では、各農業大学校のカリキュラムの概要や、学生募集、進路指導上の課題とそれに対する取組事例、他教育機関や農業法人等との連携の取組事例等、大変参考になるデータが揃ったと感じている。また、宮崎県や宮崎市、その関連機関の取組も、実際に効果を上げているものから、最新のものまで情報が集まった。農業法人の調査では、アンケートの回収率は低かったものの、ヒアリングでは大変貴重なご意見をいただけたと考えている。こうした調査の結果を、教育プログラムとともに農業大学校や農業高校、農業法人等へ提供し、人材育成にご活用いただけるよう成果の普及を図っていく。また、調査、特に、農業法人へのヒアリングに関しては、更に多くの企業を訪問し、人材ニーズの掘り起こしや、課題の解決策の検討を行っていききたい。

次年度以降の課題としては、まず、構築したカリキュラムを更に精査し、これを基にした2年間の「アグリビジネス学科」のカリキュラムとして再構築する。その際には、青年就農給付金制度を活用できるようなコースの設置も視野に入れる。また、今年度は選択科目とした「フラワーアレンジメント総合」及び「製菓製パン調理総合」の2科目を基に、必要な科目を追加して、2つの学科のカリキュラムを新たに構築する。1つは、フラワーデザインを主に学習する「フラワービジネス学科」であり、もう1つは、製菓・製パン・調理を主に学習する「フードビジネス学科」である（いずれも仮称）。特に、宮崎県ではフードビジネスに全庁を挙げて取り組む計画が動き始めており、地域の産業振興に貢献する重要な取組になるはずである。

また、構築したカリキュラムで使用する教材も開発する必要がある。さらには、教員の育成モデルも検討する必要がある。

そして、フルタイムで通学するコースの他に、社会人を対象とした、働きながら学べる短期のコースや夜間のコース等、農業人材を目指す者が学びやすい環境を整備することも検討する。

教育内容に関しては、農業大学校や農業高校等、他の農業系教育機関との住み分けが重要な課題となっている。同様のことを多くの教育機関が取り組むよりは、各教育機関である程度担当を分けた上で連携した方が、農業人材の育成には効果的である。次年度以降、教育プログラムの精査とともに、こうした課題にも取り組んでいく。

学生指導や進路指導において、他の教育機関や農業法人等と連携体制を構築することが大変有効であることが、調査の結果からわかる。同時に、それが重要な課題の 1 つでもある。今年度の活動を基に、実施委員会を更に発展させ、入学から就職までを総合的にサポートする体制を整えていく。

また、熊本県や鹿児島県等、他地域への導入も視野に入れ、地域ごとに教育プログラムの最適化を図っていきたい。